

# 京都市内遺跡立会調査報告

平成18年度

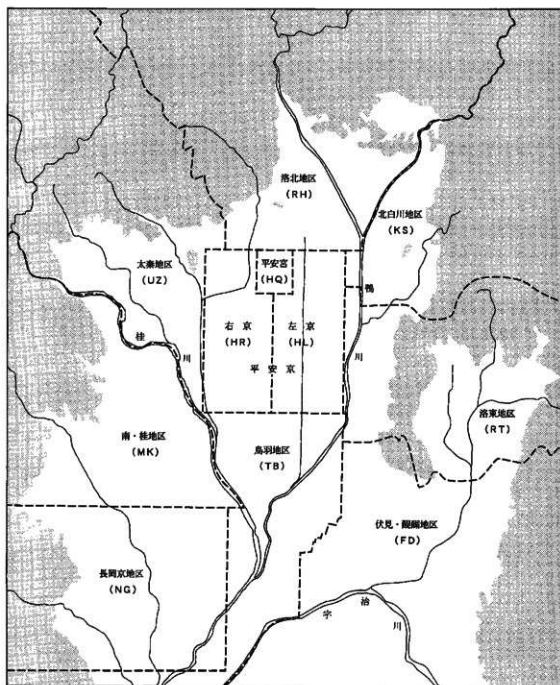
2007年3月

京 都 市 文 化 市 民 局

## 例 言

- 1 本書は、京都市文化市民局が財団法人京都市埋蔵文化財研究所に委託して実施した文化庁国庫補助事業による平成18年度の京都市内遺跡立会調査報告である。
- 2 本書の編集は堀内寛昭、吉本健吾が調整・作成・実務を担当した。
- 3 各報告については文末に執筆者を記した。
- 4 整理作業および本書の作成には、上記の執筆者の他に以下のものが参加した。  
出水みゆき（遺物彩色）、村上 勉（遺物復元）
- 5 本書に使用した写真の撮影は、主に村井伸也・幸明綾子が担当し、遺構の一部は現場担当者が行った。
- 6 本書で使用した土壌名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に準じた。
- 7 個々の調査地での計測値は、宅地の場合は仮の「水準点」をBM±0mとし、道路の場合には現行道路路面を地表面（±0m）としている。II-2の測量基準点のみ京都市遺跡発掘調査基準点を使用した。調査における測量基準点の設置は、宮原健吾が行った。本書中で使用した方位及び座標の数値は、世界測地系 平面直角座標系VIによる。また、標高はT.P.（東京湾平均海面高度）による。
- 8 調査一覧表では各時代の「時代」は省略しており、調査日については簡略に記しているものもある。遺跡名は平安宮・平安京跡については重複する遺跡は省略し、官衙・条坊を優先して明記し、官衙・条坊が複数にまたがるものは代表するものを掲載した。長岡京跡については、官衙・条坊を優先し、複数にまたがるものは代表するものを掲載した。
- 9 本書で使用した地図は京都市発行の都市計画基本図（縮尺1/2,500）を調整し、作成したものである。なお図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。  
図版1～13 1/8,000      図版14～26 1/10,000

## 地区設定概念図



# 本文目次

I	調査概要	1
II	平安京跡	3
1	平安宮朝堂院跡、聚楽遺跡 (06HQ185)	3
2	平安宮朝堂院跡、聚楽遺跡 (06HQ350)	6
3	平安宮梨本跡、聚楽第跡 (06HQ193)	10
4	平安京左京一条三坊十一町 (05HL410)	12
5	平安京左京二条三坊十六町 (05HL58)	14
6	平安京左京三条四坊十二町 (06HL107)	17
7	平安京右京八条二坊十二町 (05HR438)	22
III	その他の遺跡	24
1	植物園北遺跡 (06RH234)	24
2	植物園北遺跡 (06RH253)	30
3	植物園北遺跡 (06RH313)	31
4	植物園北遺跡 (06RH322)	32
5	植物園北遺跡・付章	33
6	嵯峨野高田町遺跡 (05UZ213)	36
7	上終町遺跡 (06KS430)	37
8	法住寺殿跡、六波羅政庁跡、方広寺跡 (06RT409)	38
9	史跡醍醐寺境内 (06FD43)	43
	調査一覧表	47
	報告書抄録	68

# 図 版 目 次

## 図版 1～26 調査位置図

- 図版 1 平安宮
- 図版 2 平安京左京北辺～三条 一・二坊
- 図版 3 平安京左京北辺～三条 三・四坊
- 図版 4 平安京左京 四～六条 一・二坊
- 図版 5 平安京左京 四～六条 三・四坊
- 図版 6 平安京左京 七～九条 一・二坊
- 図版 7 平安京左京 七～九条 三・四坊
- 図版 8 平安京右京北辺～三条 三・四坊
- 図版 9 平安京右京北辺～三条 一・二坊
- 図版 10 平安京右京 四～六条 三・四坊
- 図版 11 平安京右京 四～六条 一・二坊
- 図版 12 平安京右京 七～九条 三・四坊
- 図版 13 平安京右京 七～九条 一・二坊
- 図版 14 伏見城跡・桃陵遺跡・指月城跡
- 図版 15 伏見城跡
- 図版 16 建仁寺境内・高台寺境内（雲居寺跡）・六波羅政庁跡・方広寺跡・法住寺殿跡・法性寺跡
- 図版 17 北白川追分町遺跡・吉田泉殿町遺跡・吉田上大路町遺跡・吉田山遺跡・吉田神社境内・吉田二本松町遺跡・白河街区跡・岡崎遺跡・白河北殿跡・得長寿院跡・尊勝寺跡・成勝寺跡・法勝寺跡
- 図版 18 長岡京跡・東土川遺跡・鶏冠井清水遺跡・久我殿遺跡・久我東町遺跡
- 図版 19 1 御土居跡・紫野斎院跡・上京遺跡・相国寺旧境内・本満寺の構え跡・室町殿跡（花の御所）・聚楽第跡 2 北野烏居前町遺跡 3 御土居跡
- 図版 20 1 嵯峨折戸町遺跡・上ノ段町遺跡・西野町遺跡・多藪町遺跡・嵯峨野高田町遺跡・梅津森原町遺跡 2 山越古墳群 3 村ノ内町遺跡・常盤東ノ町古墳群・森ヶ東瓦窯跡・和泉式部町遺跡
- 図版 21 1 烏羽離宮跡・烏羽遺跡・下烏羽遺跡 2 唐橋遺跡 3 上烏羽遺跡
- 図版 22 1 上里北ノ町遺跡・長岡京跡 2 上久世遺跡・中久世遺跡・下久世溝跡・大藪遺跡

- 図版23 1 植物園北遺跡・御土居跡 2 中臣遺跡・中臣十三塚 3 長岡  
京跡・水垂築山城跡・旧淀城跡・淀城跡
- 図版24 1 八幡古墳群・南ノ庄田瓦窯跡 2 岩倉中在地遺跡 3 大宮北  
山ノ前瓦窯跡 4 御土居跡 5 御土居跡 6 小野瓦窯跡  
7 上終町遺跡・北白川麁寺跡・池田町古墳群 8 月林寺跡
- 図版25 1 円宗寺跡・仁和寺院家跡 2 北野遺跡・北野麁寺跡 3 臨川  
寺境内 4 法興院跡・平安京跡 5 極楽寺跡・深草遺跡 6 深  
草寺跡 7 山科本願寺跡 8 山科本願寺南殿跡・大塚遺跡
- 図版26 1 芝町遺跡 2 小栗栖城跡 3 醍醐寺子院跡 4 史跡醍醐寺  
境内 5 太閤堤・向島城跡 6 太閤堤 7 革嶋館跡 8 福西  
古墳群

### 図版27～38 写真

- 図版27 遺構 平安宮朝堂院跡、聚楽遺跡 (06HQ185)
- 図版28 遺構 1 平安宮朝堂院跡、聚楽遺跡 (06HQ350)  
2 平安京左京二条三坊十六町 (05HL58)
- 図版29 遺構 平安京左京三条四坊十二町 (06HL107)
- 図版30 遺構 植物園北遺跡 (06HR234)
- 図版31 遺構 法住寺殿跡、六波羅政庁跡、方広寺跡 (06RT409)
- 図版32 遺物 1～5 平安宮朝堂院跡、聚楽遺跡 (06HQ185)  
6～11 平安宮朝堂院跡、聚楽遺跡 (06HQ350)
- 図版33～36 遺物 平安京左京三条四坊十二町 (06HL107)
- 図版37 遺物 67～72・77～84 平安京左京三条四坊十二町 (06HL107)  
12 平安京左京一条三坊十一町 (05HL410)
- 図版38 遺物 植物園北遺跡 (06HR234)

# 挿 図 目 次

06HQ185	
図1 調査位置図 .....	3
図2 調査区配置図 .....	3
図3 遺構平面・断面図 .....	4
図4 出土遺物実測・拓影図 .....	5
図5 鵜尾復元図 .....	5
06HQ350	
図6 調査位置図 .....	6
図7 調査区配置図 .....	6
図8 遺構平面・断面図 .....	7
図9 瓦溜6出土軒瓦実測・拓影図 .....	8
図10 鵜尾・軒丸瓦実測・拓影図 .....	9
06HQ193	
図11 調査位置図 .....	10
図12 調査地点位置図 .....	10
図13 堀底部 .....	10
図14 堀跡遺構柱状断面図 .....	11
05HL410	
図15 調査位置図 .....	12
図16 遺構位置図 .....	12
図17 遺構断面図 .....	13
図18 出土遺物実測図 .....	13
05HL58	
図19 調査位置図 .....	14
図20 遺構位置図 .....	14
図21 南北溝平面・断面及び見通し図 .....	15
図22 石垣断面図 .....	15
図23 石垣 .....	16
図24 1741年の絵図 .....	16
06HL107	
図25 調査位置図 .....	17
図26 遺構位置図 .....	17

図27 土壌1 西壁B-B'・北壁A-A'・C-C断面図	18
図28 土壌1 土師器皿出土状況	18
図29 織部陶印実測図	19
図30 刻印のある陶器片	19
図31 土壌1 出土遺物実測・拓影図	20
図32 シイラの骨出土状況	21
<b>05HR438</b>	
図33 調査位置図	22
図34 遺構位置図	22
図35 No.2 地点洲浜	22
図36 No.1・2 地点遺構平面・断面図	23
図37 出土遺物実測図	23
<b>06RH234</b>	
図38 調査位置図	24
図39 調査区配置図	24
図40 遺構平面・断面図	25
図41 竪穴住居断面図	27
図42 出土遺物実測図	28
<b>06RH253</b>	
図43 調査位置図	30
図44 遺構位置図	30
図45 遺構断面図	30
<b>06RH313</b>	
図46 調査位置図	31
図47 遺構位置図	31
図48 遺構断面図	31
<b>06RH322</b>	
図49 調査位置図	32
図50 遺構位置図	32
図51 遺構断面図	32
<b>付章</b>	
図52 植物園北遺跡竪穴住居跡検出地点分布図	34
<b>05UZ213</b>	
図53 調査位置図	36
図54 遺構位置図	36



图55 遺構断面図	36
06KS430	
图56 調査位置図	37
图57 遺構位置図	37
图58 遺構断面図	37
06RT409	
图59 調査位置図	38
图60 調査区配置図	38
图61 遺構平面・断面図	39
图62 出土遺物実測・拓影図	40
图63 出土軒丸瓦	41
图64 出土軒平瓦	41
06FD43	
图65 調査位置図	43
图66 No.8地点整地層	43
图67 No.15地点焼土塊	43
图68 上醍醐西地区調査位置及び遺物実測・拓影図	44
图69 上醍醐東地区調査位置・遺構断面及び遺物実測図	45
图70 五大堂基壇断面	46

## 表 目 次

表1 立会調査件数	1
表2 竪穴住居跡検出一覧	33

# I 調査概要

本報告は京都市文化市民局が(財)京都市埋蔵文化財研究所へ委託して実施した、文化庁国庫補助事業に伴う平成18年度の京都市内遺跡立会調査概要報告書である。本書では平成18年1月4日から3月31日までの平成17年度分と、同年4月3日から12月28日までの平成18年度分を合わせて報告する。調査件数は551件であり、平成17年度分が132件、平成18年度分が326件である。京都市内を便宜的に地区分けした調査件数は下表のとおりである(表1)

表1 立会調査件数

地 区	17年度1~3月	18年度4~12月	小計	地 区	17年度1~3月	18年度4~12月	小計
平安宮 (HQ)	14	68	82	洛東地区 (RT)	15	37	52
平安京左京 (HL)	32	103	135	烏羽地区 (TB)	13	17	30
平安京右京 (HR)	16	71	87	伏見・醍醐地区 (FD)	8	24	32
洛北地区 (RH)	11	34	45	長岡京地区 (NG)	6	13	19
太秦地区 (UZ)	6	12	18	南・桂地区 (MK)	5	17	22
北白川地区 (KS)	6	23	29	合 計	132	419	551

本年の立会調査の件数は551件であり、昨年の438件より100件以上増加している。立会調査の件数が500件台であったのは1997年以来的ことである。件数の増大に伴い本文の報告も15件と前年、前々年の5件から三倍に増加している。以下各地区の概要を述べる。

**平安宮 (HQ)** 宮域では、朝堂院跡、聚楽遺跡 (06HQ185、06HQ350) と梨本跡、聚楽第跡 (06HQ193) の3件の概要を報告する。他には内舎人跡 (06HQ320) で平安時代中期の包含層を検出している。

**平安京左京 (HL)** 左京城では、一条三坊十一町 (05HL410)、二条三坊十六町 (05HL58) と三条四坊十二町 (06HL107) の3件の概要を報告する。平安時代の遺構を検出した調査地は二条四坊三町 (06HL284) 他12箇所を数える。七条四坊四町 (05HL377) では、中期から末期の遺物を含む池跡と考えられる湿地状堆積を検出している。他に時期の確定はできないが烏丸小路東側溝を、七条三坊十五町 (05HL389) で検出している。

**平安京右京 (HR)** 右京城では、八条二坊十二町 (05HR438) で平安時代中期の池跡を検出したので報告する。他に平安時代の遺構は一条二坊九町 (05HR303)、三条一坊七町 (06HR299)、三条一坊十一町 (06HR252)、五条二坊九町 (06HR34)、五条四坊十三町 (06HR14)、六条一坊九町 (06HR302)、六条二坊三町 (06HR130)、七条二坊十四町 (06HR226) で検出した。

**洛北地区 (RH)** 御土居跡、紫野斎院跡、上京遺跡、相国寺旧境内、室町殿跡(花の御所)、本満寺の構え跡、聚楽第跡、北野烏居前町遺跡、植物園北遺跡、岩倉中在地遺跡、南ノ庄田瓦窯跡、八幡古墳群、大宮北山ノ前瓦窯跡、北野鹿寺跡、北野遺跡の15箇所の遺跡で調査を行った。植物園北遺跡 (06RH234、06RH253、06RH313、06RH322) では古墳時代の竪穴住居跡を4箇

所で検出したので報告する。上京遺跡では平安時代後期と鎌倉時代中期の包含層（06RH13）と室町時代後期の包含層（05RH415）を検出している。植物園北遺跡（06RH352）では鎌倉時代末期～室町時代初期の包含層を検出した。北野鳥居前町遺跡（05RH362）では室町時代中期の包含層を検出している。

太秦地区（UZ） 嵯峨折戸町遺跡、上ノ段町遺跡、多藪町遺跡、西野町遺跡、嵯峨野高田町遺跡、梅津原町遺跡、常盤東ノ町古墳群、村ノ内町遺跡、森ヶ東瓦窯跡、和泉式部町遺跡、円宗寺後、仁和寺院家跡、臨川寺境内の13箇所の遺跡で調査を行った。嵯峨野高田町遺跡（05UZ213）で竪穴住居跡と考えられる落込を検出したので報告する。臨川寺境内（06UZ96）では室町時代中期から後期の落込を検出している。

北白川地区（KS） 北白川追分町遺跡、吉田泉殿町遺跡、吉田上大路町遺跡、吉田二本松町遺跡、吉田山遺跡、吉田神社境内、白河街区跡（得長寿院跡、法勝寺跡、白河北殿）、岡崎遺跡、小野瓦窯跡、上終町遺跡、北白川廃寺跡、池田町古墳群、月林寺跡の16箇所の遺跡で調査を行った。上終町遺跡（06KS430）では古墳時代の竪穴住居跡を検出したので報告する。白河街区跡では平安時代末期の包含層（05KS442）と室町時代末期の土壌、包含層（06KS410）を検出している。

洛東地区（RT） 建仁寺境内、高台寺境内（雲居寺跡）、六波羅政庁跡、法住寺殿跡、方広寺跡、法性寺跡、中臣遺跡、中臣十三塚、法興院跡、山科本願寺跡、山科本願寺南殿跡、大塚遺跡、芝町遺跡の13箇所の遺跡で調査を行った。法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡（06RT409）では鎌倉時代の溝、土壌を検出したので報告する。六波羅政庁跡（05RT350）では鎌倉時代後期と室町時代の包含層を検出した。法性寺跡（05RT371）では平安時代末期から鎌倉時代の包含層を検出した。山科本願寺跡（06RT21）では、山科本願寺に関連する室町時代末期の整地層を検出した。

鳥羽地区（TB） 久我殿遺跡、久我東町遺跡、鳥羽艦宮跡、鳥羽遺跡、下鳥羽遺跡、唐橋遺跡、上鳥羽遺跡、深草遺跡の8箇所の遺跡で調査を行った。今回は概要報告を行うような成果は得られなかった。

伏見・醍醐地区（FD） 伏見城跡、桃陵遺跡、指月城跡、極楽寺跡、深草寺跡、醍醐寺子院跡、史跡醍醐寺境内、向島城跡、太閤堤の9箇所の遺跡で調査を行った。史跡・醍醐寺境内（06FD43）の概要を報告する。

長岡京地区（NG） 長岡京跡、東土川遺跡、鷄冠井清水遺跡、水垂築山城跡の4箇所の遺跡で調査を行った。左京七条四坊八町（06NG40）で古墳時代の包含層を検出した。また右京北辺四坊十四町（05NG380）では鎌倉時代の土壌を検出している。

南・桂地区（MK） 上里北ノ町遺跡、上久世遺跡、大藪遺跡、中久世遺跡、下久世遺跡、革嶋館跡、福西古墳群の7箇所の遺跡でそれぞれ調査を行ったが、概要報告を行うような成果は得られなかった。

（吉本健吾）

## II 平安京跡

### 1 平安宮朝堂院跡、聚楽遺跡 (06HQ185)

#### 調査経過 (図1)

上京区千本通下立売下る小山町871-3にテナントビルを新築することになった。当地は、平安宮朝堂院の正殿である大極殿跡の近接地と推定されており、工事に先立って調査を実施することとなった。大極殿跡は1994年に実施した立会調査で基壇土を、同じく1994年の試掘調査で基壇南縁を確認しているものの検出例が極めて乏しい。

調査対象地は約60m<sup>2</sup>の面積であったが、ここに約40m<sup>2</sup>の調査区を設定した。調査は重機掘削から開始した。ところが調査区の北側に攪乱墳が認められ、調査区の半分以上が既に削平されていることが判明した。残された部分で精査を行い、平安時代のものと思われる整地層を確認し、この上面で柱穴、瓦溜などを検出した。しかし、遺構はいずれも近世のもので、平安時代の遺構は確認できなかった。

#### 遺構 (図版27、図2・3)

調査区の基本層序は地表面から約0.1~0.2mが近現代の盛土であり、その下に褐色砂泥層がある。これは平安時代の整地層と見られ、厚さは不均衡である。その下層には灰黄褐色を主体とした砂礫層が0.6m~0.7m堆積する。この層は地山と見られ、朝堂院北面回廊推定地で今年2月に実施した調査で、遺構のベースとなっていた砂礫層と同じものであると推定できる。その下は褐色粘質土のいわゆる聚楽土が堆積している。

遺構としては柱穴、瓦溜などを褐色砂泥層の上面で検出した。いずれも近世のもので、調査面積が狭小であるために、建物などとしてまとめることはできなかった。上述したとおり平安時代の遺構は検出できなかった。

#### 遺物 (図版32-1~5、図4・5)

出土した遺物には近世の土器類と平安時代の瓦類があり、瓦類がその大半を占める。



図1 調査位置図 (1:5,000)

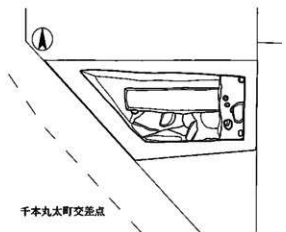


図2 調査区配置図 (1:500)

平安時代の瓦類は上述した近世の瓦溜から出土したもので、丸瓦、平瓦、軒平、軒丸瓦がある。丸瓦の軒瓦と丸瓦の多くと平瓦一部には緑釉が施されている。この他に、鬼瓦や鷗尾と見られる破片があり、これには緑と褐色の釉薬が認められ、三彩であった可能性が強い。

図4は瓦溜出土の瓦類である。(1)は緑釉軒丸瓦で、珠文帯と外縁の部分の破片である。胎土は淡黄灰色で、5mm大の小石や砂粒を多く含む。表面の緑釉は黄緑色で、焼成は軟質である。瓦当文様は緑釉製品であることとその形状から『平安京古瓦図録』49と同范と考えられる。(2・3)は緑釉均整唐草文軒平瓦である。いずれも胎土は淡黄灰色で、0.5cm大の小石や砂粒を多く含む。表面の緑釉は(2)が緑色で、(3)が黄緑色で、焼成は軟質である。瓦当文様は『平安京古瓦図録』317と同范と考えられる。(2)の左上端の珠文は外縁に向かって、その下の珠文は界線に向かってそれぞれ範傷がみられる。

(4)は鷗尾の破片である。長辺約8.7cm、短辺約4.6cmと小破片である。胎土は淡灰黄色で精良である。表面には三彩が施されている。焼成は軟質である。凸面はヘラ状の工具で、条痕を施している。2000年の上ノ庄田瓦窯跡の発掘調査で出土した鷗尾の破片から類推して、鷗尾の側面に表された鳳凰の後頭部の羽根の部分と考えられる(図5)。

(5)は鬼瓦の破片である。長辺約12.7cm、短辺約4.3cmの緩やかな「S」字を描き山脈状に続き、山の鈍角な斜面の方は平坦な面を形成しているが、鋭角な斜面側には棒の先の様な部分で斜め方向から突いて多数の凹凸を形成している。胎土は淡灰黄色で精良である。表面には三彩が施され、焼成は軟質である。類例の確認はできていないが鬼の眉の部分ではないかと考えている。

#### まとめ

調査では大極殿関連の遺構のみならず、平安時代の遺構も検出できなかった。しかしながら、灰黄褐色砂礫層とその上に平安時代の整地層とみられる褐色粘質土層を検出したことは、今年2月に実施した朝堂院北面回廊推定地の調査成果とあわせて、朝堂院周辺の土層関係を把握する上で、大きな成果となった。

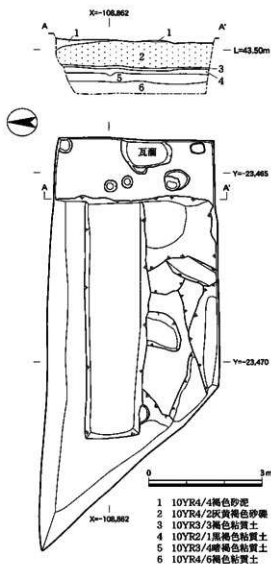


図3 遺構平面・断面図(1:100)

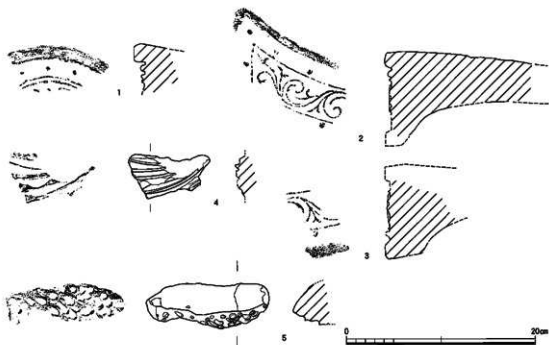


図4 出土遺物実測・拓影図(1:4)

また、検出した瓦溜は、近世のものであったが、出土した瓦の大半は平安時代のものであり、その中に多数の緑釉瓦や三彩の鬼瓦・鵺尾などの破片が含まれていた。これらの瓦は位置的に見て大極殿に葺かれていたものとみられ、大極殿の屋根に葺かれた瓦の実態を示す資料として注目される。

(吉崎 伸・吉本 健吾)

註1 鈴木久男「1平安宮朝堂院跡」『平成6年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年

註2 伊藤潔「2平安宮朝堂院跡～内蔵寮」『平成6年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年

註3 平安博物館編『平安京古瓦図録』雄山閣 1977年

註4 南孝雄「12上ノ庄田瓦窯跡」『平成12年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2003年

註5 『木村捷三郎収集瓦図録』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年

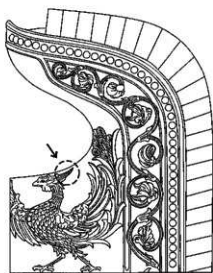


図5 鵺尾復元図(註5を一部改変)

## 2 平安宮朝堂院跡、聚楽遺跡 (06HQ350)

### 調査経過 (図6)

上京区下立充通千本東入下る中務町491番72の住宅新築工事に伴う遺跡の確認調査である。条坊復元では平安宮朝堂院大極殿東回廊の東辺部に位置する。工事の掘削深は浅いが、部分的に地盤改良が予定されており、調査を行うこととなった。

調査は2006年10月24日から31日まで行った。調査の結果、大極殿東回廊に直接関連する遺構は検出できなかったが、調査区南半で平安時代中期頃の瓦溜のほか、聚楽第に関連すると思われる堀跡、江戸時代の井戸等を検出した。

調査面積は約42㎡である。

### 遺構 (図版28-1、図7・8)

調査地の層序は、基本的に地表下-20cmまでが現代盛土で、その下にいわれる聚楽土と称される地山層となる。なお、調査区の北壁では、10~20cm程度の平安時代の整地と考えられる暗褐色砂泥層がみられ、東壁の南半では江戸時代後半以降の整地層が観察されたが、どちらも調査区内に面的な拡がりはなく、削平を受けたものか限定的なものと思われた。遺構はいずれも

地山を切り込んで検出しており、北に隣接する民家の地表面が約1.2m高いことなどを考慮すると、桃山時代から江戸時代の間宅地の平坦面を確保するために広範囲に整地されたものと推定できる。

次に検出した遺構を時代順に記述する。

土壇2~4は、いずれも直径約1.5m程度の楕円状を呈し、平安時代の瓦類のほか江戸時代以降の陶磁器片が含まれていた。井戸5は調査区の中央東寄りで検出した。約1.5m掘り下げたが石組などの井筒はなく、抜き取られたものと思われる。掘り内から平安時代の瓦類以外に18世紀代の陶磁器類が少量出土している。

溝1は検出面で幅約3mを測る東西溝である。排土置場の関係で完掘できなかったが、断面観察のため掘り下げた東壁付近では深さ約1.8mあり、両壁がほぼ垂直に立ち上がる箱形を呈する。上層の埋土には19世紀前半代の陶磁器類を中心に、江戸時代の比較的幅広い年代の遺物が多く含



図6 調査位置図 (1:5,000)

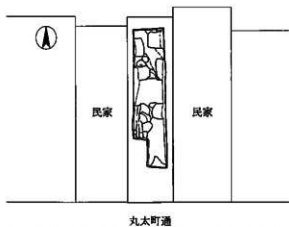
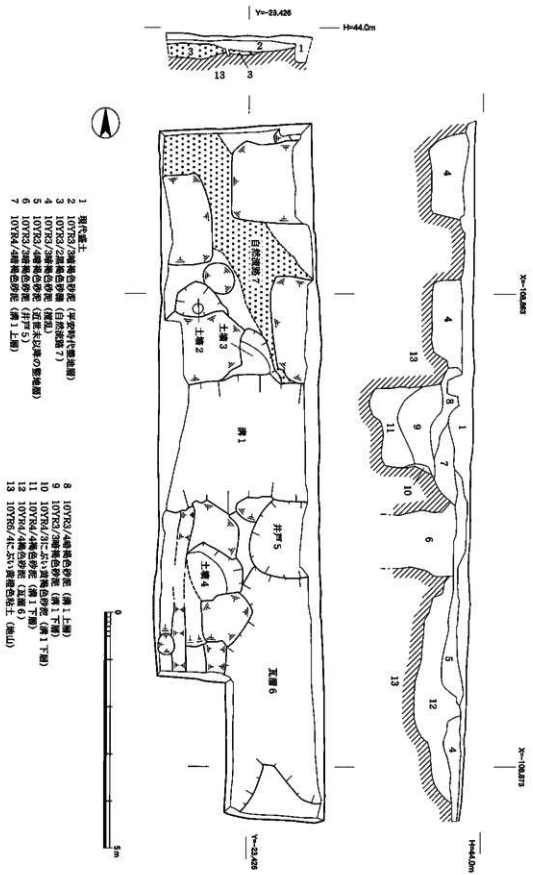


図7 調査区配置図 (1:400)



- 1 現代遺土
- 2 10YR3/2 褐色砂泥 (平安時代遺物)
- 3 10YR3/2 褐色砂泥 (自然路7)
- 4 10YR3/2 褐色砂泥 (層Ⅱ)
- 5 10YR3/4 褐色砂泥 (近世木以蓮の影響層)
- 6 10YR4/3 褐色砂泥 (層Ⅰ上層)
- 7 10YR4/4 褐色砂泥 (層Ⅰ上層)

- 8 10YR3/4 褐色砂泥 (層Ⅰ上層)
- 9 10YR3/2 褐色砂泥 (層Ⅰ下層)
- 10 10YR4/3 に近い褐色砂泥 (層Ⅰ下層)
- 11 10YR4/4 褐色砂泥 (層Ⅰ下層)
- 12 10YR4/4 褐色砂泥 (竪穴6)
- 13 10YR6/4 に近い褐色粘土 (築山)

図8 竪穴6・土坑群の平面図 (1:80)



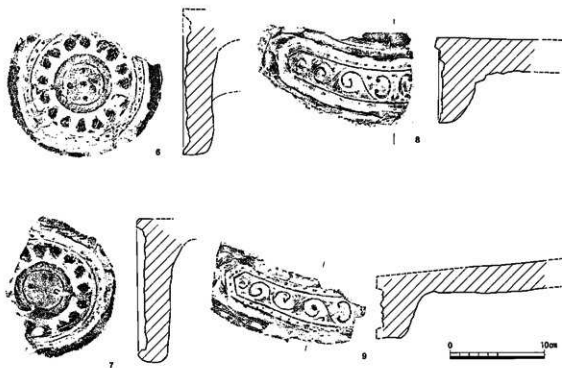


図9 瓦溜6出土軒瓦実測・拓影図(1:4)

まれていたが、下層には平安時代の瓦類しか出土しておらず、水が滞留した痕跡などはない。時代の判る明確な出土遺物はないが、このような大規模な溝が構築される契機は衆楽第に関連する施設が想定される。衆楽第の廃絶以降に埋め戻され、埋土が沈下した上層部をゴミ廃棄に利用されたものと考えられる。

瓦溜6は、調査区南半に広範囲に拡がり平面は不定形を呈する。断面観察のため掘り下げた東壁付近では、検出面から最深部で約1mある。瓦以外の出土遺物がなく時期は不明である。

自然流路7は、調査区の北西から南東方向へ延びる。上面は削平を受けているとおもわれるが、残存する幅は約1.5m、深さは約0.3mである。北壁では平安時代の整地層下で検出しているが、出土遺物がなく時期は不明である。

#### 遺物(図版32-6~11、図9・10)

出土遺物は整理箱で4箱ある。なお、瓦溜6を中心に近・現代の盛土などに多量に含まれていた瓦類は軒瓦・緑釉瓦以外はサンプル採集に留めた。瓦以外の出土遺物には、溝1・井戸5などから出土した江戸時代の土器・陶磁器類があるが、特筆すべきものはない。

図9は瓦溜6出土の軒瓦類である。(6・7)は複弁八葉蓮華文軒丸瓦で、いずれも胎土は灰白色で、砂粒を含む。表面は灰黒色で、焼成は軟質である。(8・9)は均整唐草文軒平瓦である。いずれも胎土にやや粗い砂粒を少し含むが、比較的精良で灰白色である。(8)の表面は灰黒色で、焼成はやや軟質である。(9)の表面は灰色で焼成はやや硬質である。凹面には瓦当面直上まで布目圧痕が残り、凸面は瓦当裏は横方向、その他は縦方向の縄目タタキを施している。軒丸・軒平瓦とも亀岡市を中心にした旧丹波地方の瓦窯で、11世紀から12世紀前半にかけて生産された製品

とされている。<sup>11</sup>

図10は調査区東壁の近世整地層で検出した鴟尾瓦と、井戸5の埋土中に含まれていた軒丸瓦片である。鴟尾(10)は長辺約15cm、短辺約13cm、最大の厚さ約8.5cmの小破片である。胎土はやや赤味のある灰黄色で砂粒を少量含み、その中には1cm程度の扁平な石片も混じる。表面は灰色から灰黒色の斑を呈しており、緑

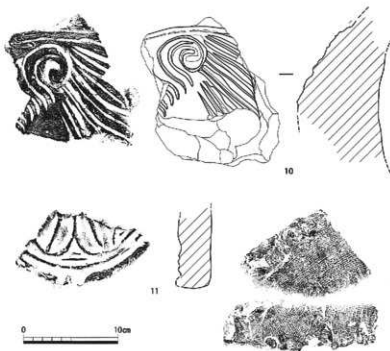


図10 鴟尾・軒丸瓦実測・拓影図(1:4)

釉などの上釉の痕跡はない。焼成は全体にやや柔らかいが、凹面側がより軟質である。凸面はヘラ状の工具で、条痕を施し中央には反時計回りの巴様の文を施している。いずれも鳳凰の羽根を表現したものと推定される。凹面はタタキのち雑なナデで調整されるが、表面は摩滅している。小破片のため部位を定めにくいだが、上庄田瓦窯跡収集の鴟尾復原図を参考にすれば、鳳凰の左胸周辺である可能性が高い。(11)の軒丸瓦は残存部が1/4に満たないが、直径は約18cmに復元できる。瓦当面は断面三角形の稜線で、蓮華文を素弁にし、外区には同じく断面三角形の稜線で、圈線が巡る。間弁は二条の稜線で表現されている。裏面から下顎周縁まで、連続する布目圧痕が明瞭で、いわゆる「一本造り」の軒丸瓦である可能性が高い。平安宮及びその周辺を含めて類品の出土例がなく、製作年代はよくわからないが、他の出土瓦と同様に平安時代中期以降と推定しておく。

#### まとめ

今回の調査では、大極殿東回廊に関連する遺構は検出されなかった。同じ大極殿の北回廊基礎が検出された1984年度の調査では、検出面の標高が約44.5mであり今回の調査地より1m程度高く、前述の調査区内の削平による段差が反映したものと推定される。

東西方向に延びる溝1は、その規模と形状から聚楽第に関連する遺構と推定したが、二条城や京都所司代など、桃山・江戸時代初期の遺跡との関連についても今後の検討が必要であろう。

(能芝 勉)

註1 平安博物館編『平安京古瓦図録』 雄山閣 1977年

註2 『木村捷三郎収集瓦図録』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年

註3 『平安宮』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第13冊』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1995年

### 3 平安宮梨本跡、聚楽第跡 (06HQ193)

#### 調査経過 (図11)

上京区の智恵光院通下長者交差点上るから中立売通智恵光院交差点を経て中立売通堀川に至る下水道工事に伴う調査である。工事は智恵光院通下長者交差点上る(西辰巳町、辰巳児童公園内)に立て坑を掘削し、それ以外は全て推進掘削工事を行うので堅坑の部分のみを調査対象とした。調査地は平安宮梨本に推定され、また聚楽第跡の範囲にあたる。特に聚楽第の本丸南堀の推定地にあまっている。

調査地付近では、1986年と同じ辰巳児童公園内を試掘調査し室町時代後半の遺物を含む大規模な掘込が検出されている。

立て坑は地表下-18.5mまで掘削を行い、数回に渡って順次掘り下げていく工法で、その度に調査を行った。2006年7月21日から10月30日まで4回の立会調査を行い(1回目は立て坑掘削事前の配管移設の掘削工事で、立て坑に伴う調査は3回である)、聚楽第の堀と考えられる湿地状堆積を検出した。

#### 遺構 (図12~14)

断面観察は3回に分れ、1回目(No.1地点)で地表から-2.1mまでを確認し、-1.4mで江戸中期の遺物包含層を検出した。2回目(No.2地点)は-2.7mから-4.7mまでを確認し、泥土及び粘質の砂泥の湿地状堆積を検出した。3回目(No.3地点)は-6.4mから-6.95mまでを確認し、泥土が-6.65mまで堆積し、-6.65mで厚さ0.02mの暗オリーブ細砂層、-6.67mで厚さ0.03mの



図11 調査位置図 (1:5,000)



図12 調査地点位置図 (1:500)



図13 堀底部 (西から)

堅く締った明褐色砂泥層を検出した。-6.7m以下はオリブ黄色砂礫の地山を検出した。この地点に関しては残存部分が少なく、幅は東西に2～3m確認しただけであるが、堅く締った明褐色砂泥層の上面は均一な平坦面であった。

-2.7m～-6.65mの間で検出した湿地状堆積（-4.7m～-6.4m間は確認できていない）は、遺物は確認できていないが、南堀の推定地内ということ考えると、この湿地状堆積と下層の暗オリブ細砂層が堀の埋土と考えられ、また均一な平坦面を持つ明褐色砂泥層が堀の底部を形成している層と考えられる。

#### まとめ

聚楽第の堀に関連する遺構は多数検出されている<sup>11</sup>。しかし、堀の底部を確認しているのは1991年の本丸東北角の発掘調査時のボーリング調査で地表下-8.4mで底部を確認したのみである。底部の断面観察ができたのは、今回の調査が初めてである。

（吉本 健吾）

註1 馬瀬智光「聚楽第の復元」『古代文化』第57巻 第2号（財）古代学協会 2005年

註2 小森俊寛「平安宮梨本」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1989年

註3 森島康雄「平安京跡（聚楽第跡）発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 1993年

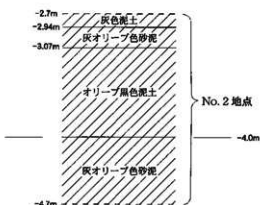
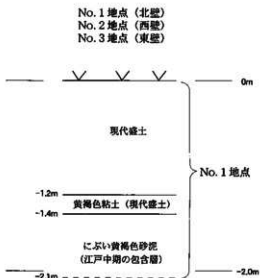


図14 堀跡遺構柱状断面図（1：40）

## 4 平安京左京一条三坊十一町 (05HL410)

### 調査経過 (図15)

上京区烏丸通丸太町上る春日町から烏丸通出  
水下の桜鶴園町に至る電線共同溝設置に伴うガ  
ス低圧管移設工事の立会調査である。掘削工事  
箇所は烏丸通西側歩道にあたり、条坊復元の左  
京一条三坊十一・十二町、二条三坊九町に位置  
する。また古墳時代後期から飛鳥時代の竪穴住  
居跡が出土している烏丸丸太町遺跡や織田信長  
が築城した旧二条城跡の範囲内にあたる。

調査は2006年2月22日から5月18日まで行  
いNo.1地点で水琴窟跡とそれに使用された江  
戸時代後期の焼締陶器壺を検出した。

### 遺構 (図16・17)

No.1地点の基本層序は地表下-0.3mで焼土  
を含む暗赤褐色砂泥層、-0.48mで厚さ0.32mの  
暗赤褐色の焼土層が堆積している。水琴窟跡は-  
0.8mから掘削深-1.1mの間で検出した。立会調  
査時には水琴窟に使用された壺が据えられた部  
分は工事により削平を受け、壺は破壊され破片  
が散乱している状態であった。No.1地点の断  
面は据えられた壺の西側の部分にあたり、壺を  
据付けるための裏込めとして直径0.05m大から  
0.1m大の石で固めている。この裏込めの規模は  
確認できなかった。

### 遺物 (図版37-12、図18)

図18は水琴窟として使用されていた丹波焼の  
中型壺である。口縁端部は外側に肥厚し、上面  
には1条の沈線が巡る。内面外面体部上半にはロクロ目が残り、肩に2個の不遊環を貼付ける。  
焼成は堅緻で、外面上半と内面底部には薄く被灰がみられる。底部には水琴窟に転用するために  
4cm程の穿孔がある。

近世の丹波焼については、窯跡や消費地遺跡の出土品をもとにした研究が進んでいる<sup>B1</sup>。それによ  
ると口縁部の形態などから、18世紀後半から19世紀初頭に位置づけできる。

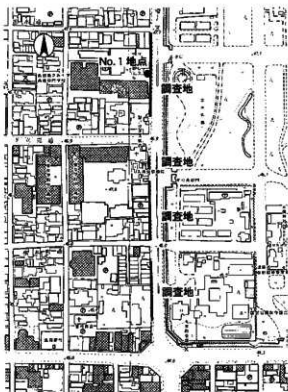


図15 調査位置図 (1:5,000)

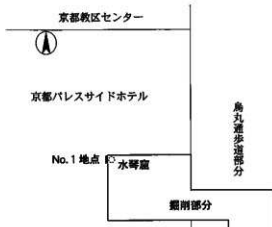


図16 遺構位置図 (1:100)

## まとめ

今回の調査で検出した水琴窟は、通例蹲踞などの付帯施設として構築されることが多い。蹲踞は手水鉢を中心に、台石・水返しなどを漆喰で構築した配水施設で、江戸時代中期以降の中庭などの庭園施設の一部としてよく設置されている。

今回の調査では、水琴窟として利用された甕以外の施設は検出できなかったが、京都市内では伏見奉行所跡地で、江戸時代後期から明治時代初期頃の遺存状態の良い蹲踞が検出されてい

る<sup>註2</sup>。同じ伏見城下の町家跡から江戸時代中期の水琴窟が見つかった<sup>註3</sup>。全国的にみると江戸遺跡、名古屋城下跡、兵庫県伊丹郷町遺跡などで報告例がある。

水琴窟として利用される甕は、その地方で比較的入手しやすい産地の製品がほとんどで、京域では信楽や丹波産の甕が転用されることが多い。全国的にみても調査事例はまだ少ないが、江戸遺跡の例では常滑産の甕が焼成前に底部穿孔されており、水琴窟専用器があったことがわかる<sup>註4</sup>。水琴窟は都市部を中心に、庭の施設としてかなり普及していたと思われる。単なる配水施設から水滴共鳴音を鑑賞する施設へ発展した経緯がうかがえる。

(能芝 勉・吉本 健吾)

- 註1 川口宏海「近世丹波焼の時期変遷について」『近世信楽焼をめくって』関西陶磁史研究会 2001年  
長谷川眞「甕類にみる近世丹波焼」『関西近世考古学研究Ⅻ』関西近世考古学研究会 2004年
- 註2 『伏見奉行所発掘調査報告Ⅱ－桃陵団地立て替え工事に伴う埋蔵文化財調査－』京都市住宅局・伏見城研究会 1997年
- 註3 「伏見城跡2」『昭和63年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 註4 調査担当の成瀬晃司氏に御教示いただいた。「医学部附属病院第2中央診療棟地点」『東京大学構内遺跡調査研究年報4』東京大学埋蔵文化財調査室 2004年

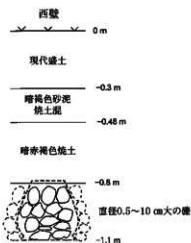


図17 遺構断面図 (1:20)

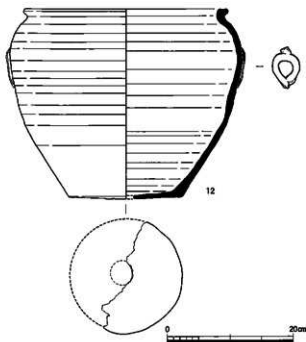


図18 出土遺物実測図 (1:6)

## 5 平安京左京二条三坊十六町 (05HL58)

### 調査経過 (図19)

上京区京都御苑3の環境庁自然保護局京都御苑管理事務所における旧閑院宮邸改修事に伴う電気設備工事の立会調査である。掘削工事箇所は京都御苑管理事務所内の北側から東御門にかけてと東御門の前の南北道路約60mの区間と旧閑院宮邸の南側の数箇所のピット堀の地点である。

条坊復元では左京二条三坊十六町に位置し、古墳時代後期から飛鳥時代の竪穴住居跡が出土している烏丸丸太町遺跡、そして旧閑院宮邸が現存しているので分かるように江戸時代後期から明治時代にかけて存在した閑院宮邸宅内に位置する。ここでは2001年以降、毎年立会調査を行っており、室町時代の包含層<sup>図1</sup>、江戸時代の包含層<sup>図2</sup>を検出している。また2004年には旧閑院宮邸跡庭園整備事業に伴う試掘調査で江戸時代の池跡の変遷を確認している。

調査は2005年5月9日から2006年4月6日まで行い、江戸時代後期の石組の南北溝と東西方向の石垣を検出した。

### 遺構 (図版28-2、図20~23)

石組南北溝は、旧閑院宮邸の南側のピット堀の地点で検出した。ピットは一辺約2mの方形でその北壁で断面を確認した。基本層序は標高44.14mまで現代盛土層、44.0mまでが焼土を多量に含む整地層、43.4mまでが19世紀の焼け瓦、焼土を多量に含む層となり、以下掘削深の42.93mまでの間で石組の南北溝の遺構を検出した。

石組の南北溝は南北1.45mに渡って検出した。溝の幅は0.7mで検出深が0.46mである。側壁は石組で垂直に立ち上げている。検出時には工事



図19 調査位置図 (1 : 5,000)

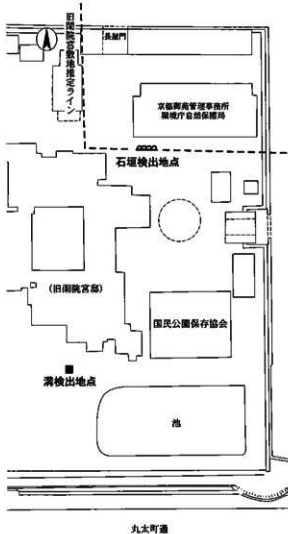
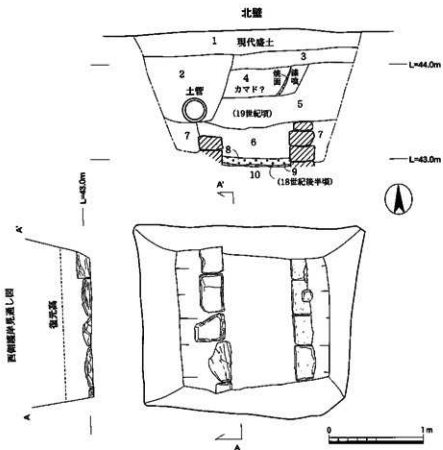
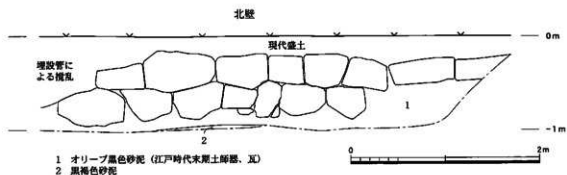


図20 遺構位置図 (1 : 1,000)



- |                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| 1 2.5Y3/1黒褐色粘質土                       | 7 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土<br>(炭、焼土塊を多く含む)                |
| 2 10YR3/3暗褐色砂質土<br>(礫、焼瓦、花崗岩、焼土を少量含む) | 8 7.5YR6/6橙色砂質土<br>(炭を多く含む)                       |
| 3 10YR3/2黒褐色粘質土<br>(礫、炭、焼土塊を少量含む)     | 9 10YR3/3暗褐色砂質土<br>(炭、焼土塊を少量含む)                   |
| 4 5YR5/6明赤褐色砂質土<br>(炭、瓦を多く含む)         | 10 10YR3/2黒褐色粘質土<br>(礫を多く含む、焼土塊を少量含む<br>古い層、溝の底部) |
| 5 7.5YR4/3褐色砂質土<br>(炭、焼土塊、焼瓦を多く含む)    |   |
| 6 10YR4/2灰黄褐色粘質土<br>(炭、焼土、礫を多く含む)     |   |

図21 南北溝平面・断面及び見通し図 (1:40)



- 埋設管による擾乱
- 1 オリーブ黒色砂泥 (江戸時代末期土師器、3D)  
2 黒褐色砂泥

図22 石垣断面図 (1:40)



掘削により1段目の石組しか確認できなかったが、断面では西側で2段、東側で4段を確認している。石は長さ約0.3mから0.4m、幅約0.2m、厚さ0.15m大の長方形のものを使用している。溝底面は固く締った黒褐色粘質土で形成されている。溝底の埋土である焼土層からは18世紀後半の施軸陶器、染付が出土している。



図23 石垣 (南から)

またこの南北溝の上層標高43.4mで19世紀の焼け瓦、焼土を多量に含む層を切って幅0.65m

以上、深さ0.3mの落込の東肩を検出した。肩部には厚さ0.18mの漆喰が施され、その内面は焼けているのでカマドの様なものがあったと考えられる。

東西方向の石垣は、京都御苑管理事務所前の東西方向の管路掘削工事で、掘削に平行して北壁断面で検出した。石垣は地表下-0.14mの現代盛土直下から-0.9mまで東西約4.8mに渡って確認した。石は縦0.4m、横0.8mを最大にしてほぼ垂直に2段に積み上げているのを確認した。石垣の下層からは19世紀の土師器、瓦を含む層を検出している。

#### まとめ (図24)

閑院宮邸の成立と変遷についての詳細は、江戸時代の絵図や明治時代の地図などで確認できる程度である。1741年の絵図(図24)によれば初期の閑院宮邸と烏丸通の間に林の様な絵があり、空地があったようであり、今回検出した18世紀の南北溝が閑院宮邸の西側区画に関連する可能性がある。また東西方向の石垣は、閑院宮邸の敷地が明治時代に現在の正方形になる前、L字形をしていた頃の北側の築地に関連する遺構の可能性がある。いずれも正確性の乏しい絵図や地図からの復元であり、推定ラインが正確ではなく断定はできない。今後の調査に期待したい。



図24 1741年の絵図  
(註4から作図)

(吉本 健吾)

- 註1 『京都市内遺跡立会調査概報 平成13年度』京都市文化市民局 2002年、『京都市内遺跡立会調査報告 平成17年度』京都市文化市民局 2006年
- 註2 『京都市内遺跡立会調査概報 平成14年度』京都市文化市民局 2003年、『京都市内遺跡立会調査概報 平成15年度』京都市文化市民局 2004年、『京都市内遺跡立会調査概報 平成16年度』京都市文化市民局 2005年
- 註3 未報告。
- 註4 増補再版『京大絵図』寛保元(1741)年『慶長昭和 京都地図集成』柏書房 1994年

## 6 平安京左京三条四坊十二町 (06HL107)

### 調査経過 (図25)

中央区富小路通三条上る福長町101番地における店舗、事務所及び共同住宅の複合利用のビル建築事に伴う立会調査である。

調査地は、条坊復元では左京三条四坊十二町に位置し、平安時代から現代にいたる民衆の生活空間である。また周辺の立会調査89BBHL104や95BBHL243では近世初頭の陶磁器類が多量に出土している。このことから今回の調査でもこの時代に関連する遺構、遺物の検出が期待された。

調査は2006年6月16日から7月3日まで行い陶磁器類、木製品、金属製品などを多量に含む土壌を検出した。

### 遺構 (図版29、図26・27)

調査開始時には、BM-2.1mまで1次掘削が終了し、-4.7mまでの2次掘削が行われていた。基本層序は、-2.1mまでがすでに掘削壁面保護のための防護板がはめられ、堆積層を確認することはできなかった。-2.1mから-2.65mまでが暗褐色砂泥層となり、-2.65m以下が黄褐色砂礫の地山となる。

土壌1は、調査地の北西隅の2次掘削部分で、地山を掘込んでいたのを検出した。幅は東西が約6.5m、南北は攪乱等で共に層は確認できていないが、土壌の堆積土層が統かないので、約5.5m以内におさまるものと考えている。深さは-2.85mから1.05mを測る。平面での形は不明である。堆積土層はあまり粘質で無く木製品を多く含んでいる上層と、粘質の泥土層と細砂や微砂が互層になっている下層に分けることができる。遺物類は下層から出土が多く、特に陶磁器類は西壁の下層で集中して出土している。

この他、南壁にも埋土の大半が砂で覆われてた東西約3mの土壌2が観察できた。土壌の底に僅かに泥土が堆積し陶磁器が少量出土した。

### 遺物 (図版33~36・37-67~72・77~84、図28~32)

遺物は、その大半が北・西壁で確認した土壌1で出土し、土器、陶磁器、瓦類、木製品、金属器、自然遺物、動物遺存体などがある。

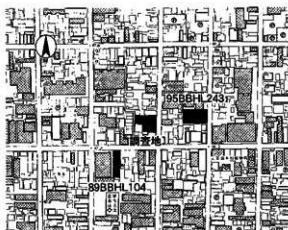


図25 調査位置図 (1:5,000)



図26 遺構位置図 (1:500)

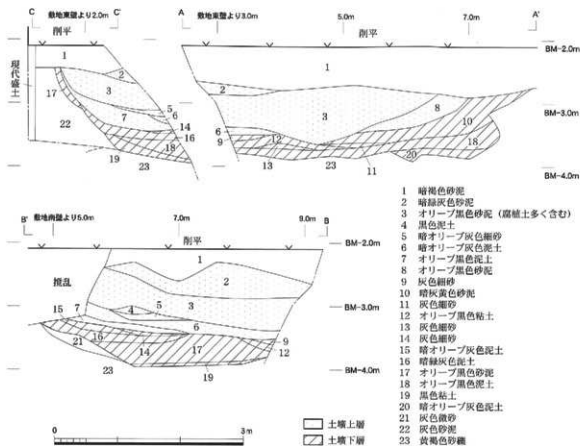


図27 土壌1西壁B-B'・北壁A-A'・C-C'断面図 (1:60)

ここでは、北・西壁で確認した土壌1から出土した遺物を取りあげる。その概要は以下の通りである。

土器は、土師器皿 (13~23) ・鉢・炮烙 (24) ・塩壺 (25・26)、瓦器鉢・火鉢・風炉・蓋などがある。形状をとどめるものは、大半が土師器皿と塩壺である。皿は、径7cm前後、径10cm前後、内面に圏線が見られる径10.5cm、11.5cm、12.4cmの皿がある。その中には灯明皿 (14・20・21) として使われていたものや、未使用の皿 (15~19) が20枚重なって出土した (図28) もがある。



図28 土壌1土師器皿出土状況

陶磁器は、大半が国産の陶器で、中国輸入磁器が少量認められる。国産の陶器は、美濃・唐津・高取が多く、次いで信楽・伊賀の製品がある。備前・丹波は少ない。

美濃の製品には、志野水指 (29) ・茶碗・向付・皿・大鉢・茶入蓋・香合蓋・灯明具身、黄瀬戸向付・盤・燭台、瀬戸黒茶碗、鼠志野向付・大鉢、黒織部茶碗 (27)、織部黒茶碗、織部碗 (49) ・向付 (30・31) ・鉢・水柱・徳利・小壺・天目台 (28) ・茶入蓋・香炉・灯明具身・陶印、志野織部茶碗・碗・皿・向付・徳利・花生・香合蓋、美濃唐津向付、美濃伊賀水指・花生、美濃茶入 (32)、天目碗 (47)、鉄釉碗・鉢・徳利・小壺などがある。唐津の製品は、茶碗・水

指・椀(46)・向付(48)・皿(45)・鉢・片口・德利・天目椀・壺・すりこぎ状製品(35)などがある。高取の製品は、茶椀(36)・水指・茶入(42・43)・建水(51)・花生(52)・向付・大鉢・片口・壺・水指蓋・天目椀(37)・搦鉢(38)などがある。信楽の製品は、茶椀(33・34・50)・水指・花生(53)・茶入・水指蓋・香合蓋・搦鉢などがある。伊賀の製品は、水指・花生・建水・茶入・水指蓋などがある。備前の製品は、水指・建水・德利・鉢・皿・搦鉢などがある。丹波の製品は、大鉢・搦鉢などがある。その他に初期京焼の施釉軟質陶器椀・小壺・向付と思われる破片がある。輸入製品は、呉州赤絵皿、染付(椀・小杯・皿・香合蓋)、白磁などが出土した。



図29 織部陶印実測図  
(1:2)

これら出土した陶磁器の中で、判読できていないが織部陶印(39)、信楽茶椀高台内面に一辺1.6cmの四角(33)と径1.6cmの丸の印(34)が押されているもの、信楽花生内面に長さ2.2cm、幅1.3cmの小判形の印で、菱形の記号に下に古田と読めるもの(54)、呉州赤絵皿や鼠志野大鉢の破片断面に漆継ぎの痕跡が見られるものなどが特に注目される。

瓦類は、丸瓦、平瓦、軒平瓦、金箔軒平瓦が出土した。金箔軒平瓦(55)は、文様部分に僅かに金箔の痕跡を残している。

木製品は、下駄(67~71)、漆塗下駄(72)、箸、曲物、漆器椀(56~62)、木札(63)、蓋(64)、鈎状木製品(73)、傘の部材(74)、柄杓の柄などが出土した。その他部材には、桶(76)、箱、折敷、盆、不明部材(75)などがみられる。その中で墨書のあるものが4点(63~66)出土した。その一つ木札(63)には、表面の三方の縁に線引きし、その内に「□屋 天下一 さがみ」、両側面に「天下一御□□」と「□屋」が書かれている。他に内容物を記したと思われる蓋(64)や木筒状の板(65)に「天下一」と読みとれるものがある。(73)の鈎状木製品は、縦8.2cm、横11.3cm、厚さ3.4cmで両面から切り込みを入れ穴をあけている。(76)の桶部材は、写真左端の大きいもので縦28.5cm、横8.5cm、厚さ1.2cmを測り、いずれもタガや底板の痕跡がみとめられる。(75)の部材は、詳細不明の部材で写真左上が最大長30cm、厚さ0.8cmを測る。

金属製品は、真鍮製キセル(80・81)、火箸状製品(77・84)、吊り金具(83)、鍵(79)、火打ち金(78)、鉄砲玉(82)などが出土した。

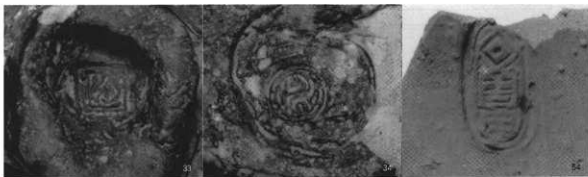


図30 刻印のある陶器片

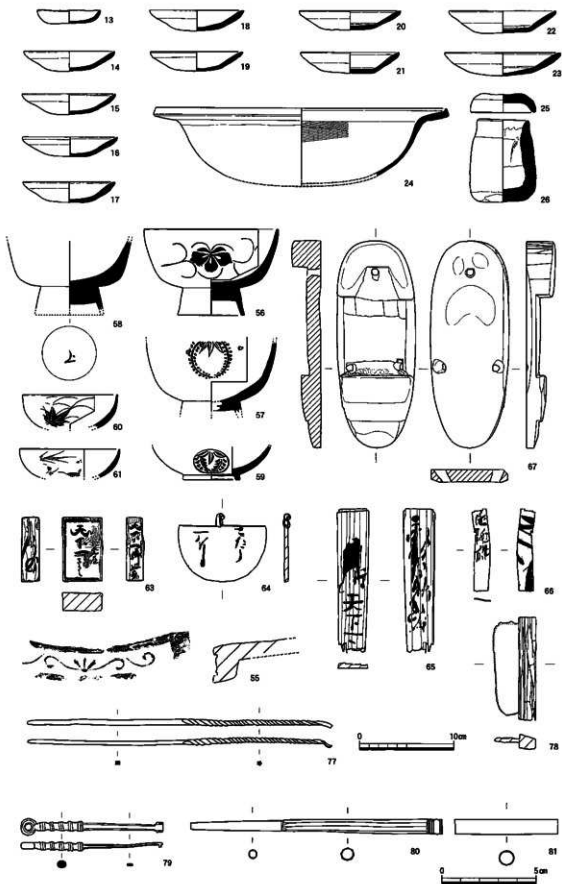


图31 土坑1出土遗物实测·拓影图(1:4, 1:2)

自然遺物は、ウリ種子、ヒョウタン種子が特に多くみられ、次いでナス種子、サンショウ種子、クリ果実などが出土した。

動物遺存体には、貝類（アカニシ）、魚類（ニシン科・サケ属・ハモ属・スズキ・アジ科・シイラ（図32）・マダイ・タイ科・カマス科・カツオ・フグ科）、鳥類（ニワトリ）、哺乳類（ネズミ科・ネコ）、昆虫（ハサミムシ）などの部位を特定できる骨が出土した。<sup>註2</sup>

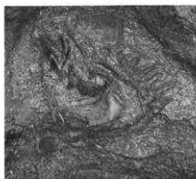


図32 シイラの骨出土状況

その他には、砥石や軽石などが出土した。

以上が、北・西壁で確認した土壌1から出土した遺物である。この土壌の廃棄年代は、出土した土師器から1630年代が想定できる。

この他に南壁の土壌2からは、土壌1には見られない備前茶入、竈道具の輪トチンの破片が出土している。また清掃中やあげ土からほぼ完形の信楽香合身（41・44）や美濃人形頭（40）、美濃伊賀水指蓋が出土している。

#### ま と め

今回見つかった土壌1の調査は、現在の富小路通から西へ約23mの位置に当たり、工事掘削の北・西壁という断面の調査であったが、出土した遺物に新発見の資料もあり大きな成果を得た。

周辺の調査89BBHL104・95BBHL243では、同時代の土壌が見つかっており、使用痕のない陶磁器を主とする遺物が大量に出土した土壌であった。今回見つかった土壌は、その内容が異なる土壌で、木製品などの遺物と共に陶磁器が非常に多く出土し、その陶磁器の中に使用痕の有るものと無いものが混在しているという特徴がある。また、土壌の大半が工事掘削で消滅していたにもかかわらず、図版33の集合写真に示すような各産地の陶磁器や「天下第一」を記した木製品、織部陶印、印のある信楽茶椀など周辺の調査では見つかっていない遺物、自然遺物、動物遺存体が確認できた。このことは、この境界の土地利用を考える上で貴重な資料となるであろう。

（中村 敦、吉本 健吾）

註1 89BBHL104：『京都市内遺跡立会調査概報 平成13年度』京都市文化市民局 2002年、  
95BBHL243：『京都市内遺跡立会調査報告 平成17年度』京都市文化市民局 2006年

註2 動物遺存体については、京都大学大学院人間・環境学研究所博士課程丸山真史氏に御教授を頂いた。

## 7 平安京右京八条二坊十二町 (05HR438)

### 調査経過 (図33)

下京区七条御所ノ内町84番2におけるマンション建築工事に伴う調査である。調査地は条坊復元では平安京右京八条二坊十二町の北に位置する。

八条二坊十二町の調査は1986年に立会調査が2箇所で行われ、平安時代末期の井戸、梅小路の南側溝等を検出している。また1989年には調査地から約20m北の立会調査で平安時代前期の池状堆積を検出している。

調査は2006年3月15日から20日まで行い、平安時代中期の池を検出した。

### 遺構 (図34~36)

調査地の北西部分のBM-0.8mで湿地状堆積を検出した。工事掘削が東へ進みNo.1地点の南北壁面でこの湿地状堆積が1.7mに渡って南から北へ下っていくのを検出した。湿地状堆積の下層には厚さ0.06mから0.13mの礫層が確認でき、工事業者の協力の下にNo.1地点の東側南北約1.3m、東西約0.9m (No.2) をこの礫層の上まで掘り下げてもらい、この礫層がほぼ全面に

わたり直径0.04m大から0.3m大の石を敷き詰め、なだらかに南から北へ下っているのを検出した。これでこの礫層が洲浜であり、上層の湿地状堆積が池の埋土と確認できた。埋土からは平安時代中期の遺物が出土している。また洲浜からは平安時代前期から中期の遺物が出土している。洲浜はNo.2

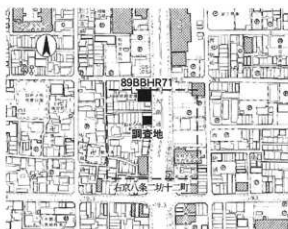


図33 調査位置図 (1 : 5,000)



図34 遺構位置図 (1 : 500)

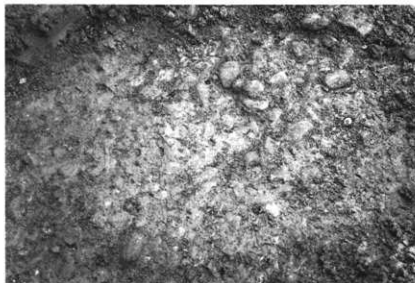


図35 No.2地点洲浜 (北西から)

地点の北側でBM-1.21mの高さで検出したが、約2.6m南のNo. 3地点では洲浜の高さはBM-0.98mとなり調査地が池の南肩にあたると考えられる。

### 遺物 (図37)

遺物は、出土した殆どが平安時代前期から中期の土器である。池の埋土からは土師器皿・他、須恵器甕・杯が出土している。いずれも平安時代中期のものである。洲浜からは土師器皿・甕他、須恵器甕・杯・碗が出土している。いずれも平安時代前期から中期にかけてのものである。掲載した遺物はいずれも洲浜から出土したもので、(85・86)は土師器、(87~89)は須恵器である。(89)の底部には墨書が施されているが、意味は不明である。

### まとめ

調査地の右京八条二坊十二町と十一町は『拾芥抄』の『西京図』に「故播磨守師信領、安芸守經忠信領」とあり、角田文衛氏によると平安前期は源昇(848~918)、平安中期は藤原道雅(991~1054)の邸宅で「小八条(院)」とよばれるものではないかと推定されている。

調査地が十二町の北部分にあたり、今回平安時代中期の池を検出したことは、推定される邸宅の庭園にあたる可能性がある。また89年立会調査(89BBRH71)で平安時代前期の池状堆積を検出しており、今回の池がそこから北に広がるとすれば、北側の十一町と合体して邸宅があったという可能性も成り立ち、十一町と十二町を「小八条(院)」とする説に合う可能性もある。ちなみに「小八条」は清少納言の『枕草子』第19段の「家は」で良いものとして登場する14件の中の一件である。

(吉本 健吾)

註1 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和61年度』京都市文化観光局 1987年

註2 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成元年度』京都市文化観光局 1990年

註3 角田文衛「小八条院」『古代文化』第21巻第5号(財)古代学協会 1969年

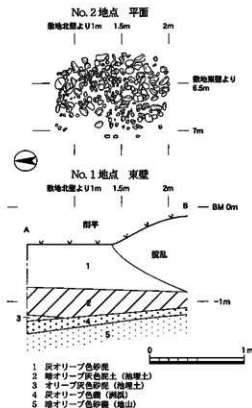


図36 No. 1・2地点遺構平面・断面図(1:40)

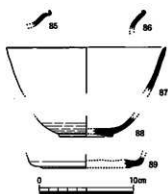


図37 出土遺物実測図(1:4)



### Ⅲ その他の遺跡

#### 1 植物園北遺跡 (06RH234)

##### 調査経過 (図38・52)

左京区松ヶ崎芝本町6、6-1に共同住宅が建設されることとなった。当地は弥生時代から古墳時代を中心とした集落跡である植物園北遺跡に含まれている(図52)。このため2006年8月28日に工事に伴って立会調査を実施したところ、竪穴住居跡とみられる遺構を良好な状態で確認した。この旨を文化財保護課に連絡し、協議した結果、遺構の確認調査を実施する運びとなった。

調査は8月29日から9月8日まで行い、工事に伴う土のすき取り面がほぼ遺構面であったため、この面で遺構検出を実施し、遺構の構成、広がりを確認することとした。その結果、6基の竪穴住居跡、櫛列、土壇などを検出し、平面の状態を記録した。その後、竪穴住居跡については、遺存状態を確認するために、小規模トレンチを入れ、床面の深さ、土層の堆積状態を観察・記録した。また、遺構の埋土上面に一部が露出している遺物については、保護のために採集している。また確認調査終了後の9月11日から9月20日に遺構保護のための埋立てに立会っている。

##### 遺 構 (図版30、図39~40)

この周辺の地形は、北西部がわずかに高く南東方向へ向かって緩やかに傾斜している。調査地はこの傾斜を階段状に整地し、畑として利用していたものとみえ、北西の一画には1段高い畦が存在していた。遺構面もほぼこの地形に沿っており、北西部が高く南東部に向かって緩やかに傾斜していたものとみられる。しかし、工事に伴い土がほぼ水平にすき取られた結果、北西部は遺構面が約0.3mに渡って削平される結果となっている。基本層序は上から調査前までの耕作土である黄灰色砂泥(2.5Y4/1)が0.1~0.2m、床土である暗褐色砂泥(10YR3/4)、それより下層が地山である暗褐色砂泥(10YR3/3)、あるいは褐色粘質土(10YR4/4)である。遺構は全て地山面

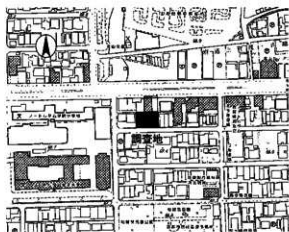


図38 調査位置図 (1 : 5,000)

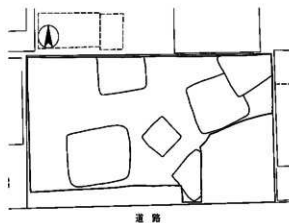


図39 調査区配置図 (1 : 500)

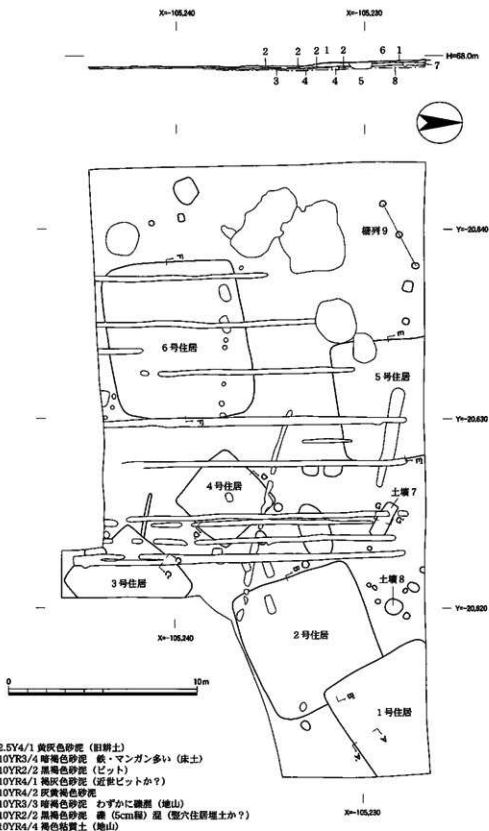


図40 遺構平面・断面図 (1:200)

で検出した。

検出した遺構は近・現代のものと古墳時代のものがある。

近・現代の遺構は、耕作に伴う畝跡とみられる小溝群と水あるいは肥溜めとみられる土壌がある。小溝群は、主に幅0.2～0.3mの南北溝が約2.0m間隔にある。土壌は調査区西側に数基あり、中には漆喰の枠が認められるものもある。

古墳時代の遺構は前期（庄内式土器併行期から布留式土器併行期）とみられる竪穴住居跡6基、櫛列1列、土壌、柱穴などがある。ただし、サブトレンチを入れた竪穴住居以外は、遺物を確認していないので時期は未確定である。

竪穴住居跡はいずれも隅丸方形とみられ、一辺4m程度の小さなもの（4号住居）から8m程度の大型のもの（6号住居）があり、6mを越える大ぶりのものが多い。重複関係は2棟（1・2号住居）、一箇所のみで比較的少ない。住居の深さは1・2号住居が0.25m、6号住居が0.15m程度で他はほぼ床面が露出している。また、5号住居は焼失しているとみられ、埋土に焼土や炭化した木材が認められる。いずれの住居にも周溝が認められる。この他に、削平を受けた調査区西壁の北辺部断面に竪穴住居跡とみられる土層が認められ、ここにさらに1基が存在したものとみられる。

櫛列9は調査区の北西端で検出した。東西方向で東が北に大きく振れる方向である。2間分を検出したが、東は調査区外へ延びるものと考えられる。柱穴掘形は0.3mの円形で、柱間は約2.0mの間である。

土壌は数基検出した。このうち調査区の北東部で検出した土壌7は縦約2.0m、横0.8mの長方形の遺構で、その形状から土壌墓の可能性もある。また土壌8は直径0.8mの円形で、土師器の甕や高坏が出土している。

その他柱穴とみられる遺構が散在するが、建物などとしてはまとめることができなかった。

#### 遺物（図版38、図42）

基本的に遺構の掘り下げを実施しなかったため、出土量は少ない。古墳時代と近世の土器、陶磁器類がある。

近世陶磁器類は畝跡とみられる小溝群などから柴付や陶器の破片が出土しているが、量は少ない。

古墳時代の土器類は、大半が庄内式土器併行期から布留式土器併行期の古式土器で、各住居跡や土壌などから、壺・甕・鉢・高坏・器台などが出土している。

以下、遺構ごとに出土土器の状況を述べる。

6号住居からは数個体の甕が出土している。口頸部が「く」の字形に開くもの（90）と受け口になるもの（91～93）がある。この他に底部（94・95）があるが、これは口縁が受け口になる形式の甕の底部になると考えられる。口頸部が「く」の字形に開く（90）は体部上半から口縁部にかけて残存しており、口縁部は内外とも横方向のナデ、端部をつまみ上げている。体部外面は細いタタキメ、内面は頸部以下をケズリを施し口縁部との境に鋭い稜が巡っている。胎土の色調は

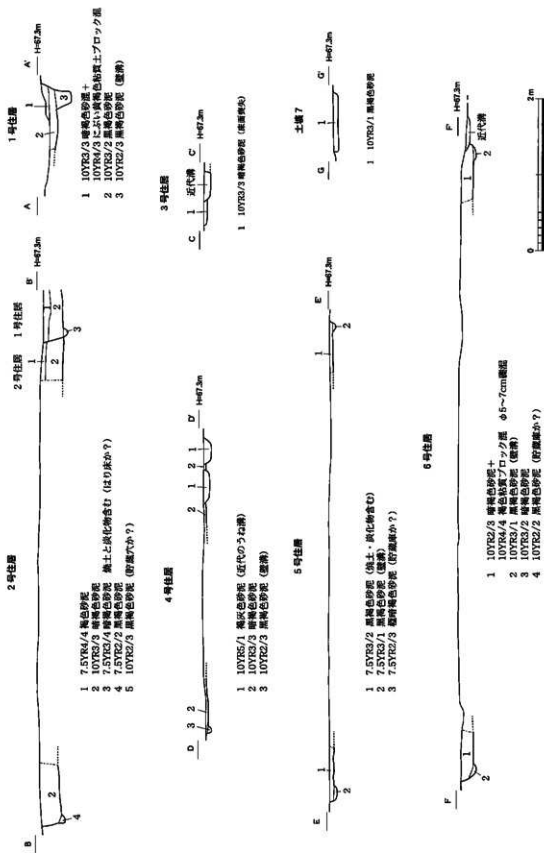


図41 竪穴住居断面図 (1:40)

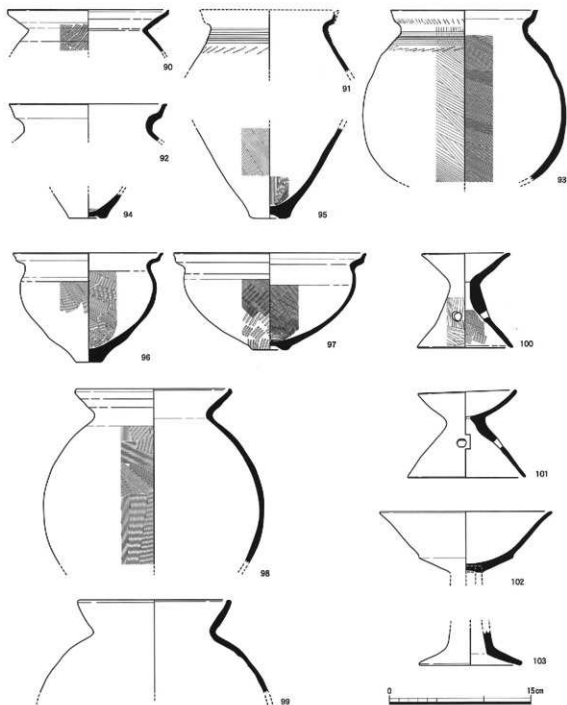


図42 出土遺物実測図(1:4)

暗褐色で雲母や角閃石を含んでいる。こうした特徴から河内(生駒西麓)産のものとみられる。受け口の甕(91~93)は93が口縁部から体部下半まで、他は体部上半まで残存している。最も残存状況の良い甕(93)は口縁部は内外共に横方向のナデを施し、外面の屈曲部にクシ描列点文を施す。体部内外面はハケ目を施し、頸部にはクシ描直線文、その下にクシ描列点文を施す。(92・93)は表面の風化が激しいため確認できないが調整、文様構成はほぼ(91)に準じると思われる。

2号住居からは小型の器台(100)が出土している。ほぼ完形品で、「ハ」の字に開く受部と、

同じく「ハ」の字に開く脚部からなる。受け部と脚部の中央は孔が貫通している。受部は横方向のナデ、脚部内面はハケ、外面はミガキを施している。また脚部には円い透かしが3方に穿たれている。

5号住居からは鉢が2個体出土している。いずれも口縁部が受け口になる形式のもので、(96)は口縁部がややすばまり、(97)は大きく開いている。口縁部はいずれも横方向のナデ、(96)の体部は内外面共にハケ、(97)は内面ハケ、外面はタタキの後ハケを施す。(96)の底部は小さな平底、(97)は、平底の中央部が窪んでいる。

1号住居からは、甕と小型の器台が出土している。甕(98)は、口縁部が「ハ」の字形に開き、口縁端部は内側に肥厚している。体部は球形で底部は欠損しているため不明である。口縁部は横方向のナデ、体部外面は細かいハケ、内面は頸部の屈曲部より僅かに下方からケズリを施している。器台(101)の受け部は僅かに湾曲しながら立ち上がり、脚部は「ハ」の字形に開いている。受け部の中央には円孔が貫通している。また、脚部には円形の透かしが4方に穿たれている。

土壇8からは甕と高杯が出土している。甕(99)は口縁部がやや内湾気味に開き、端部が僅かに内側に肥厚している。体部は上半が残存しているのみである。口縁部は横方向のナデ、体部は風化が著しいため不明瞭であるが外面はハケ、内面はケズリ調整が僅かに観察できる。高杯(102・103)は同一個体と見られるが接合しない。杯部(102)は2段に屈曲して立ちあがり、端部は外方に開いている。脚部は中空で、裾は屈曲しながら外方へ開いている。風化が著しいため、表面の調整は不明である。

2・5・6住居出土の土器が庄内式土器併行期、1号住居および土壇8出土土器が布留式のものと考えられる。

#### まとめ(図52)

植物園北遺跡は、賀茂川と高野川の合流点以北に広がる扇状地に立地して、1979年公共下水道工事に伴う広域立会調査によって発見された。以来、東西2km、南北1kmという、<sup>約</sup>広大な範囲に、古墳時代前期の竪穴住居跡を中心とした集落跡であることがわかってきている。今回の調査は本格調査ではなかったが、竪穴住居跡6棟を確認したことによって遺跡東南部の状況をとらえることができた。今後の植物園北遺跡の実態解明にとって重要な資料となろう。

なお、今回検出した遺構面については、埋め戻しに一定の砂層を入れて養生し、建物基礎もそれに抵触しないよう配慮することで地下保存された。御理解をいただいた事業主に謝意を述べたい。

(吉崎 伸)

註1 未報告。

## 2 植物園北遺跡 (06RH253)

### 調査経過 (図43・52)

北区上賀茂池端町41-1で行われたマンション建築工事に伴う立会調査である。調査地は植物園北遺跡の北東部分にあたる (図52)。

調査は2006年9月5日と6日に行い、古墳時代前期の竪穴住居跡を検出した

### 遺構・遺物 (図44・45)

基本層序は、BM-0.27mまでが現代盛土層、-0.4mまでが耕作土、-0.44mまでがオリブ黒色砂泥層で、以下は黄褐色砂泥の地山となる。竪穴住居跡はこの地山層を切って検出した。竪穴住居跡はA-A'地点で幅4.5m以上を検出。床面までの深さ0.26mを測り、壁溝を持つ。西壁はA・Bの2箇所で見出すが、東壁は確認できなかった。方形と仮定すればA・Bの西壁は若干北で東に振れている。埋土からは布留式土器とみられる古墳時代前期の甕の体部が出土している。

### まとめ (図52)

今回の調査地は、北西へ約100mの付近と南へ約100mの付近に一群の竪穴住居跡群があるが (図52)、これまで竪穴住居跡が見出されていなかった場所である。この地で古墳時代前期の竪穴住居跡を見出したことは、これらの竪穴住居跡群の繋がりを考える上で重要な資料となるだろう。

(吉本 健吾)



図43 調査位置図 (1:5,000)

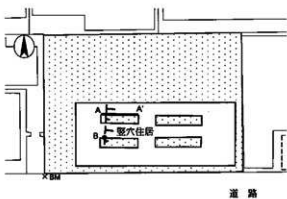


図44 遺構位置図 (1:500)

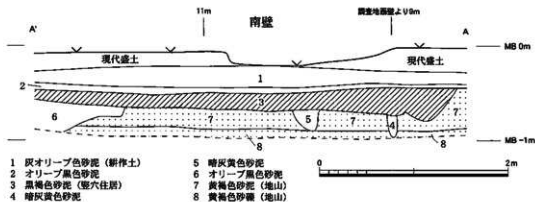


図45 遺構断面図 (1:40)

### 3 植物園北遺跡 (06RH313)

#### 調査経過 (図46・52)

北区上賀茂松本町53で行われた共同住宅建築工事に伴う立会調査である。調査地は植物園北遺跡の中央部分にあたる (図52)。

調査は2006年10月4日から12日まで行い、古墳時代前期の竪穴住居跡を検出した

#### 遺構・遺物 (図47・48)

基本層序は、BM-0.71mまでが現代盛土層で、以下は灰オリーブ色砂泥の地山となる。竪穴住居跡はこの地山層を切って検出した。竪穴住居跡はA-B-C-Dのトレンチ掘り地点で東壁面を検出。床面までの深さ0.41mを測り、壁溝を持つ。後日、工事で地山直上まで掘削した時点で、南北を軸にしてやや東に振れる一辺4.9mの方形であることを確認した。住居内の全面調査はできなかったが、トレンチ調査では埋土から布留式土器甕が出土している。

#### まとめ (図52)

調査地西側道路の水道工事では 弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居が3基検出されている (図52)。今回、古墳時代前期の竪穴住居跡を検出し、この付近にも住居のまとまりが認められ、集落形成を考える上で重要な資料となるだろう。

(吉本 健吾)



図46 調査位置図 (1 : 5,000)

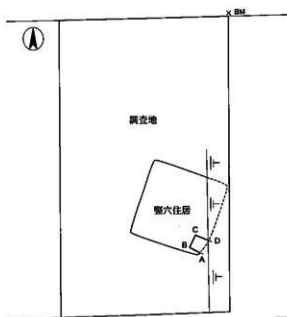


図47 遺構位置図 (1 : 250)

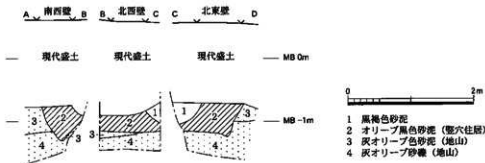


図48 遺構断面図 (1 : 60)



## 4 植物園北遺跡 (06RH322)

### 調査経過 (図49・52)

北区下鴨神殿町23番地で行われた宿舍建築工事に伴う立会調査である。調査地は植物園北遺跡の南端の遺跡範囲から外れる地点にあたるが(図52)、原因者の御協力を得て調査を行った。

調査は2006年10月10日から13日まで行い、古墳時代後期の竪穴住居跡を検出した

### 遺構・遺物 (図50・51)

基本層序はBM+0.11mから+0.04mまでが現代盛土層、-0.07mまでが耕作土、-0.34mまで床土、-0.36mまでが平安時代の包含層、以下は褐色砂泥の地山となる。竪穴住居跡はこの地山層上面で検出した。竪穴住居跡はA-B地点で幅5.25mで北壁と南壁を検出。床面までの深さ0.19mを測り、壁溝を持つ。他にC・D地点でも壁部分を検出しており、これらは同一の住居と考えられる。平面形が方形とみられ、これを通る推定復元ラインは複数考えられるので、竪穴住居跡の規模、傾きなどは断定できない。埋土からは古墳時代後期の土師器甕が出土してる。

### まとめ (図52)

今回、植物園北遺跡の遺跡範囲外で古墳時代後期の竪穴住居跡を検出したことは植物園北遺跡の範囲が更に南へ拡がりを持つことを示している(図52)。植物園北遺跡の範囲を考える上で重要な資料となるだろう。(吉本 健吾)



図49 調査位置図 (1:5,000)



図50 遺構位置図 (1:500)

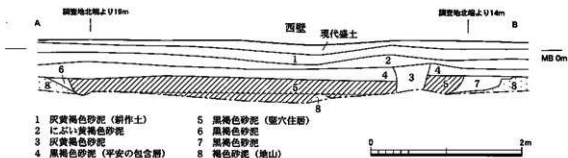


図51 遺構断面図 (1:50)

## 5 植物園北遺跡・付着

### 竪穴住居跡地点検出一覧・分布図（図52）

今年度、立会調査では植物園北遺跡において4箇所の調査地で9基の竪穴住居跡を検出したので、ここに1979年の遺跡発見以来の竪穴住居跡検出一覧と分布図を掲載する。一覧と分布図は『京都市内遺跡発掘調査概報 平成6年度』に掲載されたものを元に、1997年以降の調査を追加し作成したものである。（吉本 健吾）

表2 竪穴住居跡地点検出一覧

No	調査主体	調査期間	所在地	時期・基数	文献
1	A	78/11/25～ 81/1/14	北区上賀茂一帯、左京区下鴨の北山通以北の各道路	弥生後～古墳前期・38 古墳後期・3	未報告
2	A	84/4/9～5/22	北区上賀茂碑ヶ堰内町47	弥生後期・2 古墳前期・2	註2
3	A	84/5/22	左京区松ヶ崎本町1	古墳初期・3	註3
4	A	84/6/22	左京区下鴨北芝町18-2	古墳前期・1	註3
5	A	85/1/29	左京区下鴨水口町47	古墳前期・3以上	註4
6	A	85/11/12・13	北区上賀茂向鶴手町38	古墳前期・2	註4
7	A	86/8/25～30	北区上賀茂藤田町8	古墳前期・1	註5
8	A	89/4/20～7/11	北区上賀茂竹ヶ鼻町4	古墳前期・2	註6
9	A	90/5/7～7/30	北区上賀茂松本町98	古墳前期・9	註7
10	B	90/8/15～11/2	左京区下鴨南野々上町1 ノートルダム女子大学	弥生後～古墳前期・7 古墳後期・3	註8
11	A	91/6/4～ 92/6/8	左京区下鴨半木町 京都府立大学農場の一部	古墳末～飛鳥・3 奈良・3	註9
12	A	92/9/16～ 93/5/26	左京区下鴨前萩町～松ヶ崎 香町田町 北山通	弥生後期・3	註10
13	A	93/4/26～8/21	北区上賀茂島帽子ヶ堰内町1 上賀茂小学校	古墳後期・3	註11
14	C	93/7/1～10/5	左京区下鴨北芝町12 府営住宅	弥生後～古墳前期・4	註12
15	D	94/6/8～28	左京区下鴨南茶ノ木町29	古墳前期・1	註13
16	C	96/4/19～8/18	左京区下鴨北芝町 府営住宅	弥生後～古墳初期・4 古墳前期・2	註14
17	A	96/8/30～9/5	左京区下鴨前萩町5-11	古墳前期・1	註15
18	A	99/4/14～19	北区上賀茂岩ヶ堰内町100	古墳前期・2	註16
19	A	00/7/31～9/29	北区上賀茂土門町39	古墳中期・2	註17
20	A	02/5/13～9/5	左京区下鴨水口町 地先	古墳前期・2以上	註18
21	A	05/11/4～11	左京区下鴨水口町57-1	時期不明・1	註19
22	A	06/8/28～9/20	左京区松ヶ崎本町6、6-1	古墳前期・6	本報告
23	A	06/9/5・6	北区上賀茂池端町41-1	古墳前期・1	本報告
24	A	06/10/4～12	北区上賀茂松本町53	古墳前期・1	本報告
25	A	06/10/10～13	左京区下鴨神楽町23	古墳後期・1	本報告

調査主体 A (財)京都市埋蔵文化財研究所 B ノートルダム女子大学遺跡調査会 C (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター D 京都市埋蔵文化財調査センター



图52 植物园北道跡暨穴住居跡検出地点分布图 (1 : 10,000)

- 註1 高橋潔「植物園北遺跡」『京都市内遺跡発掘調査概報 平成6年度』京都市文化観光局 1995年
- 註2 辻裕司『植物園北遺跡発掘調査概報 昭和59年度』京都市文化観光局 1985年  
辻裕司「植物園北遺跡」『昭和59年度 京都市内埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1987年
- 註3 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和59年度』京都市文化観光局 1985年
- 註4 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度』京都市文化観光局 1986年
- 註5 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和61年度』京都市文化観光局 1987年
- 註6 高正龍『植物園北遺跡発掘調査概報 平成元年度』京都市文化観光局 1985年  
高正龍、平方幸雄「植物園北遺跡1」『平成元年度 京都市内埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 註7 高橋潔「植物園北遺跡」『平成2年度 京都市内埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 註8 長谷川行孝『ノートルダム女子大学構内遺跡発掘調査報告-植物園北遺跡-』ノートルダム女子大学 1901年
- 註9 久世康博「植物園北遺跡」『平成3年度 京都市内埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 註10 高橋潔、高正龍『平成4年度 京都市内埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 註11 久世康博、津々池惣一「植物園北遺跡」『平成5年度 京都市内埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 註12 岸岡貴英「植物園北遺跡第13次」『京都府遺跡調査概報 第58冊 1994』（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 1994年
- 註13 馬瀬智光「植物園北遺跡No.64」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成6年度』京都市文化観光局 1995年
- 註14 石尾政信、杉本厚典「植物園北遺跡第16次」『京都府遺跡調査概報 第70冊 1996』（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 1996年
- 註15 高橋潔「植物園北遺跡」『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』京都市文化市民局 1997年
- 註16 吉本健吾、庵子正彦『京都市内遺跡立会調査概報 平成11年度』京都市文化市民局 2000年
- 註17 「植物園北遺跡」『平成12年度 京都市内埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 2003年
- 註18 堀内寛昭「植物園北遺跡」『京都市内遺跡立会調査概報 平成14年度』京都市文化市民局 2003年
- 註18 堀内寛昭、吉本健吾「植物園北遺跡」『京都市内遺跡立会調査概報 平成17年度』京都市文化市民局 2006年

## 6 嵯峨野高田町遺跡 (05UZ213)

### 調査経過 (図53)

右京区嵯峨野東田町から梅津フケノ川町に至る水道工事に伴う調査である。工事区間は嵯峨野高田町遺跡の範囲を縦断するコースをとる。

調査地付近では、1987年から1988年に立会調査が行われ、古墳時代後期から平安時代の遺構を検出している。

調査は2005年9月20日から2006年3月16日まで行い古墳時代の落込、時期不明の竪穴住居と考えられる落込を検出した。

### 遺構・まとめ (図54・55)

No. 1地点の地表下-1.27mで地山を切った落込の西屑を検出した。埋土からは古墳時代後期(七世紀前半)の土師器甕、須恵器甕・杯蓋が出土している。

No. 1地点より3.5m東のNo. 2地点では地表下-1.32mで地山を切った落込の西屑を検出した。この落込の西壁は直立気味で、壁に接して壁溝らしい窪みがみられ、竪穴住居跡と考えられる。埋土からは微片の土師器しか検出できず、時期は特定できない。古墳時代の竪穴住居跡であれば当遺跡では初である。

註1 『京都嵯峨野の遺跡』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1997年

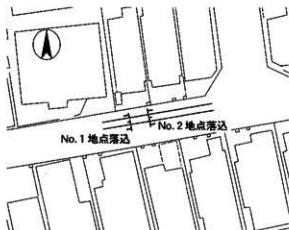


図54 遺構位置図 (1:500)



図53 調査位置図 (1:5,000)

(吉本 健吾)

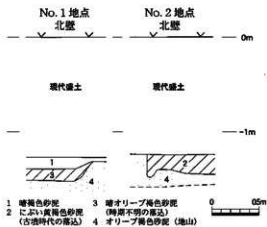


図55 遺構断面図 (1:40)

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色砂泥                | 3 暗オリーブ褐色砂泥     |
| 2 深い黄褐色砂泥<br>(古墳時代の落込) | 4 オリーブ黄色砂泥 (地山) |

## 7 上終町遺跡 (06KS430)

### 調査経過 (図56)

左京区北白川東瀬ノ内町20、21番地で行われた共同住宅建築工事に伴う立会調査である。調査地は縄文時代の集落跡である上終町遺跡にあたり、また北白川廃寺跡の西側に隣接する。

調査は2006年12月18日と19日に行い、古墳時代後期の竪穴住居跡を検出した

### 遺構・遺物 (図57・58)

調査地は北側道路路面より地表面が0.8m程高くなっており、基本層序はBM+0.59mまでが現代盛土層、+0.47mまでが耕作土、+0.4mまで黒褐色泥砂層で、以下はベースとなる黒褐色泥砂層、にぶい黄褐色砂層となる。竪穴住居跡はこの黒褐色泥砂層を切って検出した。竪穴住居跡はA-A'地点で幅3.1m以上を検出。床面までの深さ0.27mを測る。壁溝は確認できなかった。南壁から2.0mの地点で幅0.6m、深さ0.26mのカマドの焚口部と考えられる落込を検出した。この落込から古墳時代後期の土器器壺を検出している。

### まとめ

今回検出した古墳時代後期の竪穴住居跡は、北白川廃寺跡の西に接近して検出した。これは同じく南に隣接する北白川小学校で検出した竪穴住居跡群とあり方が類似しており、重要な資料となるだろう。

(吉本 健吾)



図56 調査位置図 (1:5,000)



図57 遺構位置図 (1:500)

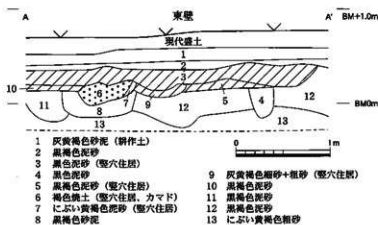


図58 遺構断面図 (1:40)

註1 「小倉町別当町遺跡」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要 (発掘調査編)』1983年、「小倉町・別当町遺跡」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1987年、「小倉町別当町遺跡」『平成6年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1996年、3冊とも (財)京都市埋蔵文化財研究所

## 8 法住寺殿跡、六波羅政庁跡、方広寺跡 (06RT409)

### 調査経過 (図59)

東山区正面通大和入茶屋町527-28で住宅建替が計画された。ここは法住寺殿跡、六波羅政庁跡、方広寺跡の遺跡の範囲に含まれていたが、地主が無届けで敷地の大半を掘削してしまった。その後に届出され現場確認を行ったところ、掘削壁面で方広寺大仏殿に関する遺構らしきものが観察できたことから、急速、確認調査を実施する運びとなった。方広寺大仏殿に関しては、調査区の南東隣接地で実施された2000年度の調査で、大仏殿の基壇や大仏の台座を確認している。その成果による復元案から当地は、大仏殿の北西部にあたることが判明している。

調査は12月5日から、壁面に残された遺構の確認と記録を目的に開始した。ところが、調査過程で床面にも遺物包含層が遺存していることが明らかとなり、床面部分もあわせて調査を進めることとなった。その結果、当初壁面に見えていた遺構は方広寺には関連しない近・現代のものであることが明らかとなった。かわって床面からは平安時代末から鎌倉時代の遺物包含層や鎌倉時代の溝や土壌を検出し、これらを記録して12月8日に調査を終了した。

### 遺構 (図版31、図60・61)

調査区の基本層序は、上から現代盛土1.0~1.9m、近現代の黒褐色から暗褐色の砂泥層が東から西に向かって整地され、厚いところで50cmほどある。その下に平安時代から鎌倉時代の包含層である黒褐色砂泥層が約15~20cm堆積している。その下は地山層で、黒褐色泥土層(いわゆる黒ボク)、灰褐色粘質土層、にぶい黄色粘土層と続く。この内、遺物包含層である黒褐色砂泥層の上面で鎌倉時代の遺構を検出した。調査区の地形は北東が高く、南西に向かって傾斜しており、包含層もこの傾斜に沿って堆積している。なお、住宅建設に伴う削平によって、包含層および遺構が残存しているのは調査区南西部に限られる。

検出した遺構は鎌倉時代と室町時代のものである。鎌倉時代の遺構としては溝(溝1)と土壌(土壌2)を検出した。溝1は調査区の西側で検出した南北方向の溝である。幅約0.5m、深さ約0.3mを測る。埋土から鎌倉時代の土器類(土師器・瓦器・白磁)が出土している。土壌2は調査

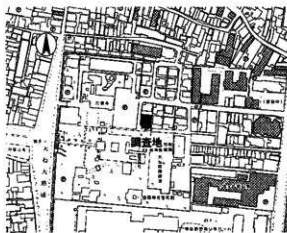


図59 調査位置図 (1 : 5,000)

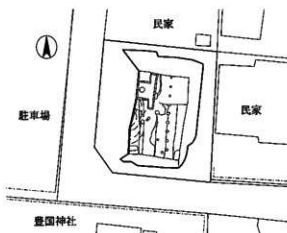
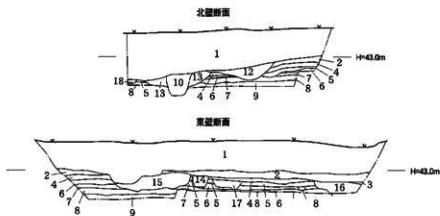


図60 調査区配置図 (1 : 400)



- |                                       |                                      |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 現代盛土                                | 10 2.5YR3/2 黒褐色砂泥 (糖多量)              |
| 2 10YR3/2 黒褐色砂泥 (10cm大の礫混) (近・現代)     | 11 5Y3/1 オリーブ黒色粘土 (礫列柱穴) [近・現代]      |
| 3 10YR2/2 黒褐色砂泥 (砂質強い)                | 12 2.5Y3/2 黒褐色砂泥 (溝)                 |
| 4 10YR2/3 黒褐色砂泥                       | 13 5Y2/2 オリーブ黒色砂泥 (溝)                |
| 5 10YR3/3 暗褐色砂泥 (黄褐色粘土ブロック混)          | 14 2.5Y4/3 にぶい黄色砂泥 (黄褐色粘土ブロック混) (灰代) |
| 6 10YR2/2 黒褐色砂泥 (粘質強い) (平床～鎌倉時代遺物包含層) | 15 7.5YR3/3 黒褐色砂泥 (大半は径10cm大の礫)      |
| 7 7.5YR2/2 黒褐色砂泥                      | 16 7.5YR3/3 黒褐色砂泥 (大半は径10cm大の礫)      |
| 8 7.5YR4/2 灰褐色粘質土                     | 17 7.5YR3/2 黒褐色砂泥 (土師器片含む)           |
| 9 2.5Y6/4 にぶい黄色粘質土                    | 18 7.5YR2/2 黒褐色砂泥 (鎌倉時代溝)            |

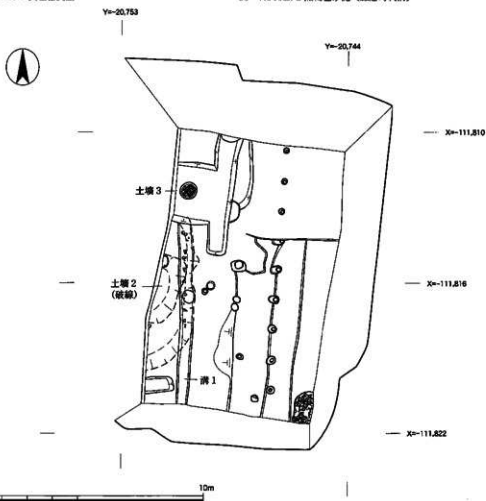


図61 遺構平面・断面図 (1:150)



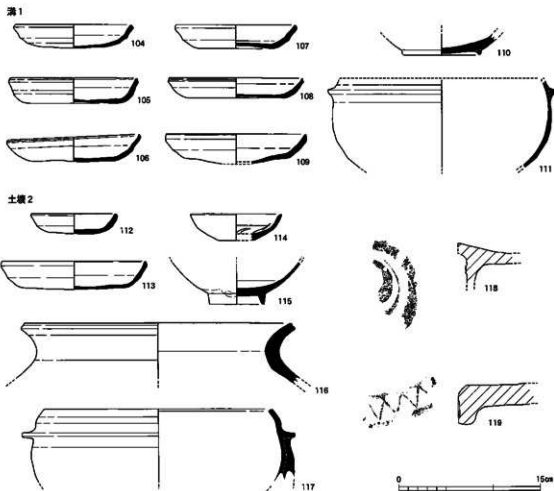


図62 溝1・土壌出土遺物実測・拓影図(1:4)

区の西端で検出し、さらに調査区西側へ延びてゆく。南北4mにわたり、中央部分が1段落ち込み、深さ約0.5mを測る。溝1と重複しており、溝よりも古い。埋土から鎌倉時代の土器類(土師器・瓦器・白磁)や瓦類(軒丸・軒平・丸・平)が出土している。

この他、室町時代の土壌(土壌3)を検出している。土壌3は調査区北西部の攪乱墳の底から検出したもので、底部の一部が残存していた。平面形は直径0.6mの円形で、深さ0.25mである。底部に礫や瓦片を敷き詰めている。

#### 遺物(図62~64)

今回の調査では平安時代から近代の遺物が出土しており、この中で鎌倉時代の遺構である溝1および土壌2から出土した遺物が多い。

以下、溝1と土壌2の遺物について述べる。

#### 溝1出土遺物

溝1からは土師器、須恵器、瓦器などが出土している。いずれも鎌倉時代前半のものである。土師器 土師器は皿(104~109)がある。いずれも大型の皿に属するもので、口径12.0~15.0cm、器高2.2~3.1cmである。平らな底部に内湾しながら立ち上がる口縁部からなり、底部外面はオサ

工、内面はナデ、口縁部は内外共に横方向のナデを施す。口縁部外面のナデが2段のもの(104)と上段のナデ幅が狭く端部のみになるもの(105~109)がある。

須恵器 椀あるいは小型の鉢の底部(110)がある。底部外面にはヘラケズリの後、雑な輪高台が貼り付けられている。内面は使用によって研磨されている。

瓦器 釜(111)がある。底部を欠くが内湾しながら立ち上がる体部と口縁部が残存している。口縁部外面、端部からやや下がった位置に低い鈎が巡る。体部外面から鈎の下までススが付着している。

#### 土壇2出土遺物

土壇2からは土師器、須恵器、瓦器、輸入磁器、瓦などが出土している。土器類は鎌倉時代前期、瓦は平安時代後期のものである。

土師器 小型の皿と大型の皿がある。小型の皿(112)

は、口径8.8cm、器高2.2センチで、平らな底部と内湾しながら立ち上がる口縁部からなる。底部外面はオサエ、内面はナデ、口縁部は内外共に横方向のナデを施す。口縁端部に部分的にススが付着しており、灯明皿として用いられたとみられる。大型の皿(113)は口径15.0cm、器高3.0cmで平らな底部に内湾しながら立ち上がる口縁部からなる。底部外面はオサエ、内面はナデ、口縁部は内外共に横方向のナデを施す。口縁部外面のナデは2段であるが、上段は幅が狭く、端部のみに施されている。

須恵器 甕(116)は体部の上端から口縁部が残存している。口縁部は「八」の字形に開き端部は面をもち、内外面共に横ナデで仕上げている。体部は外面細かい格子目タタキ、内面は風化が著しく不明瞭であるが、円形のあて具の痕跡が認められる。瓦質で、焼成は甘い。焼成の状況、口縁部の形状、調整の手法などから、備中の「亀山焼」の可能性はある。

瓦器 釜(117)がある。内湾しながら立ち上がる体部と口縁部が残存している。口縁部外面、端部からやや下がった位置に張りのある羽が巡る。また、体部外面には羽の下面から下方に足の一部が認められ、三足の釜であることがわかる。

輸入磁器 白磁の小型皿と椀がある。小型皿(114)は底部中央を小さく平らにケズリ、高台としている。底部と口縁部の境には線を付け、内面には内線を巡らせている。口縁部は直線的に内外方へ立ち上がる。底部内面にはヘラで草文の一部が認められる。底部の高台を除いて全面に薄い緑がかった釉が施される。椀(115)は底部から体部中程まで残存している。底部外面には高く鋭い高台がケズリ出されており、体部は内湾しながら立ち上がる。内面には底部と体部の境にヘラで内線が刻まれる。底部外面以外に乳白色の釉が施されている。

瓦 巴文軒丸瓦(118) 右方向に巻き込む三巴文で、巴の断面は平坦で尾は長く伸びる。胎土



図63 出土軒丸瓦

118



図64 出土軒平瓦

119

は緻密で、焼成は良好、色調は青灰色である。瓦当は接合式で、接合した際のナデの痕跡が明瞭に残っている。また、瓦当面には植物繊維や粉殻の圧痕が認められる。平安時代後期の播磨産である。

鋸歯文軒平瓦（119） 凸線と斜格子文を表しているが、線の交点がちょうど周縁部分にあっているために鋸歯状に見える。瓦当成形は折り曲げ技法で、曲線頸である。平瓦凸面には粗い縄タタキ、凹面には粗い布目が残っている。なお瓦当面にも布目の痕跡が認められる。胎土には小礫を含み、焼成は甘く、色調は灰白色である。平安時代後期の山城産である。

#### まとめ

今回の調査では、当初方広寺大仏殿跡に関する遺構の確認が主眼であった。ところが、土層堆積状況を確認した結果、平安時代から鎌倉時代の遺物包含層の上面は近・現代の整地層であることが判明し、方広寺大仏殿に関する土層は全く遺存していないことが明らかとなった。土層の状況から、明治時代に豊国神社が造営される時期に、今回の敷地部分も削平されたものと考えられる。

一方、平安時代から鎌倉時代の遺物包含層とその上面に溝や土壇などの遺構を確認できたことは大きな成果であった。遺物包含層は、細かい土師器の破片が多く含まれており、おそらく整地層であると思われる。また、鎌倉時代の遺構には土器類が多く含まれており、その中に完形品に近いものもみられることから、この周辺が居住空間であったことを物語っている。また、出土した軒瓦はいずれも平安時代後期のものであることもわかった。上述したように、当地は法住寺殿跡および六波羅政庁跡にも含まれていることから、これに関する施設が近隣に存在した可能性が高いものと考えられる。

（吉崎 伸）

註1 近藤知子・田中利津子「平成12年度 京都市埋蔵文化財調査概要」（財）京都市埋蔵文化財研究所 2003年

## 9 史跡醍醐寺境内 (06FD43)

### 調査経過 (図65)

伏見区醍醐醍醐山(上醍醐地区)における自動火災報知設備の新設及び改修に伴う調査である。工事区間は醍醐寺の上醍醐地区の道路部分のほぼ全域である。

上醍醐地区は醍醐寺発祥の地であり、874年(貞観16年)に聖宝が小堂宇を建立したことに始まる。平安時代には薬師堂、五大堂が完成し上醍醐の伽藍が完成している。幾度かの火災に遭い創建当初の建物は存在しないが、薬師堂は平安時代後期、清滝宮降殿が室町時代、如意輪堂、開山堂が桃山時代の再建の建物が存在している。

当研究所職員が2006年4月8日に工事掘削を確認し、薬師堂前で瓦が散乱しているのを発見した。5月15日より工事掘削が再開するのに伴い立会調査を開始し、工事掘削終了の7月10日まで行い計24箇所で断面観察及び遺物採集を行い、五大堂の基壇を検出、平安時代中期から江戸時代以降の遺物を採集した。

### 遺構・遺物 (図66~70)

#### 薬師堂付近

薬師堂をU字状に囲むように工事区間が設定されていたが、東側と南側はすでに工事は終了していた。西側のNo.7地点の地表下-0.1mで明黄褐色砂泥層の地山を検出したのみである。ただ終了部分のNo.1・2・3・6地点で平安時代の瓦を採集している。特にNo.3地点では平安時代中期の須惠器皿(120)を採集している。薬師堂付近では1992年に当研究所職員が南東付近で平安時代中期の軒平瓦(121)を採集しているので、拓本のみであるが掲載しておく。

#### 薬師堂から准胝観音堂の間

No.8地点の地表下-0.36mで時期不明の整地層を検出した。黄褐色泥砂層で堅く締っている。この層はこの地点より北へ3.5m、南へ0.7m続いている。No.9地点では江戸時代以降の軒平瓦



図65 調査位置図 (1:5,000)



図66 No.8地点整地層 (西から)



図67 No.15地点焼土層 (南から)

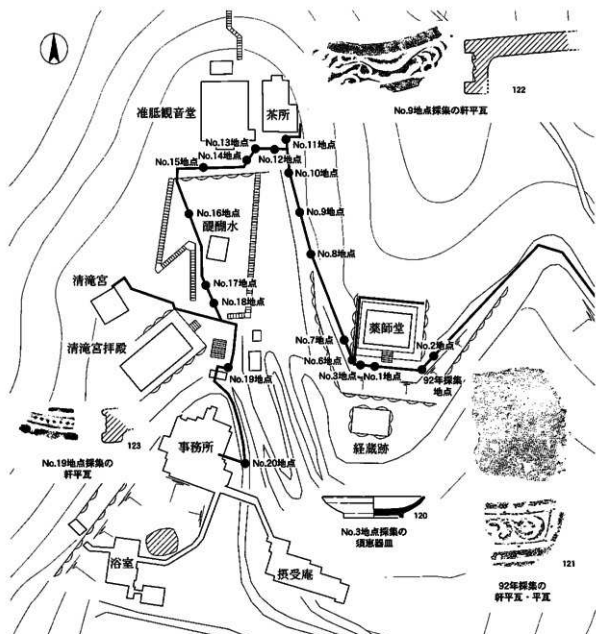


図68 上駿河西部地区調査位置（1：1,200）及び遺物実測・拓影図（1：4）

(122) を採集している。No.10地点の地表下-0.18mで黄褐色砂泥層の地山を検出した。

#### 准胝観音堂前

No.15地点の地表下-0.24mで江戸の包含層を検出した。またこの層を切って幅東西0.23m、南北0.18m以上、深さ0.09mの焼土壘を検出した。北側は断面で確認できなかったが、隅丸方形で周囲の壁面は焼けて変色している。埋土からは金属製品の釘が出土している。またNo.14地点の地表下-0.18mで時期不明の炭層を検出している。No.11・12・13地点ではいずれも江戸時代以降の遺物を採集している。

#### 醍醐水付近から清滝宮拝殿前の間

No.18地点の地表下-0.02mで平安時代末期から江戸時代の遺物を含むにぶい黄褐色砂泥層を検出。No.19地点では鎌倉時代の軒平瓦（123）を採集した。No.16・17地点では時期不明の施軸土

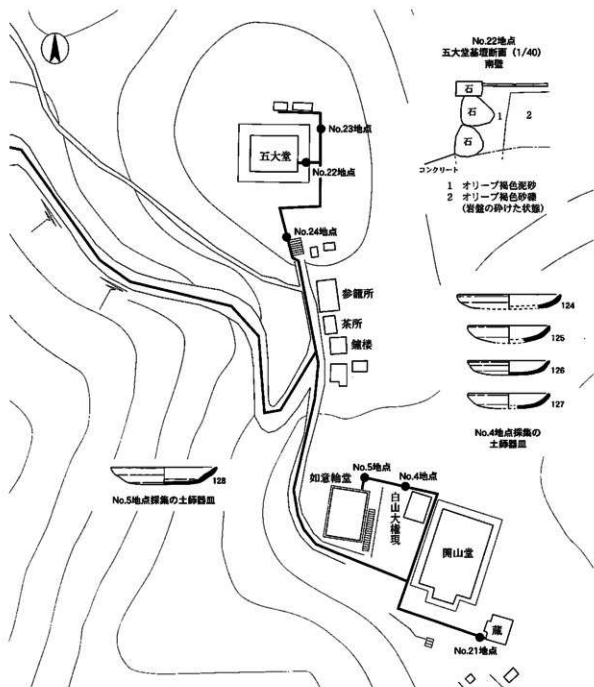


図69 上醍醐東地区調査位置 (1 : 1,200) ・遺構断面 (1 : 40) 及び遺物実測図 (1 : 4)

製品を採集した。

事務所東側付近

No.20地点の地表下-0.17mでオリーブ褐色砂泥層を検出したが、遺構、遺物は検出できなかった。

開山堂付近

No.21地点の地表下-0.2mで黄褐色砂礫層の地山を検出した。

白山大権現付近

No.4地点で平安時代後期の土師器皿 (124~127)、平瓦を採集した。



図70 五大堂基壇断面（北西から）

#### 如意輪堂付近

No.5 地点で平安時代の須恵器壺、平瓦、桃山時代の土師器皿（128）を採集した。

#### 五大堂付近

No.22地点は五大堂の基壇の東端部分にあたる。基壇上面には0.02mの石版を敷き、-0.1mまでオリーブ褐色泥砂で盛土を施している。以下は岩盤が砕けた状態のオリーブ褐色砂礫となる。基壇の高さは0.76mなので、五大堂の基壇は岩盤を削り出して造られていると考えられる。

No.23・24地点ではそれぞれ地表下-0.03m、-0.35mで黄褐色砂礫層の地山を検出した。

#### まとめ

今回は醍醐寺の上醍醐地区における埋設管工事掘削に伴う最初の調査である。遺構に関しては五大堂の基壇を一部であるが確認することができた。他に整地層や焼土層を検出したがいずれも時期を特定できなかった。また醍醐寺は幾度の火災に遭遇しているので、それに伴う焼土層が期待されたが、明確な焼土層は検出できなかった。主な遺物包含層は清滝宮拝殿前で平安時代末期から江戸時代にかけての包含層と准胝観音堂前で江戸時代の包含層を検出している。清滝宮拝殿前の包含層は出土遺物の年代の幅が広く客土の可能性もある。また薬師堂付近、白山大権現付近、如意輪堂付近で平安時代、清滝宮拝殿前で鎌倉時代、如意輪堂付近で桃山時代、清滝宮拝殿前と准胝観音堂付近で江戸時代以降のものを採集している。

（吉本 健吾）

# 調査一覧表

I 2006年 1～3月期(平成17年度)

## 平安宮 (HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
大塚省	上・仲福寺通一条下る東西後園町656-30・33	3/3	-0.3mまで現代盛土。	HQ 421	1
大塚省	上・仲福寺通一条下る東西後園町656-29・32 (C号地)	3/3	-0.4m、江戸末期の包含層。	HQ 422	1
大塚省	上・仲福寺通一条上る東西後園町656-28・31	3/27	-0.17mまで現代盛土。	HQ 463	1
茶園	上・中立光通日暮東入新白水丸町462番地54	2/8～10	-1.13mまで褐色粘土を抽出。遺構、遺物は検出できず。	HQ 392	1
柳部京	上・六軒町通出水上る生利町～六軒町通出水上る七番町 地先	2/20～22	-1.1mまで現代盛土。	HQ 403	1
柳部京	上・仁和寺街道六軒町西入四番町142-2の一部	3/6～8	-0.4m、江戸末期の包含層。	HQ 429	1-2
鎌殿京	上・下長者町通裏ノ門西入坤高町58番2、58番7	2/7	-0.23m、江戸末期の包含層、-0.63m、江戸中期の包含層(土師器皿、御深井椀)。	HQ 391	1
内高	上・下立光通千本東入下る中務町490番94	2/22	-0.36まで現代盛土。	HQ 409	1
内豊楽院	中・煎茶園町184-2	1/17	-0.35mまで現代盛土。	HQ 366	1
新堂院	上・千本通丸太町下る主税町1187	1/13～17	-0.5m、江戸末期の包含層。	HQ 361	1
新堂院	中・煎茶園町20番6号	2/13	-0.8mまで褐色砂泥を抽出。遺構、遺物は検出できず。	HQ 397	1
新堂院	上・竹屋町通千本東入主税町1178-2	3/23・27	-0.23mまで黄褐色砂泥を抽出。遺構、遺物は検出できず。	HQ 450	1
中務省	上・千本通二条下る東入主税町1075番	3/30・31	-0.25mまで現代盛土。	HQ 466	1
民部省	上・竹屋町通千本東入主税町910	3/9	-0.46m、近世以降の包含層。	HQ 431	1

## 平安京左京 (HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
一条三坊十一町	上・烏丸通丸太町上る春日町～烏丸通出水下る桜籠岡町 地先	2/22～5/18	江戸後期の水碓窟を抽出。本報告12ページ。	HL 410	3
二条二坊八町	上・上堀川町 池地内	05/10/18～06/2/21	-1.13m以下、黄褐色砂泥の地山。	HL 260	2
二条二坊十四町	中・竹屋町西洞院西入東竹屋町417番地1	2/21～23	-0.07m、江戸末期の包含層、-0.15m・-0.4m、江戸後期の包含層(土師器皿、瀬戸鉄胎陶器、肥前柴付) 2。	HL 404	2
二条二坊十五町	中・小川通丸太町下る中之町80、82、西洞院通丸太町下る田中町129-1、129-5	2/21～23・27	No 1 : -0.56m、江戸初期の包含層(土師器皿)、No 2 : -0.4m、江戸末期の包含層、-0.76m、江戸後期の包含層。	HL 405	2
二条三坊十六町	上・京都御苑3番地の一部	05/5/9～06/4/6	江戸後期の南北溝、江戸末期の石垣。本報告14ページ。	HL 058	3
二条四坊十二町	中・二条道標馬場東入清明町651番地	2/10・13・16・21～23・27	No 1 : -1.58m、平安中期の包含層(土師器皿・甕、須恵器鉢)、-1.8m、時期不明の包含層(土師器皿)、No 2 : -1.1m、鎌倉中期の土壇(土師器皿、瓦脚織)、-1.3m、鎌倉初期の包含層(土師器皿)、-1.7m、平安末期の包含層(土師器皿、須恵器甕、瓦)。	HL 395	3
二条四坊十三町	中・麩屋町通二条上る布袋園町491番地 池	3/27～30、4/3	No 1 : -1.2m、室町後期の包含層(土師器皿)、-1.42m、室町中期の包含層(土師器皿、瓦)、No 2 : -1.64m、室町後期の溝伏の落込(土師器皿)と鎌倉中期の落込(土師器皿、白色土器皿)、No 3 : -1.5m、平安中期のピット(白色土器鉢、須恵器甕)。	HL 452	3



道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	調査No.	図版
二条四坊十五町	中・舟屋町地 地内(丸太町道: 船屋町～鴨川)	05/6/2～ 06/2/28	No16 ; -0.51m. 江戸末期の包含層。No20 ; -0.27m. 江戸末期の包含層。-0.57m. 江戸前期包含層(土師器皿、肥前陶器皿)。 -0.6m. 近世の瓦葺。 -0.2m. 江戸末期の包含層。	HL 084 25-4	3・ 26-4
三条三坊 七町	中・新町通押小路下る中之町31番2	3/17		HL 441	3
三条四坊 八町	中・新町通二条下る等待寺町1-1・3、4-6	05/4/13～ 06/2/2		HL 019	3
三条四坊十三町	中・寺町通三条上る天性寺前町534-1	1/20	-0.8m. 江戸末期の包含層。	HL 367	3
四条三坊 四町	中・新町通錦小路下る小結御町442番地 他1筆、下・四条通西洞院東入郡匠山町25番地 他4筆	05/12/26～28、 06/1/6・11・15	No2 ; -0.35m. 桃山の土壌(土師器皿、天目鉢、焼酎陶器東播系押鉢、磚)。-0.8m. 時期不明のピットと室町のピット(土師器、陶器)。No3 ; -1.7m以下、褐色泥砂の地山、 -1.0mまで現代露土。	HL 343	5
四条四坊 六町	中・堺町通錦藤師下る菊谷町528番	3/2・7・13		HL 419	5
五条一坊 一町	中・壬生橋ノ宮町3	2/17・21	No1 ; -0.87m. 近代の包含層(磁器色絵皿)。 この層から東西方向の石列を検出。No2 ; -1.0m・-1.2mで近世の包含層2。-1.3m以下、にぶい黄色細砂の地山、 -0.82m. 鎌倉前期の包含層(土師器皿)。-1.14mで時期不明の包含層を切って平安末期のピット(土師器皿・甕)。	HL 402	4
五条一坊 十町	下・綾小路通大宮西入坊門町781	1/11・18		HL 354	4
五条二坊十二町	下・櫻ヶ井通高辻下る吉町493-1 他3筆	2/10・13・15・ 17・21・22	No1 ; BM-0.4mで室町末期の包含層(土師器皿)を切って平安～江戸後期の土壌(土師器皿、瀬戸天目鉢、瓦砂鉢、輸入白磁碗、染付、瓦、土師質土器火鉢)。-0.9m. 平安末期の落込(土師器皿、須恵器甕、東播系須恵器、金属製品鉄釘)。 この落込に切られる形で時期不明の落込(土師器皿、瓦)。-1.1m. 平安後期の落込(土師器皿)。No2 ; BM+0.2m. 江戸前期の包含層(土師器皿)。-0.78m. 平安末期～鎌倉初期の落込(土師器皿、焼壺)。No3 ; BM-0.22m. 平安末期の土壌(土師器皿)。-0.53m. 平安中～後期のピット(土師器皿)2	HL 396	4
五条二坊十二町	下・袖小路通高辻下る鹿町	3/22～24・28・ 29	No1 ; -0.8m. 室町末期の包含層(土師器皿、須恵器甕)。-1.46mで鎌倉中期の包含層(土師器皿、鉄拍陶器)を切って室町前期の落込(土師器皿、瓦質土器磁塔、滑石板釜)。肩部に直径0.1m大の石を据え構の可能性がある。-1.95mで平安後期の包含層(土師器皿、須恵器甕)を切って平安末期の落込(土師器皿、輸入玉縁白磁碗)。No2 ; -0.12m. 江戸前～中期の包含層(土師器皿、肥前染付碗、天目鉢)。No3 ; -0.22m. 室町前期の落込(土師器皿、瓦筋脚付皿・羽釜)。	HL 448	4
五条四坊十五町	下・寺町通綾小路下る中之町560番地 他	2/24・28、 3/2・7	-0.8m. 褐色砂礫の裾段状堆積。	HL 411	5
六条二坊 九町	下・櫻ヶ井通松原下る藤原町59 地内(京都市立麗泉小学校)	2/1～3・6	-0.44mで暗褐色砂礫を検出。遺構、遺物は検出できず。	HL 379	4
六条二坊十四町	下・東中筋通五条下る天使染抜三丁目436、油小路五条下る金仏町214-3	3/14	-7.8mまで旧建物による基礎。	HL 437	4
六条三坊十二町	下・烏丸通五条下る大坂町393・船屋町345-2	3/3・7・13	No1 ; -0.22m. 江戸末期の包含層。No2 ; -0m. 江戸末期の瓦葺。 -1.25m. 江戸後期の包含層。	HL 424	5
六条四坊十五町	下・寺町通五条下る西橋詰町755番1、758番	1/10～18		HL 351	5
七条三坊十五町	下・烏丸通西側、五条通～七条通 地内	2/7～21、3/3～ 27、4/7～28、 5/1～24、6/5～ 27、7/3	No1 ; -0.27m. 近世の瓦葺。No9 ; -1.53m. 鎌倉中期の包含層(土師器皿)。-1.64m. 時期不明の南北溝。No10 ; -0.25m. 室町の包含層(土師器皿)。-1.6m. 時期不明の裾段状堆積(土師器皿)。No12 ; -1.5m. 鎌倉前期の裾段状堆積(土師器皿・甕)。No9・10・12で検出した南北溝と裾段状堆積は烏丸小路東側溝。No15 -0.12	HL 389	5-7

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
七条四坊 四町	下・間之町通七条上る堀跡町447、448、449 合地 他3番	1/30、2/1~3・ 6・7・10	m~-1.03mで路面8、-0.81m、江戸後期の包含層(土製品堆積)。№17;-0.3m~-0.6m、時期不明の路面2。 №2;-0.8m、鎌倉前期の包含層(土師器皿、-1.63m、平安後期の湿地状堆積(土師器皿、緑釉陶器鉢)。№3;-0.8m、鎌倉前期の包含層(土師器皿、須恵器鉢)。-1.17m、平安末期の湿地状堆積(土師器皿、黒色土器皿)。-1.35m、平安後期の湿地状堆積(土師器皿・高杯)。-1.54m、平安中期の湿地状堆積(土師器皿、須恵器雙・鉢)。№4;-0.58m、江戸前期の包含層(土師器皿、肥前染付皿)。-0.8m、鎌倉中期の包含層(土師器皿)。-1.17m、平安後期の湿地状堆積(土師器皿、須恵器雙、平瓦)。-1.47m以下、暗緑灰色微砂泥の地山。№5;-0.22m、鎌倉前期の包含層(土師器皿)。-0.5m、平安末期の湿地状堆積(土師器皿)。-0.91m~-1.0m、平安後期の湿地状堆積(土師器皿)2。湿地状堆積は出土遺物から平安中期から末期の池跡と考えられる。	HL 377	7
七条四坊 五町	下・七条通間之町東入材木町482番地、505番地19	2/7・10	-0.4mで灰黄褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	HL 390	7
七条四坊十一町	下・西木堀町通正面下る八王子町115	3/6~8	-1.0m、黄褐色砂礫の基盤状堆積。	HL 425	7
八条二坊十六町	下・袖小路道下魚ノ廻下る袖小路町287番の1、289番	1/13・18	-0.7m、江戸後期の包含層。-1.32m、江戸中期の包含層。	HL 360	6
八条四坊十五町	下・下之町	3/10	-1.0mまで現代盛土。	HL 434	7
九条一坊十六町	南・大吾通八条下る九条町412-26	3/9	-0.2m、近世の包含層。	HL 432	6
九条四坊 三町	南・東九条南山王町6番6	3/20・22・24	№2;-0.93mで灰黄褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	HL 445	7
九条四坊 四町	南・東九条上御堂町58番8	2/22・27・28、 3/2・7	-0.3m、江戸中~後期の包含層(土師器皿・瓦々)。-0.68m、室町前期の高込(土師器皿、瓦器火鉢)。-0.96m、時期不明の柱穴(土師器皿)。-1.37m以下、黄褐色微砂泥粘土の地山。	HL 408	7

### 平安京右京 (HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
北辺二坊 五町	北・北野下白梅町84番地	1/26	-0.15mまで現代盛土。	HR 374	9
一条二坊 九町	北・大得軍西町~大得軍東蔵町	05/11/24~ 06/1/13	№1;-0.6m、平安前~中期の包含層(土師器皿、須恵器)。№3;-0.77m、近世の包含層。	HR 303	9
一条二坊十六町	中・西ノ京中保町1-4 地内 (京都市立北野中学校)	1/13・16	-0.4mまで現代盛土。	HR 359	9
三条一坊 九町	中・西ノ京永本町~西ノ京黒池町 地内	1/24~4/21	-0.7mで黄灰色粘土の地山を切って時期不明の土壌。	HR 370	9
三条二坊 十町	中・西ノ京東中合町、下合町	2/2~10/3	№1;-0.78m、江戸の包含層(施釉陶器水鏡)。-1.48m以下、灰白微砂泥粘土の地山。№3;-1.16m、時期不明の包含層。-1.4m以下、灰白色砂泥の地山。	HR 387	9
三条三坊十二町	中・西ノ京泉原町9-2、右・西院金樋町15-7	3/1・2	-0.2mまで現代盛土。	HR 418	8
三条三坊十四町	中・西ノ京月輪町38	3/16・20	-0.36m、江戸末期の包含層。-0.65m、鎌倉末期の包含層(土師器皿)。	HR 440	8
四条二坊 一町	中・壬生上大竹町28-1	2/24	-0.42mで黒褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	HR 412	11
六条一坊十四町	下・中堂寺黒田町90、91、92	3/13~15・17	-1.15m、時期不明の包含層(土師器皿)。-1.3m以下、褐色砂礫の地山。	HR 436	11
六条一坊十四町	下・中堂寺黒田町90、91、92	3/13~23	-1.53m以下、褐色砂礫の地山。	HR 435	11
六条二坊十五町	右・西院寿町40-2、41、42	2/13・21	-0.25m以下、褐色砂泥の地山。	HR 398	11

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	調査No.	図版
六条四坊十五町	右・西院月双町 地内	05/11/15~ 06/1/25	No 2 ; -1.6m以下、黒褐色砂泥の地山。No 3 ; -1.3m以下、灰オリーブ色粘土の地山。	HR 287	10
七条四坊十二町	右・西京福中町23番2、48番、21番の1の一部、24番の一部、24番1の一部	1/25	No 1 ; -0.24m、近世以降の包含層。No 2 ; -0.4 m、江戸末期の包含層（土師器層）。	HR 373	12
八条二坊十二町	下・七条御所ノ内本町84番2	3/15~20	平安中期の油跡を検出。本報告22ページ。	HR 438	13
八条三坊 二町	下・御所ノ内西町12-6の一部、12-7	2/24~3/6	No 1 ; -0.77m、暗オリーブ灰色泥質粘土の皿地状堆積。	HR 413	12
八条四坊十二町	南・吉祥院向田西町12番地 他	3/1~24、5/17	No 2 ; -1.4m、時期不明の包含層。-1.5m以下、黄褐色粘土の地山。No 3 ; -1.3m以下、黄褐色粘土の地山。	HR 417	12
九条二坊十二町	南・吉祥院清水町1番	1/15・25	-0.32mで暗褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	HR 363	13

### 洛北地区 (RH)

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	調査No.	図版
紫野斎院跡	上・大宮蓮寺之内上る三丁目跡遺構町535番地	1/20・25	-0.2m、江戸末期の包含層。-0.8m以下、明褐色砂泥の地山。	RH 368	19-1
紫野斎院跡・上京遺跡	上・仲之町、北仲之町、監造橋町、前之町、花園院町、礎之口町、阿弥陀寺町、幸在町、芝薬師町	05/9/20~ 06/10/10	-2.4m以下、褐色砂泥の地山。	RH 214	19-1
上京遺跡	上・今出川通大宮東入元伊佐町282番地、今出川通大宮一丁目東入北猪熊町321番8	2/27・28、 3/2・3・6	No 1 ; -0.35m、江戸末期の包含層。-0.95m、室町後期の包含層（土師器層・他）。No 3 ; -0.65 m、江戸末期の包含層（土師器層・胎衣層、漆輪脚器京焼色絵輪）。-1.02m、室町後期の包含層（土師器層）。No 4 ; -1.5m以下、灰色砂泥の地山。	RH 415	19-1
上京遺跡・本興寺の構丸跡	上・小川通今出川上る中小川町242	3/23・24・28	-0.9mで黒褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	RH 451	19-1
北野島居町遺跡	上・御前通今出川上る鳥居前町671 地内（京都市立翔雲小学校）	1/13	No 1 ; -0.2m、室町中期の包含層（土師器層、須恵器層）。-0.5m以下、黄褐色砂泥の地山。No 2 ; -0.3m、室町中期の包含層（土師器層）。-0.9m以下、黄褐色砂泥の地山。	RH 362	19-2
植物園北遺跡・新土居跡	北・上賀茂石計町~小山元町 地先	05/12/12~ 06/2/7	-0.4m、時期不明の包含層。	RH 334	23-1
植物園北遺跡	北・小山元町、上賀茂板井町~上賀茂高橋手町 地内	05/10/18~ 06/5/11	No 2 ; -0.77m以下、暗褐色砂泥の地山。No 9 ; -0.97m以下、褐色砂泥の地山。	RH 256	23-1
植物園北遺跡	北・上賀茂松本町78-1	05/12/14~ 06/1/19	-0.5m・-0.57m、時期不明の包含層2。-0.67m以下、褐色粘土質砂泥の地山。	RH 338	23-1
植物園北遺跡	左・下鴨南野々神町3、3-2	2/6~8・15	No 1 ; -1.4m以下、褐色砂泥の地山。No 2 ; -2.0 m以下、褐色砂泥の地山。	RH 388	23-1
南ノ庄田瓦窯跡	左・岩倉榎町 地先	1/12~2/23	-2.2m以下、にぶい黄褐色粘土の地山。	RH 358	24-1
八幡古墳群	左・岩倉榎町	05/11/30~ 06/1/19	-0.3m以下、赤褐色砂泥の地山。	RH 317	24-1

### 太秦地区 (UZ)

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	調査No.	図版
嵯峨折戸町遺跡	右・嵯峨中又町	05/11/29~ 06/6/15	運河時、工事終了。	UZ 306	20-1
上ノ段町遺跡	右・嵯峨野有額川町、宮ノ元町、神ノ木町、清水町	05/6/27~ 06/9/7	-5.0m以下、褐色砂泥の地山。	UZ 116	20-1
上ノ段町遺跡	右・太秦藤堂山町	3/28~31、4/2・4	No 1 ; -0.3m、時期不明の路面。No 2 ; -1.1m以下、黄褐色砂泥の地山。	UZ 464	20-1
西野町遺跡	右・太秦御所ノ内町1番地	3/6	-0.51m、時期不明の包含層。	UZ 427	20-1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
嵯峨野高田町遺跡	右・嵯峨野東田町～梅津フケノ川町	05/9/20～ 06/3/16	古墳時代後期の墓込と時期不明の竪穴住居と考えられる墓込を検出。本報告36ページ。	UZ 213	20-1
常盤東ノ町古墳群・村ノ内町遺跡	右・常盤東ノ町6-1、6-5、26、26-7、26-8	1/12・19	-0.41m、時期不明の包含層。-0.82m以下、にぶい黄褐色粘土の地山。	UZ 357	20-3

## 北白川地区 (KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
白河街区跡・吉田上大路町遺跡	左・吉田近衛町26-53 他(京都市立近衛中学校)	1/12	-0.2mで黒褐色砂泥層を検出。遺構、遺物は検出できず。	KS 356	17
白河街区跡	左・聖護院内領美町1	3/9・10・13・ 23・24	№1：-0.45m、江戸末期の包含層(施繪陶磁器・焼皿、土師質土器・埴輪、瓦、瓦葺)。№2：-0.65m、江戸末期の包含層。-0.85m、江戸後期の包含層。	KS 420	17
白河街区跡	左・新堀町蓮仁王門下る和国町369番1、372番	3/17・20・22	№1：-0.52m、-0.75m、平安末期の包含層(土師器Ⅱ)。№2：-0.5m、平安中期～鎌倉中期の包含層(土師器Ⅲ、唐草文軒平瓦)。	KS 442	17
岡崎遺跡・白河街区跡	左・岡崎法勝寺町～南禅寺草川町 地内	05/12/8～ 06/6/27	№1：-0.48m、時期不明の路面。№6：-1.1m、時期不明の包含層(土師器)。№12：-2.0m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。	KS 329	17
岡崎遺跡・得長寿院跡	左・岡崎地成町7-8	3/30	-0.2m、江戸の包含層。	KS 467	17
岡崎遺跡・法勝寺跡	左・岡崎法勝寺町 地先	05/10/5～ 06/12/12	-1.3mまで現代盛土。	KS 240	17

## 洛東地区 (RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
隆仁寺境内	東・大和大路通四条下る小松町 隆仁寺	3/7・8・14	-1.05mまで現代盛土。	RT 426	16
隆仁寺境内	東・大和大路通四条下る小松町584	05/11/28～ 06/2/24	-0.2m、時期不明の包含層(瓦、磚)。	RT 309	16
六波羅政庁跡	東・大和大路通五条上る山崎町380-1	1/6・10・11・ 16・18	№1：-1.24m、室町前期の包含層(土師器Ⅲ)。 -1.43m、鎌倉後期の包含層(土師器Ⅲ)。 №2：-1.38m、鎌倉後期の包含層(土師器Ⅲ)。 №3：-1.2m、室町後期の包含層(土師器Ⅲ、灰施繪陶磁器・オシロイ皿)。 -1.38m、室町前期の包含層(土師器Ⅲ、瓦葺・鍋)。 -1.55m、鎌倉末期の包含層(土師器Ⅲ)。 -1.56m、鎌倉後期の包含層(土師器Ⅲ)。 №4：-1.22m、室町中期の包含層(土師器Ⅲ)。 -1.32m、室町前期の包含層(土師器Ⅲ)。 -1.73m、鎌倉中期の包含層(土師器Ⅲ、輸入青磁同安窯系瓦)。	RT 350	16
六波羅政庁跡	東・五条橋東三丁目～下・西橋詰町 地先(一般国道1号)	3/22～4/24	-1.4mまで現代盛土。	RT 447	16
六波羅政庁跡	東・慈法院地町～五条橋東三丁目 地先(一般国道1号)	3/29～4/19	-0.5m以下、灰白色粘土の地山。	RT 455	16
法住寺殿跡・六波羅政庁跡	東・馬町通妙法院北門前妙法院跡町424	05/12/27～ 06/1/16	-0.4mで暗灰黄色泥砂層を検出。遺構、遺物は検出できず。	RT 347	16
法住寺殿跡	東・茶屋町527 京都国立博物館	3/20・21	-0.3mまで現代盛土。	RT 446	16
法性寺跡	東・東福寺境内地 地内	1/24・25、2/2・ 3・7・9・16・21・ 22・24・27・ 28	№2：-0.41m、明黄褐色砂泥の地山を切つて時期不明のピット。№3：-0.7m、平安末期～鎌倉期の包含層(土師器Ⅲ)。 №4：-0.74m以下、明黄褐色砂泥粘土の地山。 №5：-0.36m、江戸後期～末期の包含層。	RT 371	16

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
法性寺跡	東・本町15丁目778 宗教法人東福寺	2/21・22・24	-0.8mまで現代盛土。盛土内より時期不明の平瓦を採集。	RT 407	16
中區遺跡・中區十三塚	山・西野山中区町44 (2号地)	3/23	-0.75mまで現代盛土。	RT 449	23-2
中區遺跡	山・西野山中区町 地先	3/7	-2.0mまで現代盛土。	RT 430	23-2
中區遺跡	山・西野山中区町26-101, 26-102, 26-103	2/13・14	-0.42m、時期不明の包含層。	RT 399	23-2
中區遺跡	山・勧修寺西栗橋野町178	1/26・27・30	No 1 ; -0.54m、時期不明の薄込。No 3 ; -0.8mで黄褐色砂泥の地山を切って時期不明の土壌。	RT 376	23-2
中區遺跡	山・勧修寺東金ヶ崎町114-1	3/6・7	-0.25mまで現代盛土。	RT 428	23-2
大塚遺跡	山・小山北満町15-10の一部	3/10	-0.4mまで現代盛土。	RT 433	25-8

### 鳥羽地区 (TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
久我殿遺跡	伏・久我本町 地先	2/15~3/30	-0.14m・-0.26m、時期不明の踏面2。	TB 401	18
鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏・竹田西小屋ノ内町50の一部 (1号地)	2/2	巡回時、工事終了。	TB 382	21-1
鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏・竹田西小屋ノ内町50の一部 (2号地)	2/2	巡回時、工事終了。	TB 383	21-1
鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏・竹田西小屋ノ内町50の一部 (3号地)	2/2	巡回時、工事終了。	TB 384	21-1
鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏・竹田西小屋ノ内町48の一部、49の一部、50の一部 (4号地)	2/2	巡回時、工事終了。	TB 385	21-1
鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏・竹田西小屋ノ内町48の一部、49の一部 (5号地)	2/2	巡回時、工事終了。	TB 386	21-1
鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏・中島御所ノ内町 地先	3/3・8・9・13	-1.6m、暗褐色砂礫の粗層状堆積。	TB 423	21-1
鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏・中島北ノ口町23	2/21	-0.45mで灰色砂泥を抽出。遺構、遺物は検出できず。	TB 405	21-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田中宮町47-3	3/17	巡回時、工事終了。	TB 444	21-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田中宮町47-1	3/17	巡回時、工事終了。	TB 443	21-1
鳥羽離宮跡	伏・中島堀端町 地先	3/15~30	-0.8m、灰色粘土の礫地状堆積。	TB 439	21-1
下鳥羽遺跡	伏・下鳥羽東芹川町58跡地	2/28	-0.3mまで現代盛土。	TB 416	21-1
唐橋遺跡	南・吉祥院御池町~唐橋堂ノ前町 地内	05/6/7~06/11/28	No 2 ; -1.0m、時期不明の包含層 (土師器)。No 7 ; -2.1m以下、黄褐色砂礫の地山。	TB 092	21-2

### 伏見・醍醐地区 (FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
伏見城跡	伏・深草塚ノ宮町~總屋町 地先 (一般国道24号)	1/26~5/12	-1.1mまで現代盛土。	FD 375	14
伏見城跡	伏・桃山長岡越中北町1~桃山毛利長門西町 地先 (一般国道24号)	1/16~2/14	-0.5m以下、赤褐色粘土質砂泥の地山。	FD 364	14
伏見城跡	伏・桃山福島大夫南町72番、73番1	1/20~2/14	-0.5m以下、黄褐色砂泥の地山。	FD 369	14
伏見城跡	伏・桃山羽衣長吉東町64-2	1/10	-0.37m以下、明褐色砂泥の地山。	FD 352	14
伏見城跡	伏・桃山毛利長門西町地先~豊後橋 地先 (一般国道24号)	1/16~2/2	-1.5mまで現代盛土。	FD 365	14
深草寺跡	伏・深草西伊達町1-4 地内 (京都市立深草中学校)	2/9	-0.73mまで現代盛土。	FD 393	25-6
醍醐寺下院跡	伏・醍醐西大路町128番地 地先	1/25~3/30	-0.4m以下、褐色砂泥の地山。	FD 372	26-3
向島城跡	伏・向島中島町25-1, 25-2の一部	1/6	-0.75mまで現代盛土。	FD 349	26-5

## 長岡京地区 (NG)

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	調査No.	図版
左京八条三坊四町 ・水垂築山城跡	伏・淀水垂町330番21	2/27	-0.3mまで現代盛土。	NG 414	23-3
左京九条二坊九町	伏・淀水垂町330番28	3/30	-0.5mまで現代盛土。	NG 458	23-3
左京九条二坊十五町	伏・淀水垂町 地内	05/12/5~ 06/1/30	-1.03m、灰色粘土の溜地伏堆積。	NG 324	23-3
左京九条二坊十五町	伏・淀水垂町733番地の1	1/10・30	-0.14m、オリープ灰色粘土の溜地伏堆積。	NG 353	23-3
左京九条二坊十六町 ・水垂築山城跡	伏・淀水垂町 地先	05/12/7~ 06/1/30	-0.8mまで現代盛土。	NG 327	23-3
右京北辺四坊十四町	西・大原野上里北ノ町~大原野上里南ノ町 地先	2/1~24、3/3 ~30、4/6~28、 5/1~22	No 1 ; -0.2m、鎌倉の土壌 (瓦器納・羽釜)。 No 2 ; -0.43m、時期不明の包含層 (土師器)。 -0.78m以下、褐色粘土の地山。No 4 ; -0.18m、 時期不明の路面。-0.46m以下、黄褐色粘土の地 山。No 24 ; -0.31m、近代以降の路面。-0.7m、 近代の包含層。No 28 ; -0.21m、時期不明の包含 層。-0.28m、時期不明の包含層。No 29 ; -0.12 m、時期不明の包含層。-0.22m、時期不明の包 含層。No 31 ; -0.5m、近世の包含層。No 33 ; -0.5m、時期不明の包含層 (土師器)。	NG 380	22-1

## 南・桂地区 (MK)

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	調査No.	図版
大 阪 道 跡	南・久世大蔵町188	2/14	-0.28m以下、黄褐色粘土の地山。	MK 400	22-2
中 久 世 道 跡	南・久世大蔵町62 地内 (京都市立大蔵小学校)	1/30、2/3・10	-0.52m、時期不明の包含層。	MK 378	22-2
中 久 世 道 跡	南・久世大蔵町88番地	2/9・10・14	No 2 ; -1.0m以下、暗オリープ灰色粘土の地山。 No 3 ; -1.05mで時期不明の露込を切って平安後 期の露込 (土師器皿、黒色土器筒、瓦器納、瓦)。 No 4 ; -1.2m、時期不明の包含層。No 5 ; -0.3 m、近世以降の包含層。-1.14m以下、褐色粘土 の地山。	MK 394	22-2
福 西 古 墳 群	西・大枝中山町2番72	1/12・13	-0.65m以下、黄褐色粘土の地山。	MK 355	26-8
福 西 古 墳 群	西・大枝東長町 地先	2/1~24	-0.3m以下、褐色粘質砂泥の地山。	MK 381	26-8

II 2006年 4～12月期(平成18年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
大蔵庁	上・浄福寺通一条下る東西後藤町647-4	5/29	-0.15mまで現代盛土。	HQ 067	1
大蔵庁	上・浄福寺通一条下る東西後藤町651-6の 一部、651-8の一部	7/13	-0.1mまで現代盛土。	HQ 177	1
大蔵庁	上・浄福寺通一条下る東西後藤町651-6の 一部、651-8の一部	7/13	-0.1mまで現代盛土。	HQ 178	1
大蔵庁	上・浄福寺通一条下る東西後藤町651-6の 一部、651-7	7/13	-0.2mまで現代盛土。	HQ 179	1
大蔵庁	上・浄福寺通一条下る東西後藤町651-6の 一部、651-8の一部	7/13	-0.3mまで現代盛土。	HQ 180	1
大蔵庁	上・千本通中立売上る玉膳町37番地	8/29	-1.7mまで現代盛土。	HQ 238	1
大蔵庁	上・中立売通千本東入丹波屋町336-2、336-3	11/17	-0.2mまで現代盛土。	HQ 384	1
大蔵庁	上・浄福寺通一条下る東西後藤町649-3	11/6～28	-0.3mまで現代盛土。	HQ 371	1
茶園	上・智恵光院通中立売上る新白水丸町 地先	6/1・5・6	-0.7mまで現代盛土。	HQ 084	1
内教坊	上・和泉町通上長者町上る和永町439-24	9/11	-0.25mまで現代盛土。	HQ 261	1
正観司	上・御前通仁和寺街通下る下町188-3	8/28	-0.4mまで現代盛土。	HQ 232	1
正観司	上・下長者通七本松西入鳳鳴町223-4	10/27	-0.3mまで現代盛土。	HQ 353	1
正観司	上・下長者町通七本松西入鳳鳴町223-6	11/24	No 1 ; -0.17m以下、オリブ褐色砂泥の地山。 No 2 ; -0.25mでオリブ褐色砂泥の地山を切っ て江戸以降の露出。	HQ 396	1
右近衛府	上・御前通下立売上る三丁目西ノ町245-8	11/8	-0.33mまで現代盛土。	HQ 373	1
妻松原	上・下立売通七本松東入西門町436 他	10/12	-0.22mまで現代盛土。	HQ 324	1
妻松原	上・六軒町通下長者町下る七番町321-4	12/12・13	-0.2mまで現代盛土。	HQ 422	1
寅物寮	上・仁和寺街通六軒町西入四軒町142-4	6/21～27	-0.3m、江戸前期の包含層(土師器層)。	HQ 115	1
礎殿寮	上・下長者町通浄福寺西入新御幸町51-1の 一部	12/18	-0.5mまで現代盛土。	HQ 428	1
柴本	上・智恵光院通下長者町上る山本町～智恵 光院通下長者町上る下山里町	5/29～31、6/1 5	-0.38m、室町後期の包含層(土師器層)、-1.36 m以下、黄褐色粘土の地山。	HQ 068	1
柴本	上・西原巴町	7/3・4・7・12・ 21	-0.73m、近世の包含層。	HQ 151	1
柴本	上京区西院巴町 地内	7/21～10/30	無家業の曝を検出。本報告10ページ。	HQ 193	1
左近衛府	上・日暮通上長者町下る須賀町 地先	6/21	巡回時、工事終了。	HQ 109	1
左近衛府	上・出水通大宮西入東天祥町143-2	7/24	-0.45m、時期不明の整地層。	HQ 194	1
左近衛府	上・上長者町通松原町西入須賀町449-1	9/25	-0.3mまで現代盛土。	HQ 293	1
左近衛府	上・和泉町通上長者町上る和永町439-24の 一部	10/2	-0.5mまで現代盛土。	HQ 307	1
左近衛府	上・和泉町通上長者町西入和永町493-24	10/17	-0.2mまで現代盛土。	HQ 334	1
内蔵	上・出水通知恵光院西入田村備前町240-6	9/1	-0.3mまで現代盛土。	HQ 245	1
内蔵	上・下立売通千本東入上る田中町443-1、 443-4	9/8・11	-0.14m、江戸後期の包含層(土師焼残株、施 陶器層)。	HQ 260	1
内蔵	上・東神明町281-2	12/11	-0.37mまで現代盛土。	HQ 417	1
中和院	上・千本通出水下る十四軒町 地先	9/25～10/2	-0.75m以下、オリブ色砂泥の地山。	HQ 292	1
中筋所	上・出水通知恵光院西入田村備前町243-2	10/19	-0.2mまで現代盛土。	HQ 339	1
左兵衛衛	上・日暮通下立売上る天神町585-5	6/9	-0.74m、近世の包含層。	HQ 100	1
造匠司	中・東楽廻西町12-28	11/17	-0.23mまで現代盛土。	HQ 382	1
内匠寮	中・西ノ京左馬寮町20-16	10/17・18	-0.16mまで現代盛土。	HQ 333	1
左馬寮	中・西ノ京左馬寮町1	5/17	-0.2mまで現代盛土。	HQ 052	1
典薬寮	中・西ノ京左馬寮町2-17	6/15	-0.2mまで現代盛土。	HQ 105	1
典薬寮	中・東楽廻西町186-88	4/27	巡回時、工事終了。	HQ 025	1
豊楽院	中・東楽廻西町101	5/30	-0.15mまで現代盛土。	HQ 074	1
豊楽院	中・東楽廻南町8-15	5/28～6/6	-0.35mまで現代盛土。	HQ 065	1
豊楽院	中・西ノ京左馬寮町～東楽廻西町 地先	4/17～7/7	No 6 ; -0.66m以下、黄褐色粘土の地山、No 8 ; -0.45mで時期不明の包含層。	HQ 015	1
豊楽院	中・東楽廻西町 地先	6/27、7/7	-1.0mまで現代盛土。	HQ 122	1
豊楽院	中・東楽廻西町188-68、188-67	7/14	-0.4mまで現代盛土。	HQ 182	1
豊楽院	中・東楽廻西町 地先	10/18～23	-0.8mまで現代盛土。	HQ 337	1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
豊楽院	中・東楽園中町49-3	11/13	-0.2mまで現代盛土。	HQ 378	1
豊楽院	中・東楽園中町40-1	12/14	-0.2mまで現代盛土。	HQ 426	1
豊楽院	中・東楽園中町49-6	12/21	-0.4mで暗褐色粘土質砂泥を抽出。遺構、遺物は抽出できず。	HQ 437	1
豊楽院	中・東楽園中町49-18	12/21	-0.4mで褐色粘土質砂泥層を抽出。遺構、遺物は抽出できず。	HQ 436	1
朝堂院	上・主税町821番地2	5/15	巡回時、工事終了。	HQ 044	1
朝堂院	上・竹屋町道千本東入主税町1141-5	5/30	-0.65mで褐色炭粉を抽出。遺構、遺物は抽出できず。	HQ 075	1
朝堂院	上・千本通二条下る東楽町863-23、872	6/12	-0.5mまで現代盛土。	HQ 102	1
朝堂院	上・下立光通千本東入下る中務町491-55、竹屋町道千本東入主税町1145-1	7/6・10	-1.24m以下、オリープ色砂泥の地山。	HQ 158	1
朝堂院	上・小山町	7/14~21	-0.5mまで現代盛土。	HQ 184	1
朝堂院	上・千本通下立売下る小山町871-3	7/25~28、31	平安時代の整地層。緑釉瓦や三彩の鬼瓦・扇尾を抽出。本報告3ページ。	HQ 185	1
朝堂院	上・千本通二条下る東楽町863番34	8/10・11	-0.63m、近世以降の包含層(丸・道具瓦)。	HQ 215	1
朝堂院	中・東楽園京町17番20	10/10	-0.5mまで現代盛土。	HQ 319	1
朝堂院	上・下立光通千本東入下る中務町491番72	10/24~27・30・31	聚楽館に関連する溝、江戸の土甎、井戸を抽出。本報告6ページ。	HQ 350	1
朝堂院	中・東楽園南町 地先	6/5~7	巡回時、工事終了。	HQ 092	1
内舎人	上・下立光通千本東入下る中務町486-129	6/16	-0.86mでオリープ褐色砂泥を抽出。遺構、遺物は抽出できず。	HQ 106	1
内舎人	上・下立光通千本東入下る中務町491-65	10/10・12	-0.37m、平安中期の包含層(土師器類)。	HQ 320	1
主水司	上・下立光通千本東入下る中務町486番地20	9/20	-0.34mまで現代盛土。	HQ 289	1
大膳職	上・日暮通榎木町下る北伊勢屋町375-2	9/1	-0.15mで灰黄褐色砂泥を抽出。遺構、遺物は抽出できず。	HQ 246	1
大膳職	上・松屋町榎木町下る三丁目663	9/6	-0.18m、近世以降の包含層。	HQ 254	1
大炊寮	上・南伊勢屋町763	4/10・13	-0.25mまで現代盛土。	HQ 004	1
大炊寮	上・日暮通丸太町下る四丁目802-19、802-62	10/23	-0.17mまで現代盛土。	HQ 344	1
太政官	中・二条清福川西二条城町 地先	7/13~9/19	-0.9mでぶい黄褐色砂泥を抽出。遺構、遺物は抽出できず。	HQ 176	1
御井	中・西ノ京車坂町15-26	4/24	-0.25mまで現代盛土。	HQ 020	1
式部省	中・西ノ京式部町22-2	8/7・8	-0.3mまで現代盛土。	HQ 211	1
判事	中・西ノ京内堀町12	5/29~31	-0.5mまで現代盛土。	HQ 073	1

### 平安京左京 (HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
一条二坊 九町	上・東堀川通上長倉町下る二丁目	9/11~21	-1.3mまで現代盛土。	HL 263	2
一条二坊 十二町	上・東堀川通榎木町上る五丁目207番地	10/5~12/27	-0.35m以下、暗褐色砂泥の地山。	HL 315	2
一条二坊 十三町	上・西洞院通下立売下る東藏辻町402番地(京都市立元盛野中学校)	9/6	-1.0m、近世の包含層。	HL 255	2
一条二坊 十三町	上・西洞院通下立売下る東藏辻町402 他(京都市立元盛野中学校)	11/20~24	-1.1m、近世以降の包含層。	HL 386	2
一条三坊 七町	上・新町通下長倉町下る岡御堂町82	5/23~29	-0.1m、江戸末期の包含層。	HL 058	3
二条二坊 一町	上・丸太町通西門東入藤原町532番地、榎木町下る一丁目856番6	10/10・12・16	No 1 : -1.0m、江戸前期の包含層(土師器類、平瓦)。No 2 : -0.5mで黄褐色砂泥の地山を切つて江戸中期の土甎(土師器類、平瓦)。	HL 321	2
二条二坊 十五町	中・榎原町 地地内	8/17~21	-1.0mまで現代盛土。	HL 221	2-3
二条二坊 十六町	中・丸太町通池小路東入横治町115、117-1、西洞院通丸太町上る夷川町392-1の一部	6/2・5	-3.0mまで現代盛土。	HL 090	2
二条三坊 三町	中・西洞院通夷川上る毘沙門町398番3、4	5/23~25・29	No 1 : -0.2m、江戸末期の包含層。No 2 : -0.24m、江戸末期の包含層。-0.88m以下、褐色粘質砂泥の地山。	HL 060	3
二条三坊 九町	上・宝町通榎木町下る大門町270番	7/10	BM+0.59m~-+0.29mまで現代盛土。	HL 165	3



道 跡 名	所 在 地	調査日	調 査 要 要	調査No.	図版
二条三坊 十町	中・烏丸通美川上る少将井町222番地	9/19・20・22・27	No 1 ; -1.3m. 江戸後期の包含層 (土師器Ⅲ). No 2 ; -1.6m. 近世の包含層. -1.9m. 江戸中期の包含層 (土師器Ⅲ. 平瓦).	HL 283	3
二条三坊 十町	中・烏丸通竹屋町上る大倉町218-1, 218-3	10/4・5	-1.1m. にぶい黄褐色砂礫の包蔵状地積.	HL 311	3
二条三坊十一町	中・烏丸通美川上る少将井町227番地 他	10/23	-0.64m. 江戸の包含層.	HL 345	3
二条三坊十六町	上・京都御苑3番地	12/19・20	-0.42m. 江戸末期の包含層.	HL 431	3
二条四坊 三町	中・間之町通美川上る橋町607	9/19・21・22・27	-0.8m. 鎌倉前期の包含層 (土師器Ⅲ). -1.1m. 平安中期の包含層 (土師器Ⅲ).	HL 284	3
二条四坊 十町	中・竹屋町通富小路東入魚屋町439	10/31	-1.27mまで現代盛土.	HL 358	3
二条四坊十一町	中・柳馬場通美川上る5丁目242	7/24	-1.1m. 時期不明の包含層 (土師器Ⅲ).	HL 196	3
二条四坊十三町	中・二条通柳馬場東入晴明町674-3	7/7・10・12・18・24	-0.9m. 平安後期~室町後期の包含層 (土師器Ⅲ. 輸入青磁磁泉窯). -1.24m. 平安中期~中世の落込 (土師器Ⅲ. 焼酎器類).	HL 161	3
三条一坊 七町	中・西ノ京職町69, 69-1	11/24	-1.0m以下, にぶい黄褐色砂礫の地山.	HL 397	2
三条二坊 十町	中・油小路通押小路下る押油小路町238-1	7/18	返照時, 工事終了.	HL 188	2
三条二坊十三町	中・西洞院通姉小路下る姉西洞院町537外2筆	6/21・27	No 1 ; -0.1m. 江戸の包含層. -1.4m. 平安~室町の包含層 (土師器Ⅲ. 須恵器Ⅱ. 緑釉陶器類). No 2 ; -0.1m. 室町の包含層 (土師器Ⅲ).	HL 118	2
三条二坊十五町	中・小川通御池上る下古城町395, 395-2, 396, 399, 400-1, 石橋町438	5/9~30	-0.3m. 江戸末期の包含層.	HL 036	2
三条二坊十五町	中・西洞院通押小路下る押西洞院町603番, 604番合併及び603番, 604番合併1	9/4	-0.3m. 近世以降の包含層.	HL 250	2
三条三坊 二町	中・西洞院通御池上る押西洞院町609	8/7・8・11	-0.5m. 近世の包含層. -1.2m以下, オリブ褐色砂礫の地山.	HL 212	3
三条三坊 四町	中・三条通新町西入釜産町8	6/2・4・7	No 1 ; -0.7m. 時期不明の落込. -0.9m. 江戸中期の包含層 (土師器Ⅲ). No 2 ; -1.3m. 中世の包含層 (土師器, 須恵器Ⅱ, 瓦器, 輸入青磁類). -1.6m. 中世の包含層 (土師器Ⅲ. 須恵器Ⅱ).	HL 207	3
三条三坊 七町	中・衣通池通池上る下妙覚寺町186	8/31, 9/4・7・12	No 1 ; -1.4m. 近世の包含層. No 2 ; -1.6m. 近世以降の包含層. -1.8mでオリブ褐色砂礫の地山を切って時期不明の土壌 (土師器, 須恵器, 瓦器, 平瓦).	HL 243	3
三条四坊 七町	中・御所八幡町240の一部 他3筆	10/30, 11/1	No 1 ; -0.42m. 近世以降の包含層. -1.12m. 近世の包含層. No 2 ; -1.5m. 江戸後期の包含層 (土師器Ⅲ).	HL 355	3
三条四坊十二町	中・富小路通三条上る福長町101番地	6/16~7/3	江戸前期の土壌を抽出, 本報告17ページ.	HL 107	3
三条四坊十三町	中・寺町通三条上る天性寺前町537	5/11・12・15	No 1 ; -0.2m. 焼土を含む江戸末期の包含層. No 2 ; -0.25m. 江戸後期の包含層 (土師質土器Ⅱ. 磁器).	HL 038	3
三条四坊十六町	中・御幸町通二条下る山本町418番地1 他2筆	10/31, 11/1・6・8・10	No 1 ; -1.56m~-1.63m. 江戸前期の包含層 (土師器Ⅲ. 輸入明染付皿, 平瓦) 2. -1.0m~-1.1m. 江戸末期の包含層. No 3 ; -1.0m. 室町末期の履地状地積 (土師器Ⅲ). -1.3m. 室町後期の包含層 (土師器Ⅲ). -1.5m. 時期不明の包含層 (土師器Ⅲ).	HL 359	3
四条二坊 四町	下・四条通大宮東入立中町491	12/11・14	-0.9m以下, 黄褐色砂礫の地山.	HL 420	4
四条二坊 十町	中・堀川通六角下る産屋町247番, 247番の5, 247番の6. 越後町186番の1	12/5・7・11	-0.35m. 近世以降の包含層.	HL 405	4
四条二坊 十町	中・油小路通六角下る六角油小路町332番地	9/11・13・15	-0.44m. 江戸中~後期の包含層 (土師器, 施釉陶器Ⅲ. 須恵器Ⅱ. 瓦).	HL 264	4
四条二坊十三町	中・西洞院通姉小路下る姉山町481番地の1, 下・四条通油小路東入傘鉦町52番地 他	9/11・15	-0.55m. 近世以降の包含層. -0.75m. 江戸の包含層.	HL 282	4
四条三坊 一町	中・六角通新町西入六角町93番, 93番1	6/28, 7/7	-1.45m. 江戸前期の包含層 (土師器Ⅲ. 施釉陶器Ⅲ. 須恵器Ⅱ).	HL 126	5
四条三坊 三町	中・西洞院通姉小路下る古西町455, 457, 西洞院小路町244	12/20・26	No 1 ; -1.0m. 江戸前期の包含層 (土師器Ⅲ). No 2 ; -0.15m. 江戸末期の包含層.	HL 433	5
四条三坊 六町	中・室町通姉小路上る山伏山町551番地の2	5/17・19・24・25・29・30, 6/5	No 1 ; -0.5m. 江戸末期の包含層. -0.93m. 焼山の包含層 (土師器Ⅲ. 瓦器Ⅱ). -1.08m.	HL 050	5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
四条三坊十三町	下・四条通東洞院長刀餅町33 他3箇	9/12・14	室町末期の包含層(土師器Ⅱ)。No 2 ; -1.5m・-2.24m。江戸後期の包含層2。-2.45m。室町末期の層地状堆積(土師器Ⅱ、焼締陶器Ⅱ)。 -3.05m以下、灰色砂礫の地山。No 2 ; -2.43m以下、褐色粘土の地山。	HL 272	5
四条四坊 六町	中・錦小路通高倉東入中魚屋町508	4/26~28、5/1	-3.0m以下、暗赤褐色砂礫の地山。 No 1 ; -0.35m。江戸末期の包含層。No 2 ; -0.78m。江戸の包含層。	HL 023	5
四条四坊十一町	中・柳馬場通鍋釜下下十文字町434、435	10/31~11/10	-1.4m。江戸末期の包含層。	HL 360	5
五条一坊十五町	下・大宮通綾小路下る綾大宮町68番地	5/29~6/5	-1.1m以下、褐色砂礫の地山。	HL 070	4
五条二坊 二町	下・大宮通綾小路下る綾大宮町57番地	5/15~30	-1.2m以下、灰黄褐色砂礫の地山。	HL 045	4
五条二坊 二町	下・風門通綾小路下る塩屋町169	7/10	-0.45mまで現代盛土。	HL 163	4
五条二坊 三町	下・大宮通弘光寺下る五坊大宮町77番1	10/31、11/13、14・17・24	No 1 ; -0.85m。時期不明の包含層(土師器Ⅱ、焼締陶器Ⅱ)。No 2 ; -0.5m。江戸後期の包含層。No 4 ; -0.8m。江戸の包含層。	HL 361	4
五条二坊 三町	下・大宮通弘光寺下る五坊大宮町96、86-1	12/4・11・14・15・19	-0.6m。江戸前期の包含層(土師器Ⅱ、堂々)。 -0.88m。時期不明の包含層(土師器Ⅱ)。	HL 407	4
五条二坊 九町	下・四条通堀川東入柏屋町22 他	12/20・25~27	No 1 ; -0.3m。江戸末期の包含層。No 2 ; -0.97m。時期不明の包含層。-1.25m以下、褐色砂礫の地山。No 3 ; -1.5m以下、灰色粘土の地山。	HL 434	4
五条二坊十一町	下・弘光寺通堀川東入喜吉町156	9/14・15・19、10/2・4・6	No 1 ; -0.1m。近世以降の包含層。-0.4m。江戸の包含層。-0.85mで平安末期の包含層(土師器Ⅱ)を切って中世の落込(土師器Ⅱ、焼締陶器Ⅱ、丹波播磨)。-1.05m以下、褐色砂礫の地山。No 3 ; -1.42m。江戸の包含層(焼締陶器Ⅱ)。 -1.47mで褐色砂礫の地山を切って鎌倉の落込(土師器Ⅱ、焼締陶器Ⅱ)。	HL 278	4
五条二坊十三町	下・西洞院通高辻下る高辻西洞院町801-1、801-2	6/29、7/7	-0.55mで時期不明の包含層(土師器Ⅱ)を切って鎌倉中期のピット(土師器Ⅱ)。	HL 129	4
五条三坊 一町	下・新町通四条下る四条町364他 7 箇	9/1・4・7・12、19・21	No 1 ; -1.6mで室町前期の包含層(土師器Ⅱ、焼締陶器Ⅱ、播磨)を切って室町中期の落込(土師器Ⅱ)。No 2 ; -1.3m。室町後期の包含層(土師器Ⅱ、瓦器、輸入白磁、焼締陶器Ⅱ、石製品硯)。No 3 ; -3.1m。平安前期の包含層(焼締陶器Ⅱ)。No 4 ; -3.2m以下、灰オリブ色粗砂の地山。	HL 247	5
五条三坊 三町	下・西洞院通弘光寺下る本柳水町767	9/4・7	-1.0m以下、灰黄褐色細砂の地山。	HL 251	5
五条三坊 七町	下・善長寺町137、139	6/14・16・19・26、7/7・12・24・27	No 1 ; -0.7m。時期不明の包含層(土師器Ⅱ)。 -1.1m。時期不明の包含層(瓦、土塊)。-1.5m。時期不明の包含層(土師器Ⅱ、焼締陶器Ⅱ)。 -1.8m。室町末期の包含層(土師器Ⅱ、輸入白磁、金属製品釘)。No 2 ; -0.45m。近代以降の石組の井戸。-1.4m。近世以降の包含層。No 3 ; -0.99m。近代以降の包含層。-1.55m。時期不明の包含層(土師器Ⅱ、須恵器Ⅱ)。 -3.6mまで目録物による基礎。	HL 103	5
五条三坊 八町	下・室町通四条下る陣針町482番地、480番地	6/12		HL 101	5
五条四坊 四町	下・東洞院通高辻下る鹽屋町590番2	10/4・6・10	No 1 ; -0.4m。近世以降の包含層。-1.25m。時期不明の包含層(土師器Ⅱ)。No 2 ; -2.16m以下、暗褐色砂礫の地山。	HL 310	5
五条四坊十四町	下・弘光寺通御幸町西入大黒町276-2、276-3、278、280番地、御幸町通弘光寺下る横町431、435-2、435-3番地	4/24・25・28	-1.45m。時期不明の包含層(土師器Ⅱ、灰釉陶器Ⅱ、土器Ⅱ)。 -1.9m以下、褐色砂礫の地山。	HL 019	5
五条四坊十四町	下・弘光寺通御幸町西入大黒町276-2、276-3、278、280番地、御幸町通弘光寺下る横町431、435-2、435-3番地	12/11・14・15・20・25・26・27	No 1 ; -1.34m。鎌倉中~後期の包含層(土師器Ⅱ)。 -1.74mで黄褐色砂礫の地山を切って鎌倉前~中期の土器Ⅱ(土師器Ⅱ、須恵器Ⅱ、瓦器Ⅱ、輸入白磁Ⅱ)。No 2 ; -1.4m。江戸末期の壺地層(型土人形)。 -1.77m以下、灰黄褐色砂礫の地山。No 3 ; -1.1m。時期不明の包含層(土	HL 418	5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
五条四坊十六町	下・綾小路通船越町西入八文字町334	7/13・18・24	跡部里、黒輪陶器変)。-1.7m以下、黄褐色砂礫の地山。No 4 ; -0.2m、江戸末期の黄土整地層。No 5 ; -1.4m、江戸末期の瓦層。-1.9m以下、黄褐色砂礫の地山。	HL 173	5
六条一坊 二町	下・中堂寺坊城町33番地 他	4/14・17	No 1 ; -0.9m、時期不明の包含層(土師器)、No 2 ; -0.1m、江戸末期の包含層。	HL 011	4
六条一坊十五町	下・松屋町通松原下二丁目下長福寺町273、274、300-1	7/7・12	No 1 ; -1.1m以下、褐色砂礫の地山。No 2 ; -0.57m、室町前期の包含層(土師器皿、-1.05m以下、褐色粘土の地山。	HL 160	4
六条一坊十五町	下・中堂寺御首町24	9/13・20	-0.2mで黒褐色砂泥を検出。遺跡、遺物は検出できず。	HL 274	4
六条一坊十六町	下・大宮通松原下西側上五条町386-2	5/10~12・15・16・18・22	No 1 ; -1.1m、江戸後期の包含層(肥前青磁碗)、-1.57m以下、灰黄褐色砂礫の地山。No 2 ; -1.3mで暗褐色砂礫の地山を切って江戸前期の土境(土師器皿・土師、黒輪陶器志野織部茶入、焼締陶器鉢鉢)。	HL 037	4
六条二坊 九町	下・藤ヶ井通松原下の羅羅院64番地 他4庫	7/3	-0.3mまで現代盛土。	HL 149	4
六条三坊 一町	下・松原通西河院東入坂下町28番、新町通松原下の宮水町103番2	8/30	巡回時、工事終了。	HL 242	5
六条三坊 三町	下・橋梅通西河院東入八百屋町59	4/26~5/1	-0.3m、江戸末期の包含層。	HL 022	5
六条三坊 七町	下・室町通五条上る板東屋町261-2、261-3、264番地	10/12・13・16~18	No 1 ; -1.43m、時期不明の包含層(土師器)、No 2 ; -0.6m、室町の土境(土師器皿、-1.0m、鎌倉後期の土境(土師器皿)、-1.1m、時期不明の落込(土師器)、-1.5m、時期不明のピット(土師器)。	HL 325	5
六条三坊 九町	下・元徳寺学区弁財天町328	6/28、7/7	-0m、近世以降の包含層。-0.97m、室町末期の包含層(土師器皿)。	HL 127	5
六条三坊十四町	下・不明門通五条下る上平野町445、445-2、447	9/14・15	-1.6mまで現代盛土。	HL 277	5
六条四坊 二町	下・五条通東河院東入万寿寺町122番、東河院通五条上る深草町590番	5/23~25・29、6/5	No 1 ; -1.2m、江戸末期の包含層。-1.7m、江戸の包含層。-1.9m以下、黄褐色砂礫の地山。-0.5m、江戸末期の包含層。-1.8m以下、黄褐色砂礫の地山。	HL 059	5
六条四坊 二町	下・間之町通五条上る朝妻町108番-1	7/3・7・12	No 1 ; -2.0m、平安~鎌倉の包含層(土師器皿、緑輪陶器)、No 2 ; -1.3m、室町末期の包含層(土師器皿、焼締陶器、瓦)。	HL 148	5
六条四坊 二町	下・東河院通五条上る深草町590-1、592-1	9/25~27	-0.12m、近世以降の黄土層。-1.0m、近世の包含層。	HL 294	5
六条四坊 二町	下・東西院通五条上る深草町585-1	11/20・21・27・29	No 1 ; -1.0m ~ -1.55m、江戸の包含層2。No 2 ; -2.6m以下、明黄褐色砂礫の地山。	HL 385	5
六条四坊 五町	下・富小路通六条上ル533	8/21	-0.45m、近世以降の包含層。	HL 229	5
六条四坊 八町	下・松原通平町東入杉屋町293-3	4/3・4	-0.25m、江戸末期の包含層。	HL 001	5
六条四坊十五町	下・船越町通五条上る下辨町458-2	11/6・8・9・10	-0.4m、江戸末期の包含層。-1.05m、江戸後期の隠地状堆積。	HL 368	5
七条一坊 七町	下・西新屋敷上之町141番地	11/30、12/4・7・12	-0.77m、時期不明の包含層(土師器皿)、-0.95m、平安の包含層(瓦)、-1.14m、時期不明の包含層(土師器変)。	HL 404	6
七条一坊 八町	下・壬生通五条下る小坂町へ花輪町通壬生川東入藤園町 地先	5/29~6/13	No 1 ; -0.6m、時期不明の包含層。No 3 ; -0.5m、江戸以降の包含層。	HL 069	6
七条一坊 十町	下・花屋町通徳橋西入藤園町173-4、173-5、173-6、173-12、173-11の一部	12/7・12	-1.55m以下、褐色砂礫の地山。	HL 414	6
七条二坊 五町	下・七条通佛館東入西八百屋町153番地	11/2・6~9・13	-0.19mで室町末期の包含層(土師器皿)を切って近世以降の落込。-0.77m、室町後期の落込(土師器皿)、-0.8mで時期不明の包含層(土師器皿、須恵器)を切って室町中期の落込(土師器皿)。	HL 366	6
七条二坊 十町	下・西中筋通花屋町下る辨町95番地	11/9・10	-0.8m、時期不明の包含層(土師器)。	HL 376	6

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	版数
七条二坊十四町	下・抽小路正面下の玉本町190、191-1、191-2	11/20・21・24・27・29、12/4・12・15・19	No 1 ; -1.4m、時期不明の包含層。No 3 ; -1.3m、江戸後期の包含層。No 4 ; -1.3m、江戸後期の包含層。-1.43m、鎌倉中～後期の包含層(土師器Ⅲ)。-1.55m、時期不明の包含層(土師器Ⅲ)。No 5 ; -1.0m、室町前期の土層(土師器Ⅲ)。-1.25m、時期不明の包含層。-1.42m、鎌倉中期の包含層(土師器Ⅲ、輸入青磁Ⅱ)。No 6 ; -0.96m、江戸後期の包含層(土師器Ⅲ、施釉陶器、瓦)。No 7 ; -0.4m、江戸末期の包含層。-1.1m、平安末期～中世の礫地状堆積(土師器Ⅲ)。	HL 387	6
七条三坊 六町	下・新町通北小路上る平野町787-4	10/4～18	-0.7m、近世以降の包含層。	HL 309	7
七条三坊十三町	下・不明門道七条上る粉川町231番地	8/30・31、9/4	No 1 ; -0.35m、江戸末期の包含層。No 2 ; -0.6m、近世以降の包含層。-0.96m、近世の包含層。-0.93m、平安後期の包含層(土師器Ⅲ)。-1.12m以下、黄褐色砂礫の地山。	HL 241	7
七条四坊 一町	下・間之町蓮花屋町下る天神町404、420番地	12/7・15・19	-0.93m、平安後期の包含層(土師器Ⅲ)。-1.12m以下、黄褐色砂礫の地山。	HL 415	7
七条四坊 三町	下・間之町通正面下の榎木町301、東側院通正面東入付人横町47-1	9/6	-0.35m、近世以降の包含層。	HL 256	7
八条一坊 四町	南・八条通、千本道～大宮通 他	6/19～9/28	No 4 ; -0.6m、近世以降の氈蓋状堆積。No 5 ; -1.1m以下、褐色砂礫の地山。	HL 111	6
八条一坊 五町	南・壬生通八条上る八条町509-2・3	11/1・6・7	-1.2m、褐色細砂の氈蓋状堆積。	HL 365	6
八条一坊十三町	南・八条通大宮西入八条町～八条坊門町地先	8/18～9/21	-0.47mで暗オリーブ灰色硬砂を検出。遺構、遺物は検出できず。	HL 224	6
八条二坊 四町	南・大宮通八条上る大黒町294-1、294-2	11/20・22	-0.6mまで現代盛土。	HL 388	6
八条二坊 五町	南・西九条成光寺町6、6-3、5、2-2、4、2、1	12/14	-0.8m、褐色砂礫の氈蓋状堆積。	HL 427	6
八条二坊十四町	下・抽小路通抽小路下の南不動堂町	9/12～10/4	-3.4mまで現代盛土。	HL 273	6
八条三坊 五町	下・烏丸通抽小路下の東塩小路町	7/31、8/1～3、22・23・26、9/4	-1.8m、江戸中期の包含層(土師器灯明Ⅲ)。-2.12m、江戸初期の包含層(土師器Ⅲ)。-2.82m、平安後期の包含層(土師器Ⅲ、灰釉陶器、瓦葺機)。-2.75m以下、黄褐色砂礫の地山。	HL 200	7
八条四坊 四町	下・八条通竹田街道東入東塩小路高倉町地先	7/13・14	-0.8mまで現代盛土。	HL 164	7
八条四坊 九町	下・七条通西木屋町西入新日吉町138-1、138-2	10/16・18	-0.53m、近世以降の包含層。-1.4m以下、ぶい黄褐色砂礫の地山。	HL 332	7
九条一坊 八町	南・壬生通八条下る東寺町533番地	7/24	-0.15mで灰黄褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	HL 186	6
九条一坊十六町	南・大宮通八条下る九条町399-26	4/12・13・17	No 1 ; -0.23m、江戸末期の包含層。-0.92m、時期不明の包含層。No 2 ; -0.25m、江戸末期の包含層。-0.9m、室町末期の包含層(土師器Ⅲ)。	HL 007	6
九条一坊十六町	南・九条町621-1	9/1・4	-0.42m、平安後期の包含層(土師器Ⅲ、瓦葺機)。	HL 248	6
九条一坊十六町	南・大宮通八条下る九条町12番20	9/25～27	-0.3mまで現代盛土。	HL 297	6
九条二坊 十町	南・西九条北ノ内町～西九条春日町	7/7～8/28	-1.13mまで現代盛土。	HL 159	6
九条二坊 十町	南・西九条北ノ内町98	12/27	-0.48m、江戸中期の包含層(土師器Ⅲ、金属製品鉄釘)。-0.88m、江戸前期の包含層(土師器Ⅲ)。	HL 443	6
九条二坊十二町	南・西九条康王町10番地	6/28	-1.2m、ぶい黄褐色粗砂の氈蓋状堆積。	HL 119	6
九条四坊 二町	南・東九条東山王町30-A	7/24	-0.9mまで現代盛土。	HL 195	7
九条一坊 四町	南・四ッ塚町26-1、26-2	4/14-17	-0.54m、江戸末期の包含層。-0.65m、江戸後期の包含層。	HL 012	6
九条四坊十三町	南・東九条西四町35-1、36	6/2・5・6・7・9・13・16	No 1 ; -2.6m以下、オリーブ灰色粘土の地山。No 2 ; -1.55m、時期不明の氈蓋状堆積(土師器Ⅲ)を検出。No 3 ; -1.5m、近世以降の氈蓋状堆積。	HL 088	7
九条四坊十六町	下・屋形町17番地 他	6/9	-3.3mまで現代盛土。	HL 099	7

平安京右京 (HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
一条三坊 二町	中・西ノ京御興興町15-2、15-3	4/24・25・27	-0.35m以下、にぶい黄褐色粘土の地山。	HR 018	8
一条四坊十一町	右・花園寺ノ前町40-31	4/4・5	-1.7m以下、明黄褐色及び淡黄色粘土の地山。	HR 002	8
二条三坊 三町	中・西ノ京北堂井町1、25-2	7/24	-0.7mまで現代盛土。	HR 189	8
二条三坊十三町	中・西ノ京藤ノ木町11-7	6/27・28	-0.2mまで現代盛土。	HR 123	8
二条四坊 九町	右・太秦安井車道町19-7	8/29・31	-0.1m、竈町の包含層(瓦器類)。-0.7m以下、明黄褐色砂泥の地山。	HR 237	8
三条一坊 一町	中・西ノ京墨池町46-1	8/21	-0.1mまで現代盛土。	HR 225	9
三条一坊 五町	中・西ノ京小倉町4番5、4番6	5/25~6/12	-0.5mまで現代盛土。	HR 062	9
三条一坊 七町	中・西ノ京墨池町37番2、42番35、42番37、42番36 (二条駅土地区画整理地区12街区1・2・3画地)	9/19	-0.6mまで現代盛土。	HR 285	9
三条一坊 七町	中・西ノ京墨池町38-1番地 地先	9/29~11/14	No 2 ; -1.1m、平安の落込(土師器皿、輸入白磁、ID、3 ; -0.9mで黄褐色砂礫の地山を切って近世以降の土層。	HR 299	9
三条一坊 七町	中・西ノ京墨池町4-9、37-1-B、4-10、2-3、桐尾町3-13-A、44-1の一部、小倉町10、10-2の一部	11/13~12/15	-1.3mまで現代盛土。	HR 379	9
三条一坊十一町	中・西ノ京東月町22 他	9/4・5	No 2 ; -0.45mで平安前期の包含層(土師器皿・甕、灰陶罐、丸・平瓦)を切って平安中期の落込(土師器皿・甕、輸入青磁碗)。南北溝と考えられる。-0.73m以下、灰黄褐色微砂の地山。No 3 ; -0.37m、時期不明の包含層(土師器)。No 4 ; -0.45mで黄褐色砂礫の地山を切って平安中期の土層(土師器皿、須恵器蓋、輸入白磁)。	HR 252	9
三条三坊 一町	中・西ノ京中西合町25番地	9/27	-1.2m、時期不明の掘地状堆積(土師器皿)。	HR 298	8
三条四坊 二町	右・山ノ内御堂殿町9-1	7/14・21	-0.35m以下、黄褐色砂泥の地山。	HR 183	8
三条四坊十六町	右・太秦安井西沢町16-3 他	7/10	-0.7mまで現代盛土。	HR 167	8
四条一坊十五町	中・壬生中川町20番地 朱雀中学校	8/10	-1.15m、近代の掘地状堆積。-1.62m以下、緑灰色微砂の地山。	HR 216	11
四条二坊 二町	中・壬生東大竹町29-17	7/4	-0.45mまで現代盛土。	HR 152	11
四条二坊 二町	中・壬生東大竹町29-1	11/8	-0.35m、江戸末期の包含層。	HR 375	11
四条二坊十二町	右・西院東洋和院30-1	6/14・16・19	No 1 ; -0.26m、近世の包含層。No 2 ; -0.93m、時期不明の包含層(土師器皿、須恵器甕)。	HR 104	11
四条三坊 二町	右・西院下花田町16	8/31、9/1・4・5・7	-0.62m、江戸前~中期の包含層(土師器皿、施釉陶器類、戸灯明)。	HR 244	10
四条三坊 三町	右・西院春日町3-1 (西院小学校)	8/11	-0.25mまで現代盛土。	HR 220	10
四条三坊 五町	右・西院乾町48-2	10/3	-0.5mまで現代盛土。	HR 308	10
四条三坊 五町	右・西院乾町49番の一部	11/20・24	-0.35mまで現代盛土。	HR 389	10
四条三坊十六町	右・山ノ内養老町7-1	9/22	-1.1mまで現代盛土。	HR 291	10
四条四坊 九町	右・山ノ内西高町12	9/6	-0.28mまで現代盛土。	HR 258	10
四条四坊 十町	右・山ノ内西清町3番25、4番3、5番6	9/25~27	-1.0m、時期不明の包含層(土師器)。	HR 295	10
五条一坊 七町	中・壬生高樋町59-1、67-5、60-78	12/6	-0.4mまで現代盛土。	HR 413	11
五条二坊 一町	中・壬生仙念町9番地の一部、9-2の一部、9-3の一部	6/8、8/2~4	No 1 ; -1.6m、平安~江戸の掘地状堆積(土師器皿・高杯、須恵器杯、施釉陶器)。-1.9mで灰色砂泥の地山を切って時期不明の落込。No 2 ; -1.6m、時期不明の掘地状堆積(土師器、須恵器、黒色土器)。-2.45m以下、灰色粘土の地山。	HR 097	11
五条二坊 九町	右・西院高山寺町7番地	5/10~12	-1.6m、平安前期の包含層(土師器皿)。-1.86m、時期不明の柱穴。-2.23m以下、オリープ灰色粘土の地山。	HR 034	11
五条二坊十二町	右・西院平町4番1、4番3の一部	8/28・29	-0.15mまで現代盛土。	HR 233	11
五条三坊 一町	右・西院松井町20-2、21-1	10/17~20・23	No 1 ; -0.5m、近世以降の包含層。-1.04m、時期不明の包含層(土師器)。-1.6m以下、灰オリープ色砂礫の地山。No 2 ; -0.9m、近世以降の包含層。-1.2m、時期不明の包含層(土師器、平瓦)。-1.53m、時期不明の包含層(土師器)。	HR 335	10

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
五条三坊 一町	右・西院松井町11-4, 11-7	7/4	No 3 ; -1.55m. 室町の埋地状堆積(土師器皿、焼締陶器類)。-2.03m以下、灰色砂礫の地山。-0.15mまで現代盛土。	HR 153	10
五条三坊 八町	右・西院坪町116	8/9・11・14	No 1 ; -0.36m. 近世以降の包含層。No 2 ; -0.6 m. 時期不明の包含層(土師器)。-1.0m以下、明黄褐色砂礫の地山。	HR 214	10
五条三坊十四町	右・西院清水町～西院日置町 地先	5/30～6/5	-0.65m. 褐色粘土の埋地状堆積。	HR 077	10
五条三坊十四町	右・西院日置町125番	9/13・15	-0.8mで灰黄褐色砂礫を抽出。遺構、遺物は検出できず。	HR 275	10
五条三坊十五町	右・西院日置町89	10/17～27	-0.95m. 近代以降の耕作土。	HR 336	10
五条四坊 四町	右・西院清水町 地先	5/30～6/9	-0.65m. 暗オリーブ灰色粘土の埋地状堆積。	HR 078	10
五条四坊十一町	右・西院安塚町73-1	10/18～24	-1.4mまで現代盛土。	HR 338	10
五条四坊十三町	右・西院月双町～西院安塚町	4/17～10/3	No 1 ; -1.16m・-1.22m. 平安後期の包含層(土師器皿・高杯) 2。No 8 ; -0.82m. 時期不明の包含層。-1.02m以下、褐色砂礫の地山。	HR 014	10
五条四坊十三町	右・西院西田町102	11/28～30、12/4	-0.8m. 室町の包含層(土師器皿・甕、瓦葺輪形瓦火鉢)。-1.22m以下、褐色砂礫の地山。	HR 400	10
五条四坊十四町	右・西院東貝川町62番	12/18～22	-0.92m以下、にぶい黄褐色粘土の地山。	HR 429	10
五条四坊十六町	右・西院安塚町 地内	5/29～10/3	-1.33m. 時期不明の包含層。-1.73m以下、褐色粘土の地山。	HR 071	10
六条一坊 二町	下・中堂寺北町18-9	9/29	-1.06m以下、オリーブ灰色砂礫の地山。	HR 300	11
六条一坊 九町	下・中堂寺庄/内町1-39	10/2・3	No 1 ; -0.74m. 平安前期の包含層(土師器皿)。No 2 ; -1.02m. 平安前期の包含層(土師器皿・甕・杯・高杯、須恵器杯)。	HR 302	11
六条二坊 三町	下・西七条東御前田町24番 他6番、赤社町20-1番 他8番	6/30	-1.18m. 平安中期の包含層(土師器皿)。-1.6m以下、暗灰黄色砂礫の地山。	HR 130	11
六条二坊 四町	下・西七条赤社町31、32、33、35	5/8～10	-0.55m. 時期不明のピットと落とし。ピットは抗溝の可能性がある。-1.0m以下、時期不明の道路状堆積。	HR 026	11
六条二坊十二町	右・西院東中水町13-2、13-3	11/17	-0.46m以下、褐色砂礫の地山。	HR 383	11
六条三坊十三町	右・西院藤豆田町～西院蘆六反田町 地先	6/29、7/7	-0.85m以下、にぶい黄褐色砂礫の地山。	HR 128	10-12
七条一坊十六町	下・西七条八反田町 地先	8/23～11/24	No 2 ; -0.4m. 黒色粘土の埋地状堆積。No 9 ; -0.45m以下、褐色粘土の地山。	HR 231	13
七条二坊十二町	下・西七条北衣田町43番、44番、47番、及び48番の一部	6/30	-0.72m以下、灰黄褐色粘土の地山。	HR 132	13
七条二坊十四町	下・西七条南衣田町20番地の2	8/21・22	-0.55m. 平安中期の包含層(土師器皿・甕、須恵器甕、平皿)。	HR 226	13
七条三坊十六町	右・西院藤豆田町23	11/24	-0.2mまで現代盛土。	HR 398	12
七条四坊 一町	右・西院藤豆田町4	8/17	-0.25mまで現代盛土。	HR 222	12
七条四坊 二町	右・西院藤時野町～西院蘆豆田町 地先	8/29～10/3	-1.3mまで現代盛土。	HR 236	12
七条四坊 四町	右・西院藤東町 地先	5/8～31	-0.7m以下、黄褐色粘土の地山。	HR 027	12
七条四坊十二町	右・西院蘆中町21番1の一部、24番の一部、24番の1の一部	8/1	-0.37mまで現代盛土。	HR 204	12
七条四坊十五町	右・西院藤西池田町10番地	9/22～10/17	-2.35m以下、黄褐色砂礫の地山。	HR 290	12
八条一坊十六町	下・西七条南東野町41番地、4番地2	9/11～15	-1.5m以下、黒褐色細砂の地山。	HR 265	13
八条二坊 十町	下・西七条南衣田町100、七条御所/内北町87	5/15～17	-1.05m以下、オリーブ褐色細砂の地山。	HR 047	13
八条三坊 二町	下・在笠西側、七条通～七条通下二筋目 地内	10/13・16・17・24・31	-1.06mでオリーブ灰色砂礫を抽出。遺構、遺物は検出できず。	HR 328	12
八条三坊十二町	南・吉祥院西/庄西浦町11-1、18	4/10、6/15	-0.2mまで現代盛土。	HR 005	12
八条四坊 二町	右・西院中沢町 地内	10/31～11/16	-1.3mまで現代盛土。	HR 362	12
九条一坊 一町	南・唐橋赤金町19-1	4/11～13・17	BM-0.9m. オリーブ灰色砂礫の埋地状堆積。底部に時期不明の石敷遺構。-1.09m以下は砂礫となる。	HR 006	13
九条一坊 二町	南・唐橋赤金町64番2の一部	12/12	-0.42mまで現代盛土。	HR 423	13
九条一坊 七町	南・唐橋井原町 地先	7/10～8/25	-0.4m以下、暗灰黄色砂礫の地山。	HR 166	13
九条一坊十二町	南・唐橋花園町9-17	11/22	-0.23mで灰オリーブ色粗砂を抽出。遺構、遺物は検出できず。	HR 394	13
九条二坊 三町	南・唐橋平塚町57-2	7/25	-0.3m. 近世以降の包含層。	HR 198	13
九条二坊 五町	南・唐橋大宮沢町8-1、8-3	10/4	-0.3mまで現代盛土。	HR 312	13

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
九条二坊 九町	下・七条御所ノ内南町76-3、76-2、76-5	7/24	-0.9mまで現代盛土。	HR 190	13
九条二坊十二町	南・唐橋西平坂町1-6	6/21・27	-1.0m以下、灰黄褐色砂の地山。	HR 116	13
九条三坊十五町	南・吉祥院前河原町29番地1	7/6	-0.45m、近世の包含層。	HR 157	12
九条四坊十六町	南・吉祥院大河原町2番地	10/12	-1.05m、ぶい黄褐色砂礫の氾濫伏地塊。	HR 326	12

## 洛北地区 (RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
御土居跡	北・小山東花地町	9/14・20・27、 10/4・5	-0.55mで褐色砂礫の地山を切って時期不明の落込(土師器、須恵器)。	RH 266	19-1
相国寺日境内	上・室町通寺之内上る下柳阪南半町227	6/7~9・12	-0.8m、江戸の包含層(土師器、桃繪陶器、素壇鉢、前除付柄)。-1.3m、江戸初期の包含層(土師器)。	RH 095	19-1
相国寺日境内	上・今出川通鳥丸九条入相国寺門前町701	10/13・26	No 1 ; -0.75m、近世以降の包含層。-0.85m、室町の包含層(土師器)。No 2 ; -0.3m、室町末期の包含層(土師器皿、平瓦)。	RH 330	19-1
室町殿跡 (花の御所)	上・高築地町86	8/3	-0.25mまで現代盛土。	RH 208	19-1
室町殿跡 (花の御所)	上・室町通上立売下る高築地町93番17	12/7	-0.85m、江戸末期の包含層。	RH 416	19-1
上京遺跡	上・今出川通鳥丸九条今出川町324	6/19~7/21	-0.43m、江戸の包含層。-1.03m、時期不明の包含層。	RH 110	19-1
上京遺跡	上・小川通上立売下る上小川町106番、110番1、110番2、134番7	10/31、11/1	-1.35mまで現代盛土。	RH 363	19-1
上京遺跡	上・小川通今出川上る中小川町233-1番地先	10/2・3・10	-0.1m、近世以降の包含層。	RH 305	19-1
上京遺跡	上・今出川通大宮東入上る北原旗町308番1の一部	7/4	-0.45m、近世以降の包含層。	RH 154	19-1
上京遺跡	上・今出川通大宮東入伊佐町270	6/27~7/14	-2.2m以下、灰黄褐色砂の地山。	RH 125	19-1
上京遺跡	上・元智願寺通大宮東入寺今町519番地	4/17~21	-0.97m、鎌倉中期の包含層(土師器皿、瓦器)。	RH 013	19-1
上京遺跡	上・元智願寺通大宮東入寺今町516、518	6/1・2・5	-1.1m、平安後期の包含層(土師器、灰物陶器、輸入青磁)。-1.3m以下、黄褐色砂の地山。	RH 083	19-1
上京遺跡	上・編町	7/10~27	No 1 ; -1.4m、時期不明の包含層。No 2 ; -1.3m、室町中期の落込(土師器皿)。-1.5mで褐色砂礫の地山を切って室町前期の落込(土師器皿)。	RH 168	19-1
上京遺跡	上・煎屋町通一条上る晴明町831番 他4軒	7/13~8/4	-1.8m、暗褐色礫の氾濫伏地塊。	RH 181	19-1
聚楽第跡	上・一条通神福寺東入北新在家町317	8/10・11	-0.3mまで現代盛土。	RH 217	19-1
御土居跡	上・河原町通今出川上る青柳町251番1 他	5/9~30	No 1 ; -0.3m、近世以降の包含層。No 3 ; -0.5m、江戸末期の包含層。	RH 032	19-3
御土居跡	上・後藤町187	11/10~20	-0.6m、暗褐色砂礫の氾濫伏地塊。	RH 377	19-3
植物園北遺跡	北・上賀茂土門町60-1	5/29・30	-0.78m以下、褐灰色粘土の地山。	RH 072	23-1
植物園北遺跡	北・上賀茂池端町39-1の一部	8/1・2	-0.48mでオリープ褐色砂礫を抽出。遺構、遺物は抽出できず。	RH 205	23-1
植物園北遺跡	北・上賀茂池端町41-1	9/5・6	古墳前期の壁穴住居を抽出。本報告30ページ。	RH 253	23-1
植物園北遺跡	北・上賀茂松本町53	10/4~12	古墳前期の壁穴住居を抽出。本報告31ページ。	RH 313	23-1
植物園北遺跡	北・上賀茂稲田町88番地	7/21	-0.14mでオリープ褐色砂礫、-0.34mで黒褐色砂礫を抽出。遺構、遺物は抽出できず。	RH 192	23-1
植物園北遺跡	左・下鶴水口町55番2、55番3、55番4	5/24	-0.3mまで現代盛土。	RH 061	23-1
植物園北遺跡	左・下鶴北野々神町11-1	6/2・5	-0.45mで暗褐色砂礫を抽出。遺構、遺物は抽出できず。	RH 087	23-1
植物園北遺跡	左・下鶴北野々神町10番4	11/28、12/12	-0.35mで暗褐色砂礫を抽出。遺構、遺物は抽出できず。	RH 401	23-1
植物園北遺跡	左・松ヶ崎芝本町6、6-1	8/28~9/20	古墳前期の壁穴住居を抽出。本報告24ページ。	RH 234	23-1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
植物園北遺跡	左・下鴨前森町19-2	8/7・8	-0.23mで褐色砂泥の地山を切って時期不明のピット。	RH 210	23-1
植物園北遺跡	左・下鴨坂ヶ垣内町6-2	10/26・27	No 1 ; -0.9m以下、暗オリーブ色砂泥の地山、 No 2 ; -0.48m、鎌倉末期～室町初期の包含層 (土師器類)、-0.9m以下、オリーブ褐色砂泥の 地山。	RH 352	23-1
植物園北遺跡	左・下鴨神楽町23番地	10/10～13	古墳後期の竪穴住居を抽出。本報告32ページ。	RH 322	23-1
岩倉中在地遺跡	左・岩倉村松町71番の一部	6/21、7/14	-0.2mまで現代盛土。	RH 117	24-2
大宮北山ノ前瓦遺跡	北・大宮北山ノ前町32-2	11/16～20	-0.18mまで現代盛土。	RH 381	24-3
御土居遺跡	北・紫竹北薬師町15	5/16～24	-0.3m以下、黄褐色砂泥の地山。	RH 048	24-4
御土居遺跡	北・紫野花ノ坊町35番地	6/8	-1.4m以下、黄褐色砂泥の地山。	RH 098	24-5
北野鹿寺遺跡 ・北野遺跡	北・北野上白梅町46-1	10/12・13	No 1 ; -0.75m、時期不明の包含層(土師器、平 瓦)、No 2 ; -0.7m、時期不明の包含層(土師器)、 No 3 ; -1.6m以下、黄褐色砂泥の地山。	RH 327	25-2

### 太秦地区 (UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
嵯峨折戸町遺跡	右・嵯峨中反町	5/10・22	-2.38m以下、黒色砂泥の地山。	UZ 090	20-1
嵯峨折戸町遺跡	右・嵯峨刈分町10-4	5/18・22	-0.7m以下、褐色砂泥の地山。	UZ 053	20-1
上ノ段町遺跡	右・嵯峨野備町～神ノ木町 地内	6/16～9/28	No 3 ; -0.6m以下にふい黄褐色砂泥の地山を切っ て時期不明の露込。No 4 ; -0.26m以下、褐色砂 泥の地山。	UZ 108	20-1
上ノ段町遺跡	右・太秦多慶町1-13	10/2・3・6	-0.73m以下、黄褐色砂泥の地山。	UZ 301	20-1
多敷町遺跡	右・太秦多慶町19-6	7/10・11	-0.1m、時期不明の包含層(土師器)。	UZ 171	20-1
梅津原町遺跡	右・梅津原原町～前田町 地内	7/10～11/9	-1.1m、褐色砂泥の粗産状堆積。	UZ 170	20-1
山越古墳群	右・山越乾町1、山越西町3-2、嵯峨広沢町 1-4、嵯峨音戸町19の一部	9/7	-0.2mまで現代盛土。	UZ 259	20-2
常盤東ノ町古墳群 ・村ノ内町遺跡	右・常盤東ノ町10番、10番4の各一部	7/18～26	-0.15m、近世以降の包含層。	UZ 187	20-3
森ヶ東瓦窯跡 和泉式部町遺跡	右・太秦森ヶ東町4-39	9/11	-0.35mまで現代盛土。	UZ 270	20-3
円宗寺跡	右・御室小松野町25-15、25-16	11/29	BH+0.8m～+0.4mまで現代盛土。	UZ 403	25-1
仁和寺院家跡	右・花園岡ノ本町4-13 他 (京都市立双ヶ丘中学校)	10/19	-0.2mで黒褐色砂泥を抽出。遺構、遺物は検出 できず。	UZ 341	25-1
断川寺境内	右・嵯峨天徳寺遺跡町8	6/7・8	No 1 ; -0.5mで時期不明の包含層(土師器)を 切って江戸末期の土壌(施輪陶器土器、肥前 粉が、器器量)。土壌に切られる形で江戸後 期の露込(土師器類、枕瓦)、-0.85m以下、に ぶい黄色粘土の地山。No 2 ; -0.4m、江戸以降 の東西方向の溝(土師器)。溝に切られる形で 室町中～後期の露込(土師器類、須恵器杯、桃 繪陶器丹波権杖)。-0.8m以下、明黄褐色粘土 の地山。	UZ 096	25-3

### 北白川地区 (KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
北白川通分町遺跡	左・田中樋ノ町町31	8/7～9・11・14	-0.6m、室町後期の包含層(土師器類、黒色土 器、瓦器火鉢)。	KS 213	17
北白川通分町遺跡	左・北白川通分町37番3	11/28	BH+0.02m以下、黄褐色粗砂の地山。	KS 402	17
吉田泉原町遺跡	左・吉田泉原町24-1	5/9～12・15	-0.24m、江戸末期の包含層。-0.63m、室町東 期の包含層(土師器類)。	KS 033	17



遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
吉田二本松町遺跡・吉田山遺跡・吉田神社境内 吉田二本松町遺跡 白河街区跡	左・吉田上大路町36番地 左・吉田中大路町31-33 左・吉田下大路町12番1	9/11 5/9・10 12/6・7・8	-0.42m以下、にぶい黄色微砂の地山。 -0.1m、江戸前期の包含層（土師器Ⅱ）。 №1：-0.3m、室町末期の包含層（土師器Ⅱ、Ⅲ）、-0.88m以下、黄褐色粗砂の地山。№2： -0.56mで黄褐色粗砂の地山を切って室町末期の土壌（土師器Ⅱ）。№3：-0.15m以下、黄褐色粗砂の地山。	KS 268 KS 035 KS 410	17 17 17
白河街区跡 岡崎遺跡・白川街区跡 岡崎遺跡・白川街区跡 岡崎遺跡・専勝寺跡 岡崎遺跡・成勝寺跡 岡崎遺跡・法勝寺跡 岡崎遺跡・法勝寺跡 岡崎遺跡・法勝寺跡 岡崎遺跡・法勝寺跡 白河北段跡 白河北段跡	左・龍徳院円頓美町 地先 左・巖蔵院円頓美町46番 左・岡崎門跡寺町、南禅寺草川町（仁王門遺、岡崎遺～南禅寺遺） 左・岡崎西天王町77番地5 左・岡崎成勝寺町 他地内（神宮遺） 左・岡崎天王町62-21 左・岡崎天王町62番18 左・岡崎天王町31-3の一部 左・龍徳院川原町12番23 左・川端通丸太町下る東入東竹腰町～丸太町通川端東入丸太町 地先	10/30 8/17 4/12～8/4 5/17・18・30・31 10/27・31、11・2・14 9/15 10/25 12/13・14 10/2 6/6・9・12～14・19・27、7/4・11	-0.3m、江戸後期の包含層（施釉陶器京焼）。 -0.33mまで現代盛土。 -0.58m、近世以降の踏面。 BM-0.02m、江戸末期の包含層。BM-0.27m、時期不明の包含層（土師器）。 №1：-0.6m、近世以降の包含層。№2：-0.88m、近世の包含層。 -0.24mまで現代盛土。 -0.45m、近世以降の包含層。 -0.9mで褐色微砂を検出。遺構、遺物は検出できず。 -0.45mまで現代盛土。 №2：-0.2m、近世以降の包含層。№3：-0.34m、近世以降の包含層。№4：-0.1m～0.3m、時期不明の踏面5。	KS 356 KS 223 KS 008 KS 061 KS 354 KS 282 KS 349 KS 425 KS 306 KS 094	17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17
小野瓦窯跡 上鉄町遺跡	左・上野小野町7番4、7番11、8番6、8番8 左・北白川東横ノ内町29-3	10/23 8/10・11・14	-0.3mまで現代盛土。 -0.7mでオリブ黒色泥砂を検出。遺構、遺物は検出できず。	KS 346 KS 218	24-6 24-7
上鉄町遺跡 北白川鹿寺跡 北白川鹿寺跡 北白川鹿寺跡	左・北白川東横ノ内町29、21番地 左・北白川大堂町47番2 左・北白川上別当町22、22-5	12/18・19 5/8・9 9/14～10/2	古墳時代の聖穴住居跡。本報告37ページ。 -0.42m、耕作土。 №1：-0.35m、近世の包含層。№2：-0.7m以下、明黄褐色粗砂の地山。	KS 430 KS 029 KS 279	24-7 24-7 24-7
池田町古墳群 月林寺跡	左・北白川上池田町32 左・徳学院宮ノ脇町16 巖倉神社	7/21・24 10/2・5・10	BM+0.6m～+0.35mまで現代盛土。 -0.5m以下、明黄褐色粗砂の地山。	KS 191 KS 314	24-7 24-8

## 洛東地区 (RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
高台寺境内（霊園寺跡） 六波羅政庁跡	東・下河原高台寺門前下河原町526-1 高台寺公園 東・本町1丁目54	10/5 7/27・31	-2.7m以下、明黄褐色砂泥の地山。 -1.6mでにぶい黄褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	RT 317 RT 199	16 16
六波羅政庁跡 法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡 法住寺殿跡・六波羅政庁跡 法住寺殿跡 法住寺殿跡 法住寺殿跡 法住寺殿跡	東・東大路通五条下る法法院庵町574、575の一部、579の一部 東・正面通大和路東入茶屋町527-28 東・茶屋町527 京都国立博物館 東・今熊野日吉町59-1 東・今熊野宝蔵町20番地 東・今熊野池田町12 他29番 東・今熊野池田町12	9/11・20 12/5～8 7/3～7 7/4・6・7 8/28・31 5/15 7/7・11	-1.8mまで現代盛土。 鎌倉の溝・土壌を検出。本報告38ページ。 -0.8m、江戸末期～近代の包含層（肥前染付焼）。 -1.05mまで現代盛土。 -0.9mまで現代盛土。 -0.2mまで現代盛土。 -0.82m以下、明黄褐色砂泥の地山。	RT 269 RT 409 RT 134 RT 155 RT 235 RT 046 RT 162	16 16 16 16 16 16 16

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
法性寺跡	東・本町十二丁目232	10/20・23・24・26・27・30	No 2 : -1.0m, 近世以降の埋め立て地。-1.97m以下、オリブ灰色粘土の地山。No 3 : -0.05m以下、浅黄色粘土の地山。	RT 342	16
中區遺跡・中區十三塚	山・西野山中区町44 (9号地)	5/31, 6/1	-0.55m以下、暗褐色砂泥の地山。	RT 082	23-2
中區遺跡・中區十三塚	山・西野山中区町44 (8号地)	5/31	-1.05m以下、黒褐色砂泥の地山。	RT 081	23-2
中區遺跡・中區十三塚	山・西野山中区町71-40	11/21・22	-0.15mで黒褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	RT 391	23-2
中區遺跡	山・西野山中区町3, 13-4番地	10/16・17	-0.5m, 時期不明の包含層 (土師器)。-0.65m以下、ふいれ褐色砂泥の地山。	RT 331	23-2
中區遺跡	山・東野森野町23-70	5/18	-0.3mまで現代盛土。	RT 055	23-2
中區遺跡	山・東野舞台町 地先	10/5	-0.6mまで現代盛土。	RT 318	23-2
中區遺跡	山・御辻番所ヶ口町 地先	5/25・31	-1.0mまで現代盛土。	RT 063	23-2
中區遺跡	山・御辻番所ヶ口町34-12 (No6)	7/4	-0.2mまで現代盛土。	RT 142	23-2
中區遺跡	山・御辻番所ヶ口町34-11 (No5)	7/4	-0.15mまで現代盛土。	RT 143	23-2
中區遺跡	山・御辻番所ヶ口町34-10 (No4)	7/3	-0.15mまで現代盛土。	RT 144	23-2
中區遺跡	山・御辻番所ヶ口町34-9 (No3)	7/3	-0.2mまで現代盛土。	RT 145	23-2
中區遺跡	山・御辻番所ヶ口町34-8 (No2)	7/6	-0.2mまで現代盛土。	RT 146	23-2
中區遺跡	山・御辻番所ヶ口町34-7 (No1)	7/6	-0.2mまで現代盛土。	RT 147	23-2
中區遺跡	山・御辻番所ヶ口町34-18 (No12)	7/6	巡回時、工事終了。	RT 136	23-2
中區遺跡	山・御辻番所ヶ口町34-17 (No11)	7/6	-0.15mまで現代盛土。	RT 137	23-2
中區遺跡	山・御辻番所ヶ口町34-16 (No10)	7/4	-0.2mまで現代盛土。	RT 138	23-2
中區遺跡	山・御辻番所ヶ口町34-15 (No9)	7/4	-0.3mまで現代盛土。	RT 139	23-2
中區遺跡	山・御辻番所ヶ口町34-14 (No8)	7/4	-0.3mまで現代盛土。	RT 140	23-2
中區遺跡	山・御辻番所ヶ口町34-13 (No7)	7/4	-0.2mまで現代盛土。	RT 141	23-2
中區遺跡	山・助修寺東薬師野68-9, 68-20, 68-21	10/10	-0.2mまで現代盛土。	RT 323	23-2
中區遺跡	山・助修寺東金ヶ崎町114-2	5/9・10	-0.25mまで現代盛土。	RT 031	23-2
法興院跡	中京区河原町通実川上る指物町327	7/3・7・12	No 2 : -2.25m, 時期不明の包含層 (瓦葺)。-2.4m以下、オリブ褐色砂泥の地山。No 3 : -1.5m以下、暗褐色砂泥の地山。	RT 150	25-4
法興院跡	中・河原町通二条上る清水町341番地	11/22・24	-0.05mまで現代盛土。	RT 395	25-4
山科本願寺跡	山・西野山階町28-5, 28-6	4/25~27, 5/1	No 1 : L=41.42m, 時期不明の包含層 (土師器)。No 2 : L=41.72m, 山科本願寺に関連する焼土層。L=41.64m, 山科本願寺に関連する室町末期の壁地面 (土師器用, 輸入白磁, 焼結陶器類)。2005年11月発掘調査地点。「京都市内遺跡発掘調査報告平成17年度」。	RT 021	25-7
山科本願寺南院跡	山・音羽初田町1番1	4/26・27, 5/1	-0.2m, 時期不明の包含層。	RT 024	25-8
山科本願寺南院跡	山・音羽乙出町12-3	4/6・7	-0.84m, 時期不明の包含層。	RT 003	25-8
芝町遺跡	山・西ノ宮奈良町~音羽珍事町 地内	6/1・5・22	-0.9mまで現代盛土。	RT 085	26-1

## 鳥羽地区 (TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
久我東町遺跡	伏見区久我東町209 (市立久我の杜小学校)	10/2	-1.15m, オリブ灰色粘土の埋め立て地。	TB 303	18
鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏・竹田西小屋ノ内町 地先	5/8~23	-0.57m, 灰色粘土の埋め立て地。	TB 028	21-1
鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏・中島秋ノ山町133-2	4/18	-0.4mまで現代盛土。	TB 016	21-1
鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏・竹田田中殿町70-2番地, 93番地, 70-1番地の一部	8/4	-0.3mまで現代盛土。	TB 209	21-1
鳥羽離宮跡	伏・中島秋ノ山町91-1	6/22・27	-0.26mで灰オリブ色微砂を検出。遺構、遺物は検出できず。	TB 120	21-1
鳥羽離宮跡	伏・中島秋ノ山町 地先	9/11	巡回時、工事終了。	TB 271	21-1
鳥羽離宮跡	伏・中島河原町1番18	9/19	-0.26mまで現代盛土。	TB 286	21-1
鳥羽離宮跡	伏・中島中道町9-3	5/12	-0.5mまで現代盛土。	TB 042	21-1

道跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
鳥羽羅宮跡	伏・竹田中内畑町74番地	5/12	-0.28m、江戸の路面。	TB 039	21-1
鳥羽羅宮跡	伏・竹田中内畑町74	5/26	-0.4m、江戸末期の包含層。-0.6m、中世～江戸の包含層。	TB 064	21-1
鳥羽羅宮跡	伏・竹田浄智院町233番地	9/13	-0.4mまで現代盛土。	TB 276	21-1
鳥羽羅宮跡	伏・竹田田中宮町47-8	10/19	-0.2mまで現代盛土。	TB 340	21-1
下鳥羽遺跡	伏・竹田松林町30	5/31、6/5	-0.4mまで現代盛土。	TB 080	21-1
唐橋遺跡	南・吉祥院定成町10番地	7/13～25	-0.6m以下、にぶい黄褐色砂礫の地山。	TB 174	21-2
上鳥羽遺跡	南・上鳥羽南花名町10番1	7/10	-0.5mまで現代盛土。	TB 169	21-3
深草遺跡	伏・第一軍道 師団街道～本町通 地内	4/12～6/3	№4；-0.7m以下、にぶい黄褐色砂礫の地山。 №5；-0.98m、近世以降の包含層。	TB 009	25-5
深草遺跡	伏・深草跡町36番1	11/21	-0.25m、旧耕作土。	TB 393	25-5

### 伏見・醍醐地区 (FD)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
伏見城跡・桃渡遺跡	伏・豊後町～横坂町 地先	5/22・23・26・31、6/5	№1；-0.35m、時期不明の路面。-0.8m以下、暗灰色砂礫の地山。№2；-0.13m～-0.86m、時期不明の路面4。	FD 057	14
伏見城跡	伏・堀詰町550番の2、547番の3、紙子屋町564番の12、554番の13	5/22・31	-1.3m以下、明黄褐色粘土の地山。	FD 056	14
伏見城跡	伏・桃山井伊邸東町16	11/14・22	-2.5m以下、にぶい褐色泥の地山。	FD 380	14
伏見城跡	伏・桃山長岡越中北町9番地9	9/14、10/30	-1.0mまで現代盛土。	FD 280	14
伏見城跡	伏・桃山福島大夫南町97番	10/30	-0.4mまで現代盛土。	FD 357	14
伏見城跡	伏・桃山町島津47番3	7/6	-0.4mまで現代盛土。	FD 156	14
伏見城跡	伏・今町653-1	5/26・31	-0.8m以下、明褐色砂礫の地山。	FD 066	14
伏見城跡	伏・京町四丁目141-1、141-2、桃山町金藏出雲10	10/23	-0.6m以下、にぶい黄色微砂の地山を切って時期不明の落込。	FD 347	14
伏見城跡	伏・桃山町金藏出雲5-5、8-12、8-13、京町4丁目144、145	7/3・6・11	-1.85mまで現代盛土。	FD 135	14
伏見城跡	伏・京町四丁目150-1、151-1	10/2・4	-1.9m以下、黄褐色粗砂の地山。	FD 304	14
伏見城跡	伏・大手筋新町4丁目467番	12/13・20	-0.75m、江戸後～末期の包含層。-0.95m以下、黄褐色粘土の地山。	FD 399	14
伏見城跡	伏・西大町307-10	6/29	-0.3mまで現代盛土。	FD 121	14
櫻月城跡	伏・桃山町奉長老 地先	8/30～9/19	-0.7mまで現代盛土。	FD 240	14
伏見城跡	伏・深草大龜谷万枯敷町153-5、153-6、190-5	6/5・7	-0.9mまで現代盛土。	FD 093	15
伏見城跡	伏・桃山町古城山	9/19・20	-0.83mまで現代盛土。	FD 287	15
伏見城跡	伏・桃山町伊庭48番の一部	11/20	-0.35m以下、褐色泥砂の地山。	FD 392	15
伏見城跡	伏・桃山町本多上野57-15の一部、57-16	7/3	-0.1m以下、黄褐色細砂の地山を検出。	FD 133	15
福楽寺跡	伏・深草野平町3番1の一部	7/13～28	-0.5m、黄灰色泥土の凝結状堆積。	FD 175	25-5
小栗新橋跡	伏・小栗西小坂町21番地の一部	9/1	-0.25m以下、明黄褐色粘土の地山。	FD 249	26-2
史跡醍醐寺境内	伏・醍醐醍醐山(上醍醐地区)	4/14～7/10	五大堂の基礎を検出。本報告43ページ。	FD 043	26-4
太閤堀	伏・向島橋詰町～向島菅阿弥町 地内	5/12～6/5	-1.2mまで現代盛土。	FD 041	26-5
太閤堀	伏・向島庚申町5-8、5-4、5-3	6/1・5	-3.58m、明黄褐色粗砂の氾濫状堆積。	FD 091	26-5
太閤堀	伏・向島吹出河原町 地先	11/2・10	-0.8mまで現代盛土。	FD 367	26-5
太閤堀	伏・向島二ノ丸町	5/30、6/5・7・12・14	-0.5mでオリープ色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	FD 076	26-6

## 長岡京地区 (NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
左京一条四坊町・東土川遺跡	南・久世東土川町350-12	9/19	-0.75mまで現代盛土。	NG 288	18
左京一条四坊十二町	伏・久我本町11-36、11-287	10/20~26	-1.94m以下、黄褐色砂泥の地山。	NG 343	18
左京二条四坊町・東土川遺跡	伏・久我西出町2-14	4/20・21	-0.15mまで現代盛土。	NG 017	18
左京三条三坊十町・鶏冠井清水遺跡	伏・久我西出町10-20	8/10	-0.5mまで現代盛土。	NG 219	18
左京四条四坊三町	伏・羽東師範川町640	9/6	-1.1mまで現代盛土。	NG 257	18
左京七条四坊八町	伏・院樋爪町634-1番地 他	6/6~9/21	L=6.7m、古墳の包含層。『京都市内道跡試験調査報告平成18年度』に報告。	NG 040	18
左京八条二坊十三町・水巻原山城跡	伏・院水通町330番37	6/2	-0.3mまで現代盛土。	NG 089	23-3
左京九条二坊七町	伏・院水巻町	12/11・26	-1.28m、暗緑灰色粘土の層状堆積。	NG 421	23-3
左京九条二坊十六町	伏・水巻町330番30	4/13	-0.4mまで現代盛土。	NG 010	23-3
左京九条三坊十二町・院城跡	伏・院池上町153番地	7/25	-1.1mまで現代盛土。	NG 197	23-3
左京九条三坊十二町・院城跡	伏・院本町~納所町 地先	9/14~11/7	-0.35mで褐色細砂を検出。道構、遺物は検出できず。	NG 281	23-3
左京九条三坊十二町・院城跡	伏・院本町173番95及び173番96	11/7	-0.33mまで現代盛土。	NG 372	23-3
左京九条三坊十六町・院城跡	伏・納所北城堀10-4、24-7、24-8	7/11	-0.37mでぶい黄褐色砂泥を検出。道構、遺物は検出できず。	NG 172	23-3

## 南・桂地区 (MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
上里北ノ町遺跡	西・大原野上里北ノ町~大原野上里南ノ町 地先	6/30~9/6	-0.25m以下、オリブ褐色砂泥の地山。	MK 131	22-1
上久世遺跡	南・久世高田町6-7、上久世町110-4、上久世町315	5/17・24、6/5、12/28	No 1 ; -2.6m以下、褐色粘土の地山。No 2 ; -1.42m、時期不明の包含層。No 3 ; -1.06m、時期不明の包含層(土器)。	MK 049	22-2
中久世遺跡	南・久世中久世町3丁目43	8/21	-0.9mで灰黄色粘土を検出。道構、遺物は検出できず。	MK 228	22-2
中久世遺跡	南・久世殿城町59	10/13・16	-0.7m、時期不明の包含層(須恵器型)。-0.8m以下、黄褐色粘土の地山。	MK 329	22-2
中久世遺跡	南・久世殿城町88番地	5/30	-1.1mで暗褐色砂泥を検出。道構、遺物は検出できず。	MK 079	22-2
大原遺跡・中久世遺跡・下久世遺跡	南・久世殿城町519-6	7/31	-0.4mまで現代盛土。	MK 202	22-2
大原遺跡・中久世遺跡・下久世遺跡	南・久世殿城町519-7	10/24	-0.5mまで現代盛土。	MK 348	22-2
大原遺跡・中久世遺跡・下久世遺跡	南・久世殿城町519-2	7/31	-0.3mまで現代盛土。	MK 201	22-2
大原遺跡	南・久世大蔵町189の一部	6/21	-0.2mまで現代盛土。	MK 114	22-2
茶嶋館跡	西・川島五郎町16-5	8/30~9/4	-0.54m以下、反オリブ色の地山。	MK 239	26-7
福西古墳群	西・大枝東長町1-205の一部	5/18・22	-0.18mまで現代盛土。	MK 054	26-8
福西古墳群	西・大枝東長町1-333	6/1・2	-0.33m以下、褐色砂泥の地山。	MK 086	26-8
福西古墳群	西・大枝東長町1-545 (B号地)	6/20	-0.32mまで現代盛土。	MK 113	26-8
福西古墳群	西・大枝東長町1-544 (A号地)	6/20	-0.2m以下、褐色砂泥の地山。	MK 112	26-8
福西古墳群	西・大枝東長町1-208、1-209	8/1・3・4	-2.0m以下、褐色砂泥の地山。2006年5月発掘調査済地点。	MK 206	26-8
福西古墳群	西・大枝東長町 地先	10/31	-0.82m以下、黄褐色砂泥の地山。	MK 364	26-8
福西古墳群	西・大枝東長町1-546、547、548、549、550、551	9/25	-0.5m以下、褐色砂泥の地山。	MK 296	26-8

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	きょうとしなないせきたちあいちょうさほうこく							
書 名	京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度							
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編 著 者 名	吉崎伸・能芝勉・中村教・堀内寛昭・吉本健吾							
編 集 機 関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所 在 地	〒602-8435 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1 TEL 075-415-0521							
発 行 機 関	京都市文化市民局							
所 在 地	〒604-0925 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488 TEL 075-222-3108							
発 行 年 月 日	西暦2007年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安宮 朝堂院跡・ 聚楽遺跡	京都市上京区平本通 下立光下る小山町 871-3	26100		35度 01分 06秒	135度 44分 34秒	2006/7/25～ 2006/7/31		店舗
平安宮 朝堂院跡・ 聚楽遺跡	京都市上京区下立光通 千本東入下る中務町 491番72	26100		35度 01分 06秒	135度 44分 35秒	2006/10/24～ 2006/10/31		住宅
平安宮 聚楽遺跡	京都市上京区 西辰巳町	26100		35度 01分 22秒	135度 44分 08秒	2006/7/21～ 2006/10/30		下水道工事
平安宮 左京一条 三坊十一町跡	京都市上京区烏丸通 丸太町上る春日町～烏 丸通出水下る板橋園町	26100		35度 01分 03秒	135度 45分 43秒	2006/2/22～ 2006/5/18		ガス工事
平安宮 左京一条 三坊十六町跡	京都市上京区 京都御苑	26100		35度 01分 06秒	135度 45分 37秒	2005/5/9～ 2006/4/6		建物改修 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安宮 朝堂院跡・ 聚楽遺跡	都城跡	平安時代	整地層	瓦類				
平安宮 朝堂院跡・ 聚楽遺跡	都城跡	平安時代	整地層	瓦類				
平安宮 聚楽遺跡	都城跡	桃山時代	塙					
平安宮 左京一条 三坊十一町跡	都城跡	江戸時代	水琴窟	土器類				
平安宮 左京一条 三坊十六町跡	都城跡	江戸時代	溝・石垣	土器類・瓦類				

# 報告書抄録

ふりがな	きょうとしないせきたちあいちょうさきこうく							
書名	京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	吉崎伸・能芝勉・中村敦・堀内寛昭・吉本健吾							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	〒602-8436 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1 TEL 075-415-0521							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-0925 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488 TEL 075-222-3108							
発行年月日	西暦2007年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京左京三条四坊十二町跡	京都市中京区富小路通二条上る福長町101番地	26100		35度00分32秒	135度45分53秒	2006/6/16～ 2006/7/3		店舗・事務所・共同住宅
平安京右京八条二坊十二町跡	京都市下京区七条御所/内本町84番2	26100		34度59分06秒	135度43分56秒	2006/3/15～ 2006/3/20		住宅
植物園北遺跡	京都市左京区松ヶ崎芝本町6、6-1	26100	146	35度03分04秒	135度46分20秒	2006/8/28～ 2006/9/20		共同住宅
植物園北遺跡	京都市北区上賀茂池崎町41-1	26100	146	35度03分20秒	135度46分03秒	2006/9/5～ 2006/9/6		共同住宅
植物園北遺跡	京都市北区上賀茂松本町53	26100	146	35度03分13秒	135度45分54秒	2006/10/4～ 2006/10/12		共同住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京左京三条四坊十二町跡	都城跡	江戸時代	土壇	土器類・木製品・金属製品 瓦類				
平安京右京八条二坊十二町跡	都城跡	平安時代	池跡	土器類				
植物園北遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居	土器類				
植物園北遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居	土器類				
植物園北遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居	土器類				

# 報 告 書 抄 録

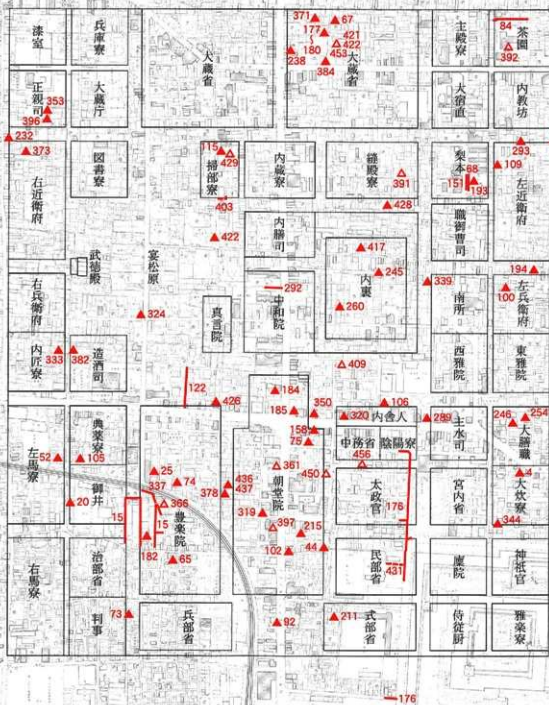
ふりがな	きょうとしないいせきたちあいちょうさほうこく							
書名	京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	古崎伸・熊芝勉・中村敦・堀内寛昭・吉本健吾							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	〒602-8435 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1 TEL.075-415-0521							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-0925 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488 TEL.075-222-3108							
発行年月日	西暦2007年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
植物園北遺跡	京都市左京区 下鴨神楽町23番地	26100	146	35度 02分 55秒	135度 46分 11秒	2006/10/10～ 2006/10/13		宿舍
嵯峨野高田町遺跡	京都市右京区 嵯峨野東田町 梅津フケノ川町	26100	920	35度 00分 25秒	135度 41分 36秒	2005/9/20～ 2006/3/16		水道工事
上糺町遺跡	京都市左京区 北白川東瀬ノ内町 20、21番地	26100	400-1	35度 02分 01秒	135度 47分 24秒	2006/12/18～ 2006/12/19		共同住宅
法住寺殿跡・ 六波羅殿跡・ 方広寺跡	京都市東山区正通 大和大路東入茶屋町 527-28	26100	546 540 541	34度 59分 30秒	135度 46分 21秒	2006/12/5～ 2006/12/8		住宅
史跡・醍醐寺 内苑	京都市伏見区 醍醐醍醐山	26100	A1103	34度 56分 43秒	135度 50分 19秒	2006/5/15～ 2006/7/10		自火報設備 改修工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
植物園北遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居	土器類				
嵯峨野高田町遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居状遺構	土器類				
上糺町遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居	土器類				
法住寺殿跡・ 六波羅殿跡・ 方広寺跡	寺院跡・ 都城跡	鎌倉時代	溝・土壇	土器類・瓦類				
史跡・醍醐寺 内苑	史跡	平安時代	基壇	土器類・瓦類				

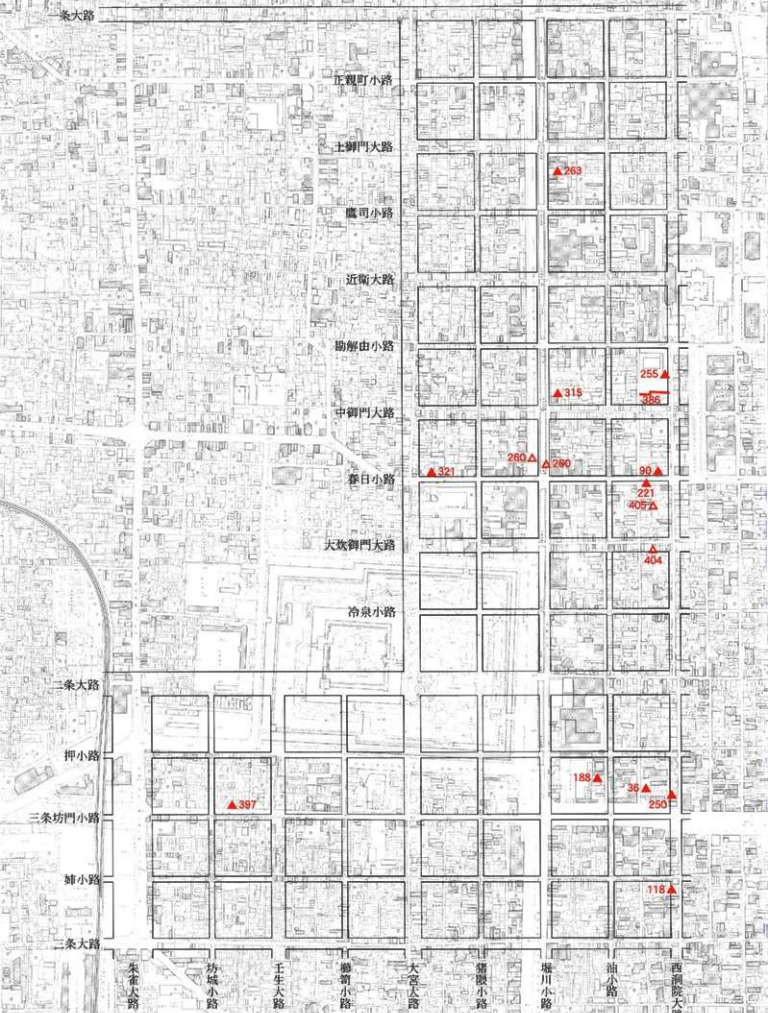
版 函



### 凡 例

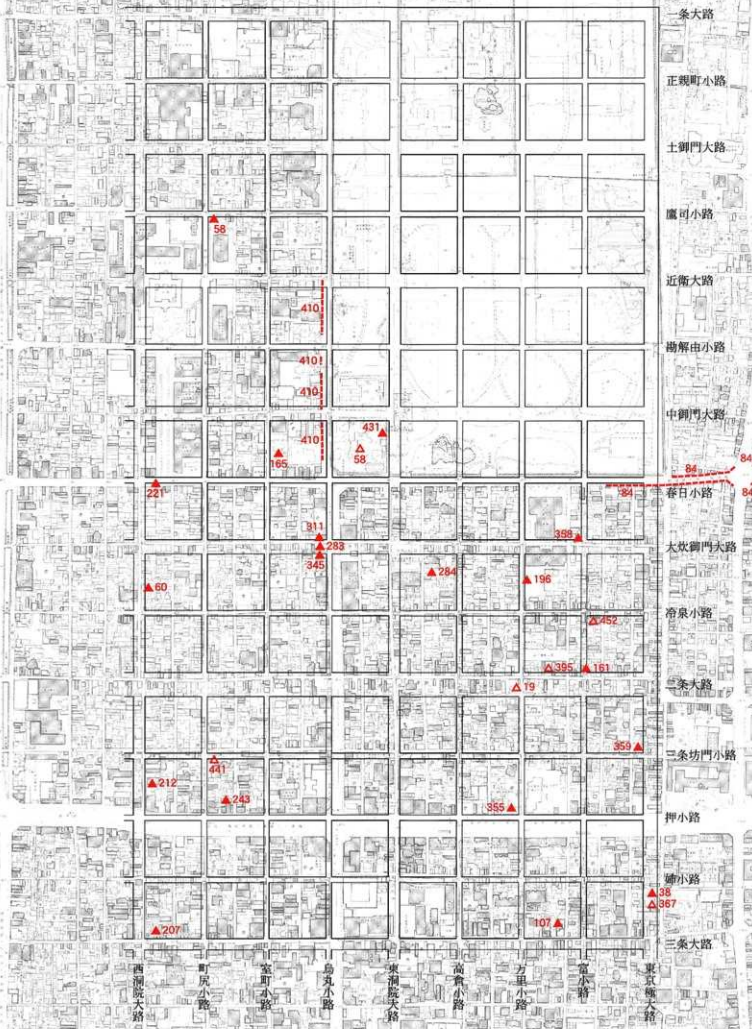
- △ ——— 2006年1～3月期（平成17年度）立会調査地点
- ▲ ——— 2006年4～12月期（平成18年度）立会調査地点

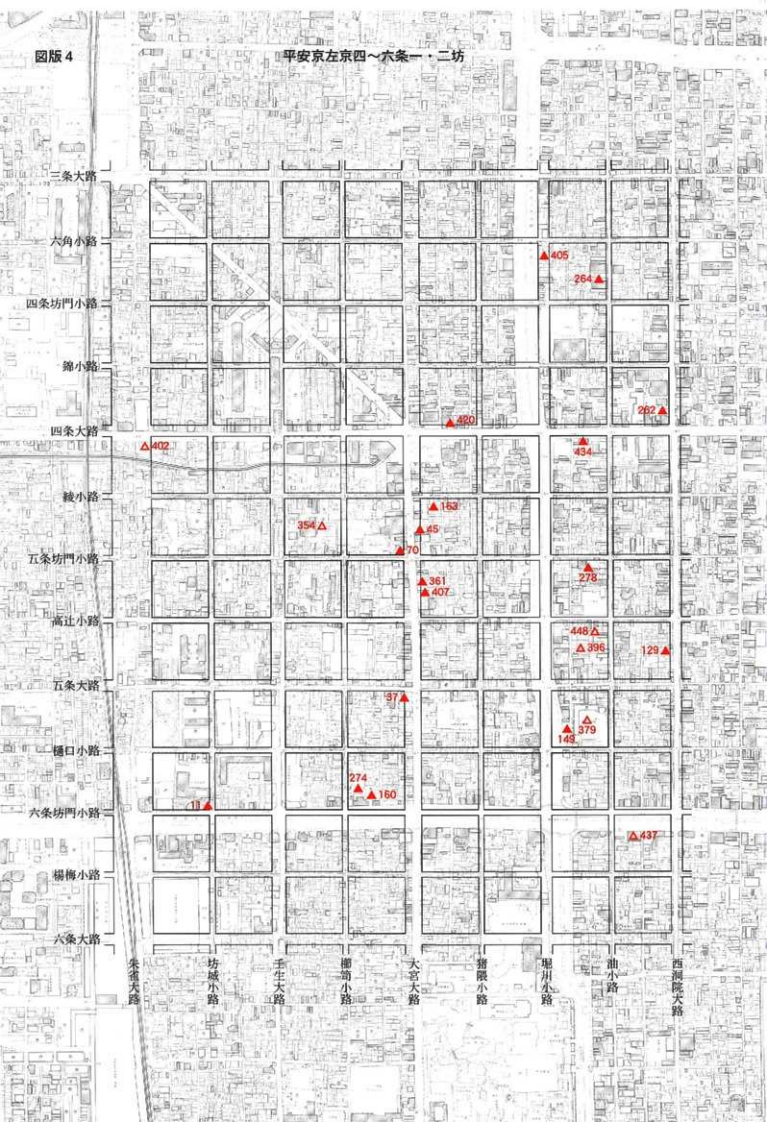


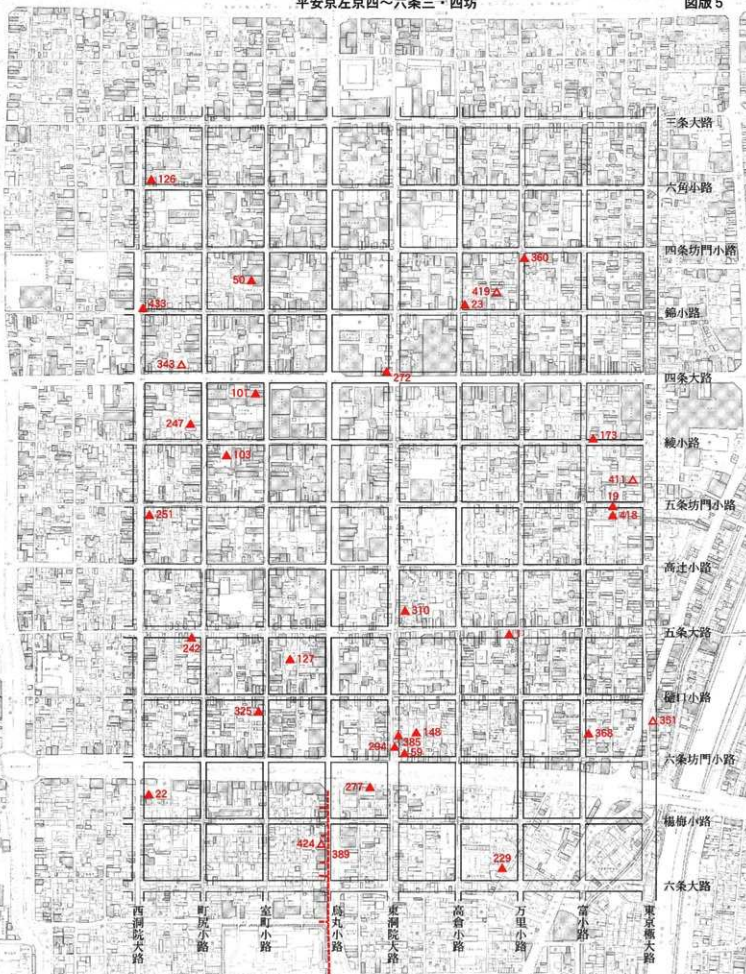


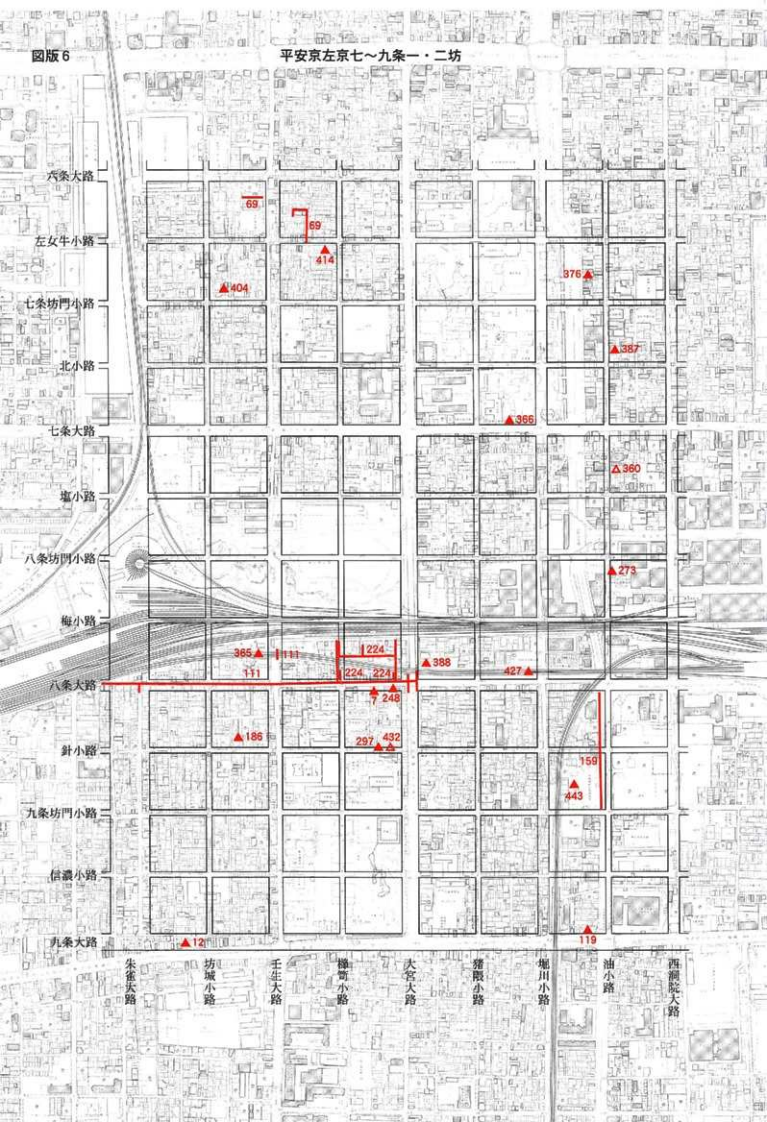
平安京左京北辺～三条三・四坊

圖版 3



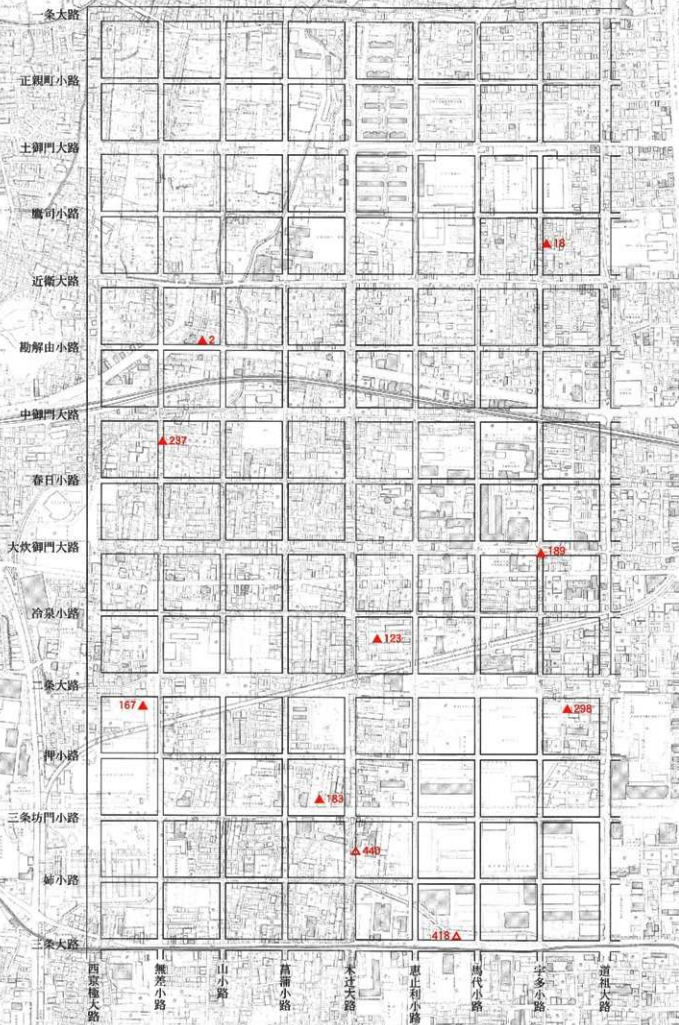












一条大路

正親町小路

土御門大路

鷹司小路

近衛大路

勘解由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路

二条大路

押小路

三条坊門小路

堀小路

三条大路



道祖大路

野寺小路

西堀町小路

西親負小路

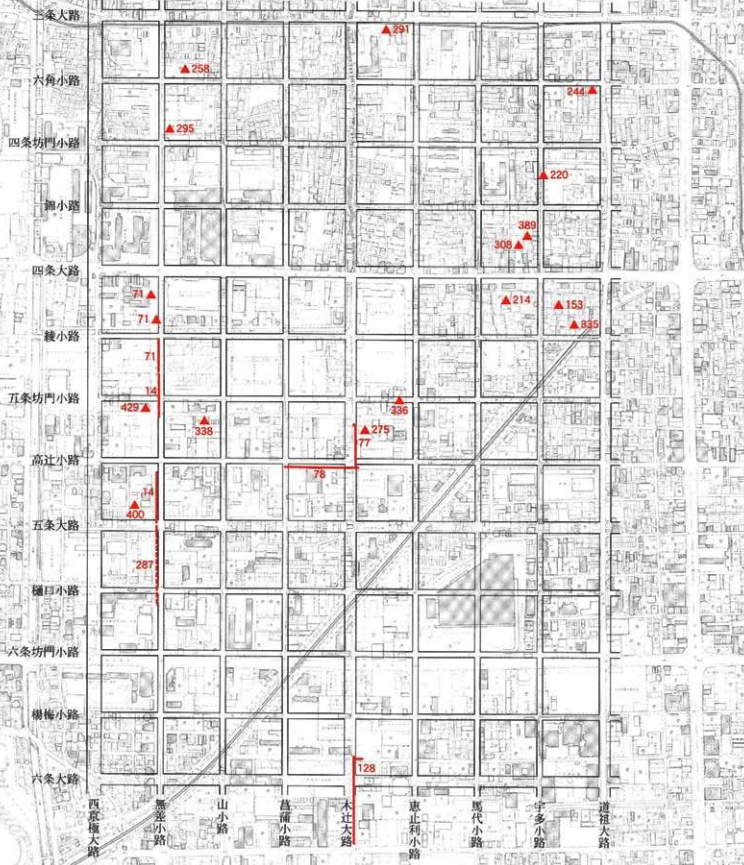
西大宮大路

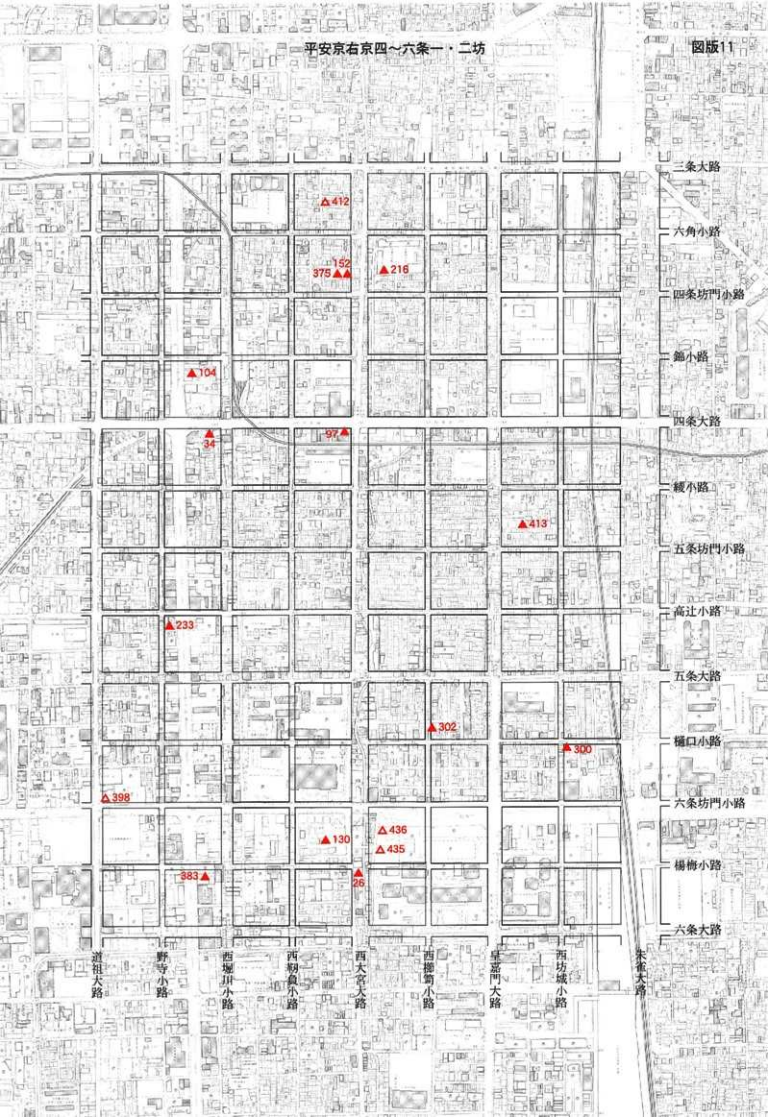
西堀町小路

皇嘉門大路

西坊城小路

朱雀大路





三條大路

六角小路

四條坊門小路

錦小路

四條大路

緩小路

五條坊門小路

高辻小路

五條大路

樋口小路

六條坊門小路

楊梅小路

六條大路

道祖大路

野寺小路

西堀川小路

西朝魚小路

西大宮大路

西櫻菊小路

皇宮門大路

西坊城小路

朱雀大路

▲412

▲152

▲375

▲216

▲104

▲34

▲97

▲413

▲233

▲302

▲300

▲398

▲130

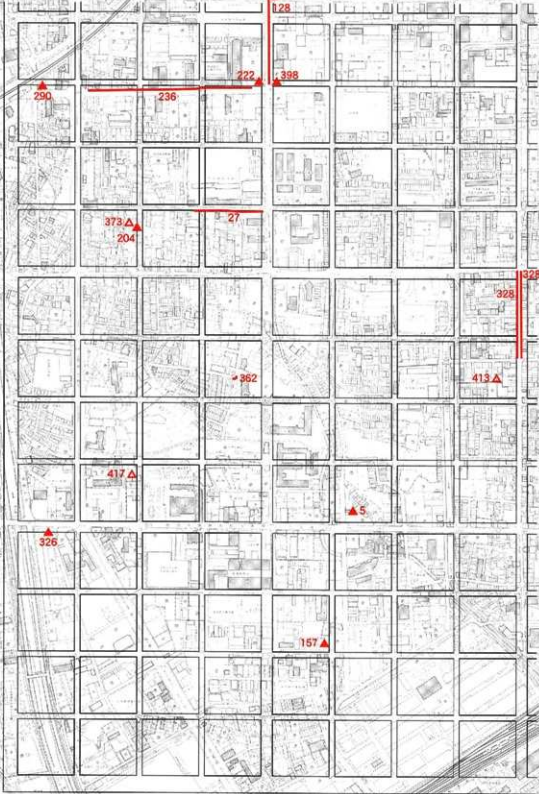
▲436

▲435

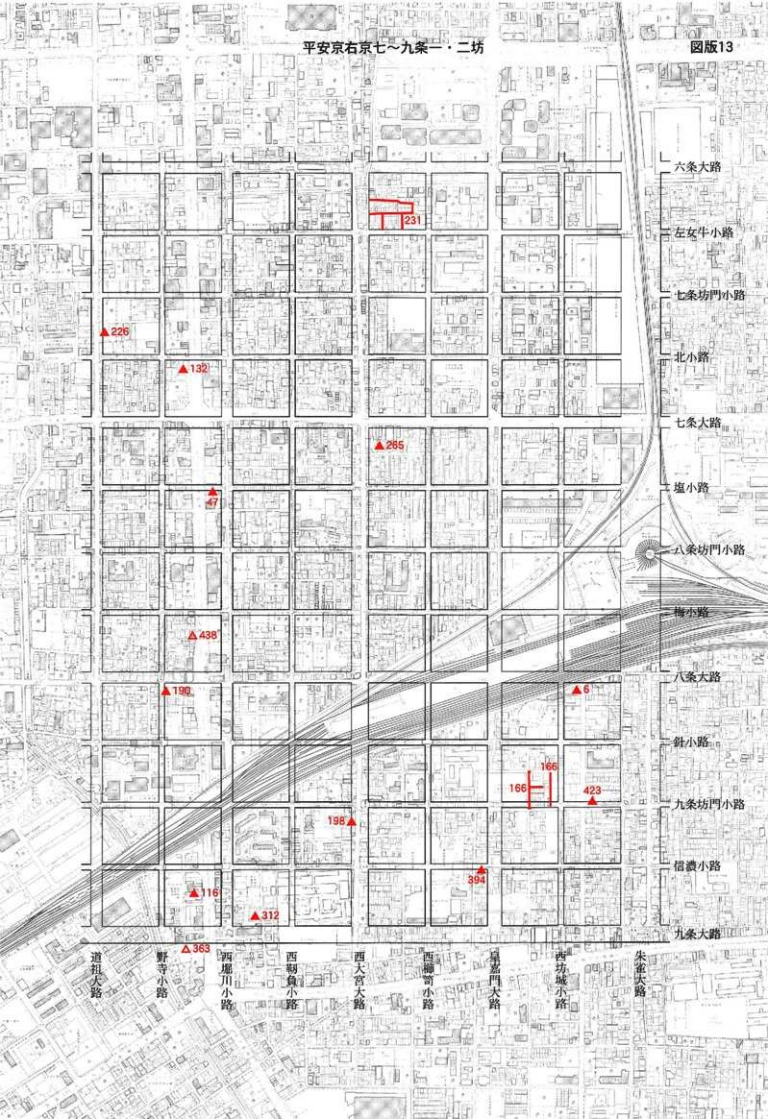
▲383

▲26

六条大路  
左女牛小路  
七条坊門小路  
北小路  
七条大路  
堀小路  
八条坊門小路  
梅小路  
八条大路  
針小路  
九条坊門小路  
信濃小路  
九条大路



西京極大路  
無差小路  
山小路  
菖蒲小路  
木辻大路  
惠止利小路  
馬代小路  
字多小路  
道祖大路



六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

塩小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

道祖大路

野寺小路

西堀川小路

西朝倉小路

西大宮大路

西堀筒小路

皇嘉門大路

西坊城小路

朱雀大路

▲363

▲116

▲312

▲198

▲190

▲438

▲47

▲285

▲132

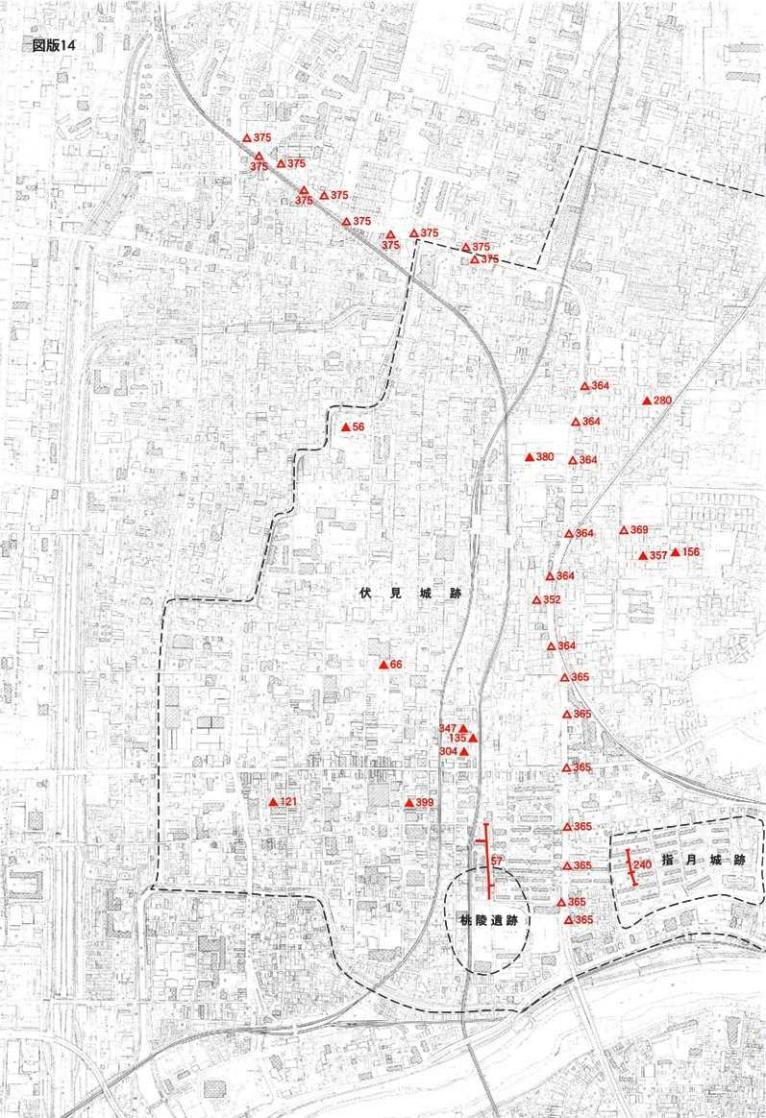
▲226

231

166

423

▲6





▲93

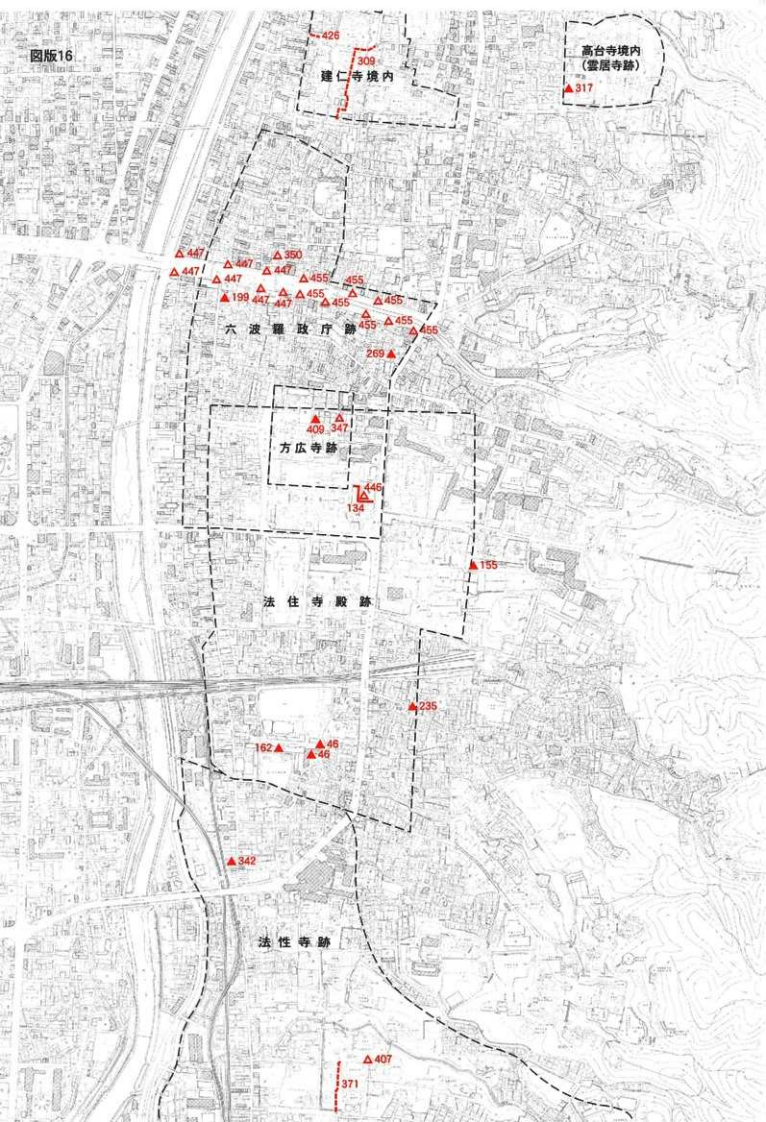
伏見城跡

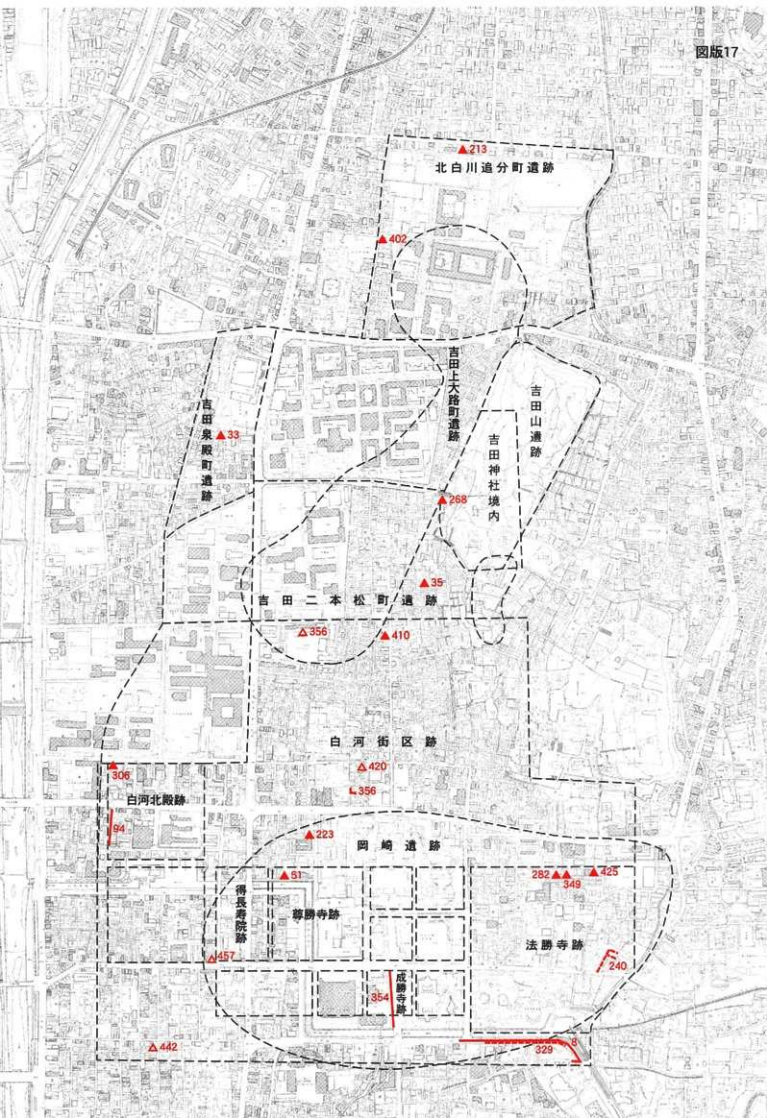
▲287

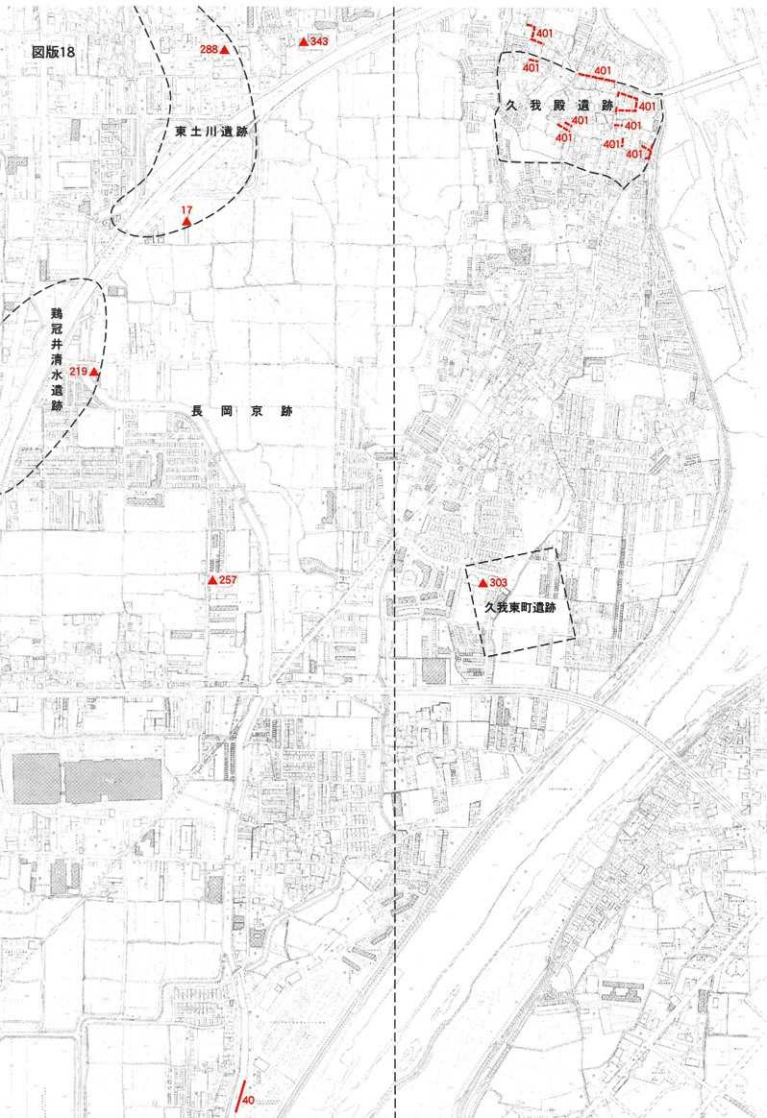
▲392

▲133









288▲

▲343

東土川遺跡

17▲

鶏冠井清水遺跡

219▲

長岡京跡

▲257

▲303

久我東町遺跡

401

401

401

401

401

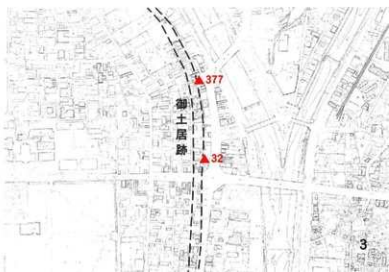
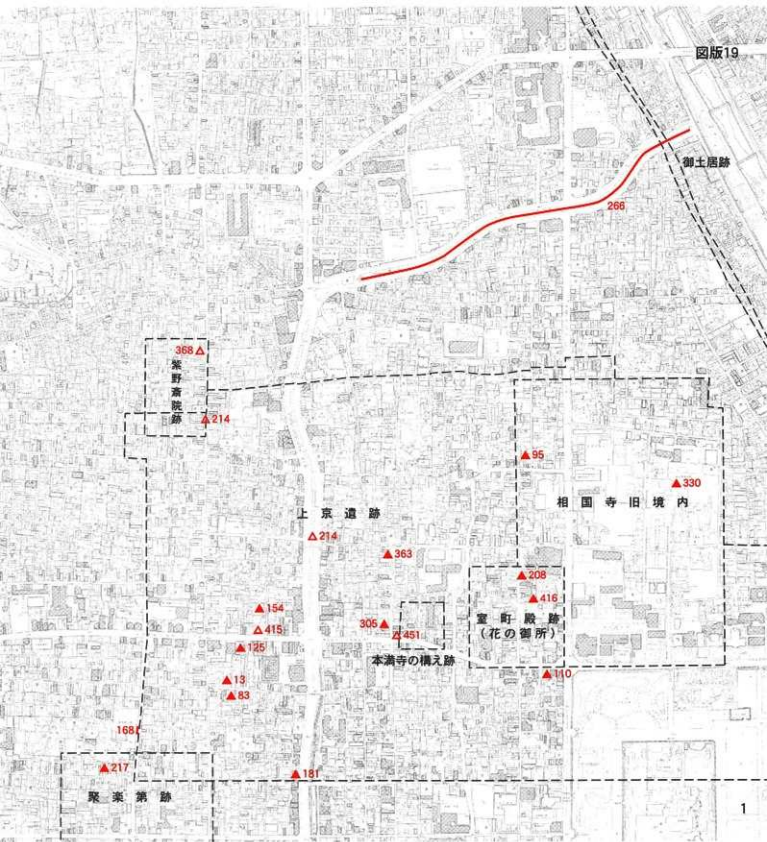
401

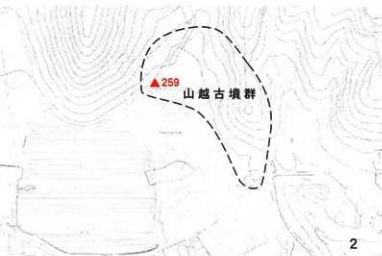
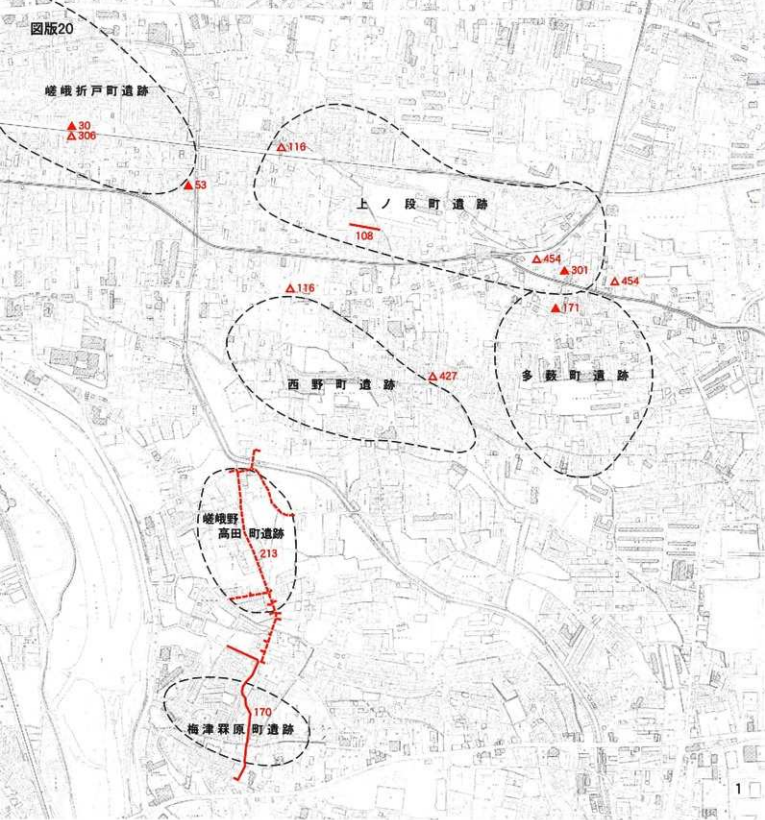
401

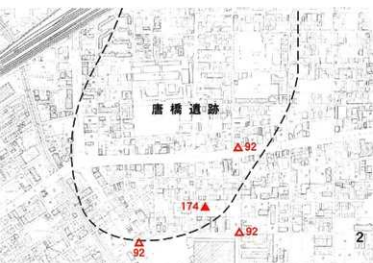
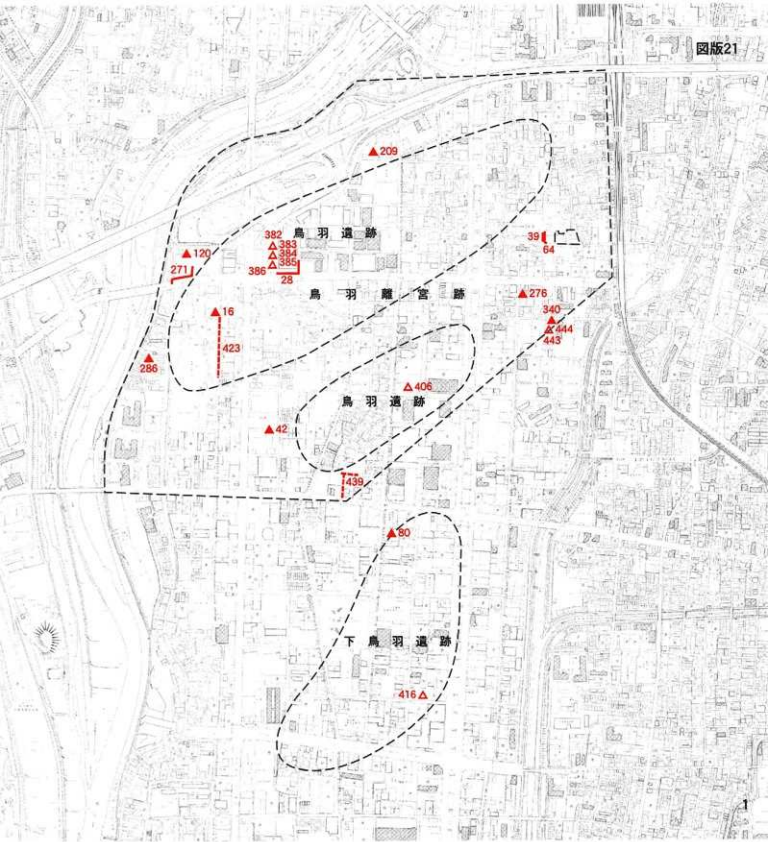
401

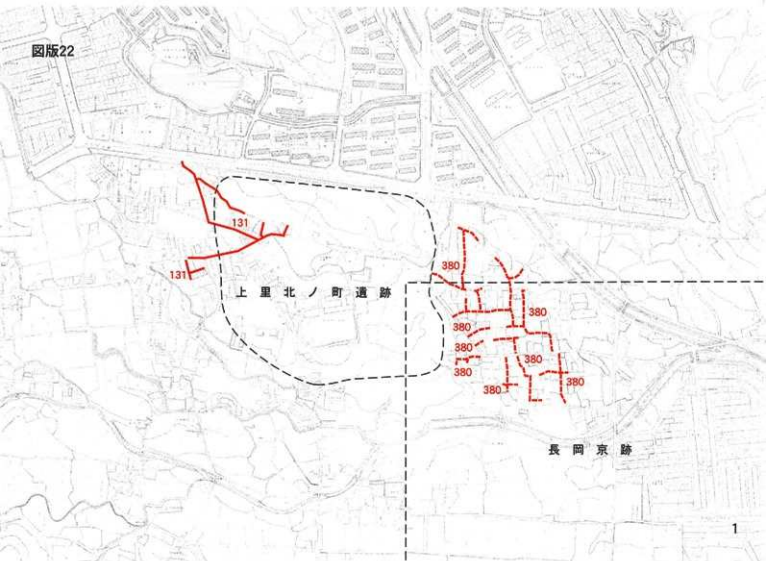
401

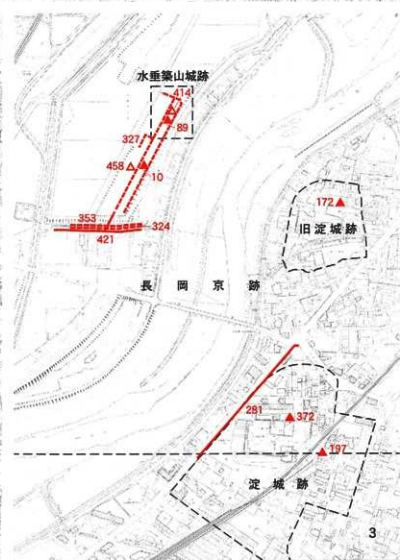
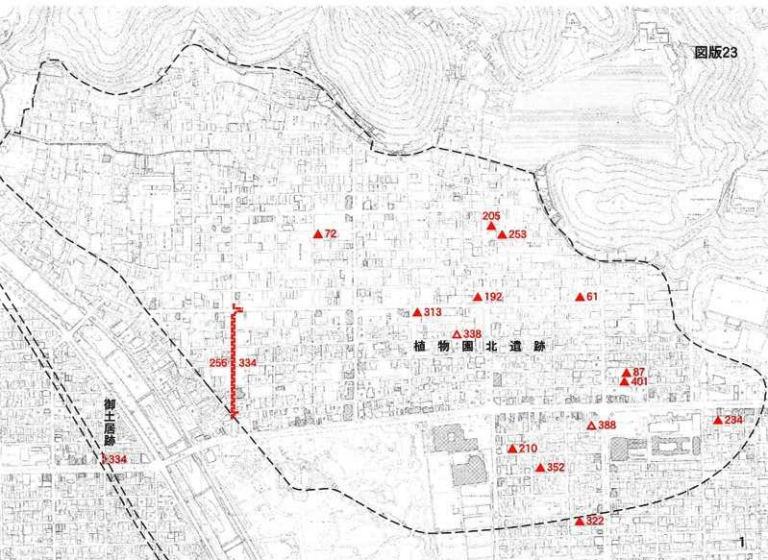
40



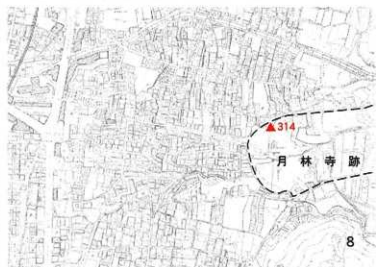
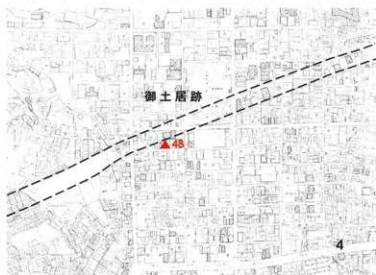
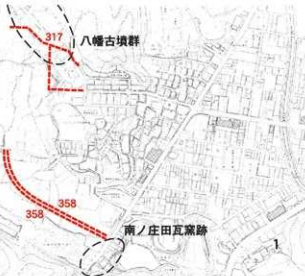


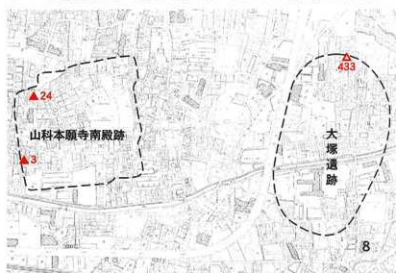


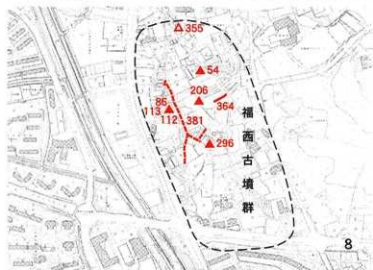
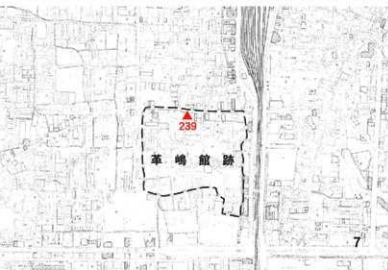
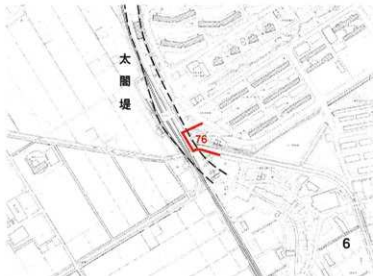
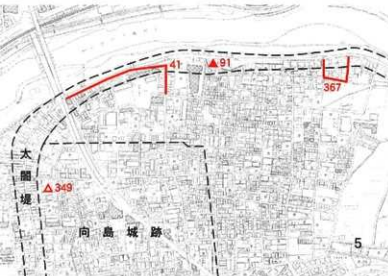
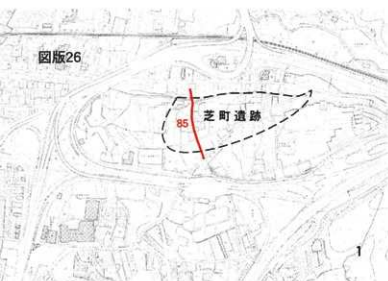














平安宮朝堂院跡、聚楽遺跡 (06HQ185) 全景 (東から)



平安宮朝堂院跡、聚楽遺跡 (06HQ185) 断面  
(北西から)



平安宮朝堂院跡、聚楽遺跡 (06HQ185) 土壁  
(南西から)



植物園北遺跡 (06RH234) 全景 (東から)



植物園北遺跡 (06RH234) 遺構検出状況 (部分、南から)



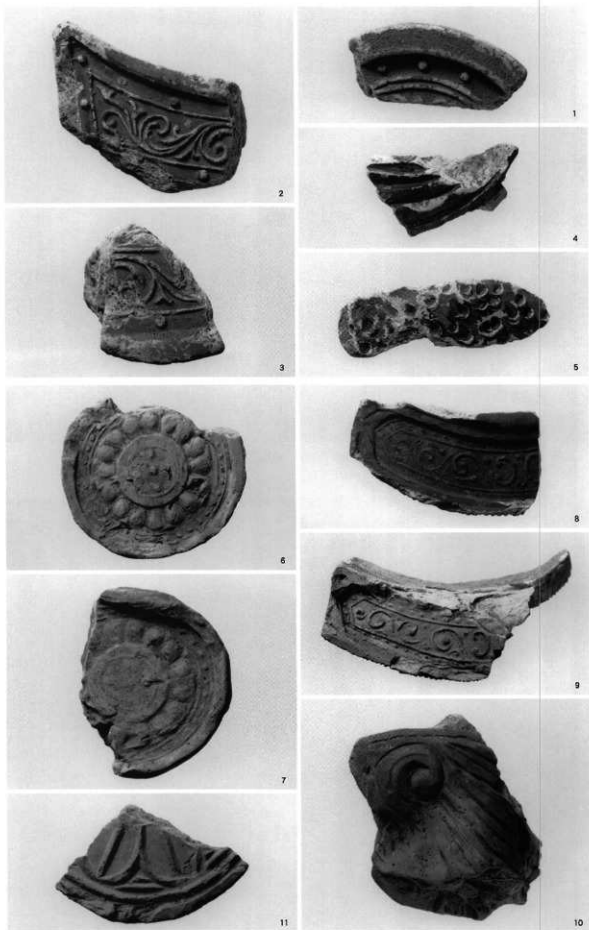
法住寺殿跡、六波羅政庁跡、方広寺跡 (06RT409) 全景 (南から)



法住寺殿跡、六波羅政庁跡、方広寺跡 (06RT409)  
土壙2 (北東から)



法住寺殿跡、六波羅政庁跡、方広寺跡 (06RT409)  
南北溝 (北から)



1～5 平安宮朝堂院跡、聚楽遺跡 (06HQ185)

6～11 平安宮朝堂院跡、聚楽遺跡 (06HQ350)



平安京左京三条四坊十二町 (06HL107) 土壘1西壁下層出土遺物

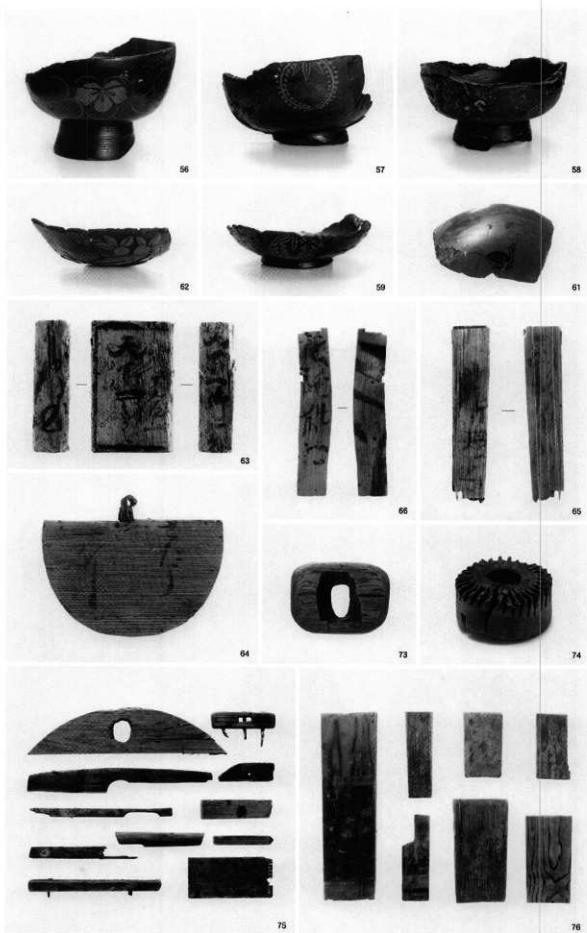




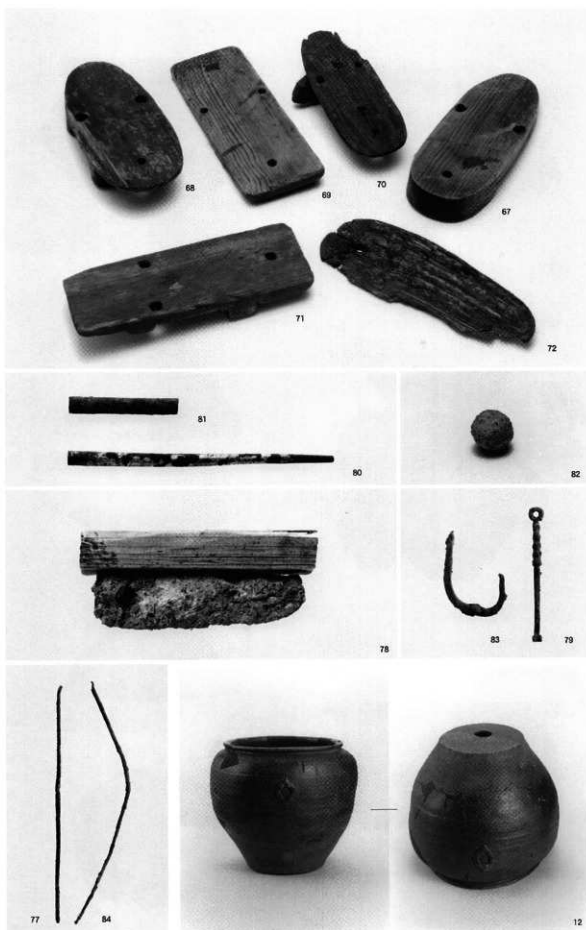
平安京左京三条四坊十二町 (06HL107) 土壇1西壁下層出土遺物



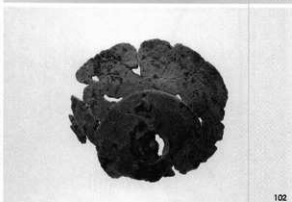
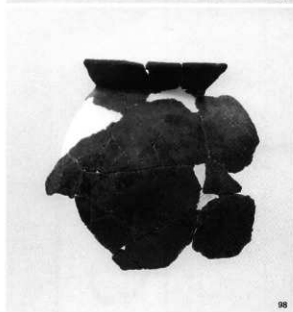
平安京左京三条四坊十二町 (06HL107) 土壙 1 出土遺物



平安京左京三条四坊十二町 (06HL107) 土壇1出土遺物



67~72・77~84 平安京左京三条四坊十二町 (06HL107)  
12 平安京左京一条三坊十一町 (05HLA10)



## 京都市内遺跡立会調査報告

平成18年度

発行日 2007年3月31日  
発行 京都市文化市民局  
住所 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488  
編集 (財)京都市埋蔵文化財研究所  
住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1  
〒602-8435 Ⅸ 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>  
印刷 三星商事印刷株式会社

